

介護現場の生産性向上に向けた  
介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業

事業報告書

令和6年3月

厚生労働省

# 目次

第1章 事業概要 .....	1
第1節 背景と目的.....	1
第2節 事業概要.....	1
第3節 実行体制.....	2
第2章 相談窓口における取組について .....	6
第1節 相談窓口設置の目的.....	6
第2節 相談窓口における取組.....	6
第3節 各相談窓口の概要.....	7
第4節 各取組について.....	10
第3章 リビングラボにおける取組について.....	86
第1節 リビングラボ設置の目的.....	86
第2節 リビングラボにおける取組.....	86
第3節 各リビングラボの概要 .....	87
第4節 各取組について.....	97
第4章 ニーズ・シーズマッチング支援事業について.....	108
第1節 マッチング支援事業の目的と支援内容.....	108
第2節 ニーズリストの公開.....	111
第3節 マッチング支援の実績.....	114
第4節 マッチング検討会 .....	124
第5節 介護分野の歩き方.....	126
第5章 地域における生産性向上の取組に関する支援事業.....	129
第1節 地域における生産性向上の取組に関する支援事業(中央管理事業)について..	129
第2節 介護生産性向上総合相談センターの設置促進等に関する取組.....	135
第3節 介護生産性向上総合相談センターへの支援の実施に関する取組.....	144
第6章 相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議について.....	146
第1節 目的 .....	146
第2節 実施内容.....	146
第7章 周知活動 .....	150
第1節 ホームページの設置・運用.....	150
第2節 事業パンフレットの作成・配布 .....	156
第3節 国際福祉機器展への出展 .....	158
第4節 ニーズ・シーズマッチングセミナーの開催.....	168
第5節 セミナー・メディア等における当事業の周知実績 .....	170
第8章 まとめ.....	172

第1節	事業成果.....	172
第2節	今後必要と考えられる取組.....	175

## 第1章 事業概要

### 第1節 背景と目的

日本の高齢化は、世界に例を見ない速度で進行しており、介護ニーズが増加する一方、労働力人口が減少する状況下で、介護サービスの質の確保を図りながら、介護職員の働く環境改善を推進することは重要である。

このような中、「介護職員の働く待遇改善に向けた政策パッケージ」(令和4年12月23日厚生労働省策定・全世代型社会保障構築会議決定)においても、「持続的な介護職員の待遇改善を実現するためには、個々の事業者における経営改善やそれに伴う生産性の向上が必要であり、具体的には、取組の横展開や働きかけの強化等、総合的に取り組むことが重要」と言及されており、具体的政策として、総合的・横断的な支援が述べられている。

現在、介護ロボットやICT等のテクノロジーの活用は、生産性向上の取組における効果的な手段として、様々な主体により取り組まれており、今後さらにその活用を推進するためには、介護現場のニーズをふまえた技術開発、介護現場へのテクノロジーの周知・体験機会の創出、テクノロジーを活用した介護技術・業務改善方法の構築等、開発・導入・普及・活用それぞれの段階で必要な取組を実施していくことが重要である。

本事業では、地域における介護ロボットの開発から活用までの相談窓口(地域拠点)(以下、「相談窓口」という。)を設置するほか、介護ロボットの製品化にあたっての評価・効果検証を実施するリビングラボのネットワークを形成するとともに、実証フィールドを整備することにより、介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォームを構築し、企業による技術開発の促進を目的に、エビデンスデータを蓄積するとともに、周知を図り、介護ロボットの開発・普及を加速化する。

また、併せて、令和5年度当初予算において立ち上げる、地域医療介護総合確保基金を活用した「介護生産性向上推進総合事業」等、都道府県が主体となった介護現場の生産性向上の取組について、支援を実施する。

### 第2節 事業概要

本事業の事業内容を以下に示す。

- ・ 相談窓口
  - ① 相談窓口の設置
  - ② 介護ロボットの体験展示
  - ③ 介護ロボットの試用貸出
  - ④ 介護ロボットの導入支援活動
  - ⑤ 担当区域内でのネットワーク構築(協議会)
- ・ リビングラボネットワーク
  - ① 介護ロボットの製品評価・効果検証
  - ② 介護ロボットの効果検証に係る助言
  - ③ 効果測定事業に係る助言

- ・ 事務局
- ① 相談窓口、リビングラボネットワークの活動支援
- ② ニーズ・シーズマッチング支援事業の実施
- ③ 地域における生産性向上の取組に関する支援(中央管理事業)

### 第3節 実行体制

本事業の実施体制は、全国 17 か所の相談窓口、全国 8 か所の基幹型リビングラボおよび 7 か所の支援型リビングラボ、厚生労働省および事務局からなる。

#### (1) 相談窓口

開設の準備を行っている公益財団法人介護労働安定センター鳥取支部含め、本事業にて設置した相談窓口は下記 17 か所である。

名称	所在地
社会福祉法人 北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター	〒060-0006 北海道札幌市中央区北 6 条 西 16 丁目 1 番地 5 ほくたけビル
社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター	〒030-0822 青森県青森市中央 3 丁目 20 -30
公益財団法人 いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	〒020-0015 岩手県盛岡市本町通 3 丁目 19-1 岩手県福祉総合相談センター3 階
新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口	〒950-0992 新潟県新潟市中央区上所 2- 2-2 新潟ユニゾンプラザ 1F
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介 護ロボット相談・活用センター	〒320-0072 栃木県宇都宮市若草 1-10-6 とちぎ福祉プラザ1階
社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ 谷 4-2-65
社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業 団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口	〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山 町 1770
社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 介護実習・普及センター	〒930-009 富山県富山市安住町 5 番 21 号
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センタ ー 健康長寿支援ロボットセンター	〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430
ATC エイジレスセンター 介護ロボット相談窓口	〒559-0034 大阪府大阪市住之江区南港 北 2 丁目 1-10 ATC ビル ITM 棟 11F
社会福祉法人 健祥会	〒779-3105 徳島県徳島市国府町東高輪

徳島県介護実習・普及センター	字天満 356 番地 1
公益財団法人 介護労働安定センター 鳥取支部(準備中)	〒680-846 鳥取県鳥取市扇町 116 田中ビル 2 号館 2 階
一般社団法人 日本福祉用具供給協会 広島県ブロック	〒731-0124 広島県広島市安佐南区大町東 1-18-44
愛媛県介護実習・普及センター	〒790-8553 愛媛県松山市持田町三丁目 8 番 15 号 愛媛県総合社会福祉会館内
九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借一丁目 7-1 総合保健福祉センター1 階
社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター	〒870-0161 大分県大分市明野東 3 丁目 4 番 1 号
鹿児島県介護実習普及センター	〒892-0816 鹿児島市山下町 14-50 かごしま県民交流センター内

## (2)リビングラボ

本事業で選定した基幹型リビングラボは以下 8 か所である。

名称	所在地
東北大学青葉山リビングラボ	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01 東北大学大学院工学研究科機械系共同棟 5 階
Care Tech ZENKOUKAI Lab (社会福祉法人 善光会 サンタフェ総合研究所)	〒144-0033 東京都大田区東糞谷六丁目 4 番 17 号
Future Care Lab in Japan (SOMPO ホールディングス(株)、SOMPO ケア(株))	〒140-0002 東京都品川区東品川 4-13-14 グラスキューブ品川 10 階
柏リビングラボ (国立研究開発法人産業技術総合研究所)	〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 6-2-3 東京大学柏 II キャンパス内 社会イノベーション棟
藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター	〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地 98 藤田医科大学病院内
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター	〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430
ロボット活動支援機器実証センター (吉備高原医療リハビリテーションセンター)	〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 7511

スマートライフケア共創工房 (国立大学法人 九州工業大学)	〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの2-5 情報技術高度化センター
----------------------------------	---

また、支援型リビングラボは以下7か所である。

名称	所在地
社会福祉法人 孝徳会 特別養護老人ホーム サポートセンター門司	〒800-0064 福岡県北九州市門司区松原1丁目3-8
社会福祉法人 こうほうえん	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1400
公益社団法人 全国老人保健施設協会	〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル6階
東北福祉大学 社会福祉法人東北福祉会 せんだんの杜	〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1 〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ケ丘七丁目141番地9
徳島文理大学	〒769-2193 香川県さぬき市志度1314-1
北陸大学	〒920-1180 石川県金沢市太陽が丘1-1
株式会社 ベネッセスタイルケア	〒160-0023 東京都新宿区西新宿 2-3-1 新宿モリスビル5F

### (3) 厚生労働省

本事業における厚生労働省担当者は以下の通りである。

氏名	所属
佐々木 憲太	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官
早川 慎	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット専門官
兼子 雄	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 主査

### (4) 事務局担当者

本事業における事務局担当者は以下の通りである。

氏名	所属・役職
足立 圭司	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 先端技術戦略ユニット アソシエイトパートナー

大塚 恒治	同 マネージャー
平良 未来	同 シニアコンサルタント
小松 夢希子	同 シニアコンサルタント
太刀川 遼	同 シニアコンサルタント
山内 勇輝	同 シニアコンサルタント
川北 篤史	同 コンサルタント
永田 拓磨	同 コンサルタント

## 第2章 相談窓口における取組について

### 第1節 相談窓口設置の目的

介護ロボットの開発及び普及に係る課題解決を目的として、各地域において、介護現場及び開発企業双方が抱える課題についての相談を受け付ける窓口を全国に17か所設置した。

### 第2節 相談窓口における取組

相談窓口においては、相談業務、体験展示、試用貸出の3つの取組に加え介護ロボットの効果的な導入・活用に係る研修会、介護ロボットを導入しようとする介護施設に対する伴走支援及び地域のネットワーク構築を図る協議会について実施した。また、各地域の実情に応じ、各相談窓口において、介護ロボットの普及促進を図るための取組を実施した。

#### (1) 相談業務

介護現場(ニーズ)及び開発企業(シーズ)双方が抱える、介護ロボットの開発・実証・普及に関する課題が十分に解決されるよう、各種相談に応じるとともに、必要に応じてリビングラボへの取次を行うなどの相談対応を実施した。

#### (2) 体験展示

介護現場や一般の方に介護ロボットを周知することを目的に、体験展示場を整備した。

なお、介護現場の方が現場での活用場面をイメージできるよう、介護ロボットを展示するのみでなく、実際に触れて使用できる環境を整備した。

#### (3) 試用貸出

介護ロボットを導入する前に、自分たちの介護現場での使用感を確認してもらうことを目的として介護現場への試用貸出を実施した。

#### (4) 介護ロボットの効果的な導入・活用に係る研修会

「令和3年度介護ロボット等の効果測定事業一式」(厚生労働省委託事業)において作成された「介護ロボット導入のパッケージモデル」(以下、「パッケージモデル」という。)の普及を目的とした研修会を実施し、パッケージモデルでまとめられた、現場の課題とそれに応じた介護ロボットの選定、介護ロボット導入時の留意事項、介護ロボット導入による効果等について説明した。

#### (5) 介護ロボットを導入しようとする介護施設に対する伴走支援

各相談窓口の担当区域内の介護ロボットを導入しようとする介護施設に対し、当該施設における課題を踏まえた適切な介護ロボット選定に関する助言、介護ロボットの導入に当たっての施設内のオペレーション変更に関する助言、職員に対する研修等の実施に関する助言、介護ロボット導入による効果の把握、取組の見直しに関する助言等による導入支援(伴走支援)を行った。

(6) 地域のネットワーク構築を図る協議会

各相談窓口が担当する都道府県の担当部署や当該都道府県において介護ロボットの導入に先進的に取り組んでいる介護事業所、地域の関係業界団体を構成員とした協議会を各窓口1回以上開催し、各構成員の取組、地域の状況等に係る情報の共有、本事業への要望等に関する意見聴取等を行い、地域のネットワークの構築を図った。

第3節 各相談窓口の概要

(1) 相談窓口の設置

下表の通り全国 17 か所に相談窓口を設置した。

図表 2-1 各相談窓口の所在地と担当エリア

相談窓口名	所在地	担当エリア
(福)北海道社会福祉協議会 北海道社会福祉協議会	北海道札幌市中央区北 6条西16丁目1番地5 ほくたけビル	北海道
(福)青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及 センター	青森県青森市中央3丁 目20-30	秋田県
(公財)いきいき岩手支援財団岩 手県高齢者総合支援センター	岩手県盛岡市本町通3 丁目19-1 岩手県福祉総合相談セ ンター3階	岩手県、宮城県、山形県、 福島県
新潟県福祉機器展示室 介護ロボ ット相談窓口	新潟県新潟市中央区上 所 2-2-2 新潟ユニゾン プラザ 1F	新潟県、群馬県、長野県
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用 センター	栃木県宇都宮市若草 1- 10-6 とちぎ福祉プラザ1 階	茨城県、栃木県
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	埼玉県さいたま市浦和区 針ヶ谷 4-2-65	埼玉県、千葉県
(社)横浜市リハビリテーション事業 団 横浜市総合リハビリテーションセン ター 介護ロボット相談窓口	神奈川県横浜市港北区 鳥山町 1770	東京都、神奈川県、山梨 県
(福)富山県社会福祉協議会 富山県介護・実習普及センター	富山県富山市安住町 5 番 21 号	富山県、石川県、岐阜県、 福井県
(国研)国立長寿医療研究センタ ー 健康長寿支援ロボットセンター	愛知県大府市森岡町 7- 430	静岡県、愛知県、三重県、
ATC エイジレスセンター 介護ロボ ット相談窓口	大阪府大阪市住之江区 南港北2丁目1-10 ATCビル ITM 棟 11F	大阪府、京都府、滋賀県、 奈良県、和歌山県

相談窓口名	所在地	担当エリア
(社福)健祥会 徳島県介護実習・普及センター	徳島県徳島市国府町東高輪字天満 356 番地 1	徳島県、香川県
愛媛県介護実習・普及センター	愛媛県松山市持田町三丁目 8 番 15 号 愛媛県総合社会福祉会館内	愛媛県、高知県
(公財)介護労働安定センター鳥取支部	鳥取県鳥取市扇町 116 田中ビル 2 号館 2 階	窓口準備中
(一社)日本福祉用具供給協会広島ブロック	広島県広島市安佐南区大町東 1-18-44	岡山県、鳥取県、島根県、広島県、山口県
九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター	福岡県北九州市小倉北区馬借一丁目 7-1 総合保健福祉センター1階	福岡県、佐賀県、長崎県
社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター	大分県大分市明野東 3 丁目 4 番 1 号	大分県、宮崎県
鹿児島県介護実習普及センター	鹿児島市山下町 14-50 かがしま県民交流センター内	熊本県、鹿児島県、沖縄県

## (2)業務アドバイザーの選定

各相談窓口において、より専門的な相談に対応できる体制とするため、全ての相談窓口介護ロボットに関する専門的知見を有する業務アドバイザーを配置した。

図表 2-2 各相談窓口の業務アドバイザー(敬称略)

相談窓口名	業務アドバイザー
(福)北海道社会福祉協議会 北海道社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 株式会社マルベリー 上西 丈夫 初山 祐歳 工藤 博</li> </ul>
(福)青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 株式会社 TRAPE</li> </ul>
(公財)いきいき岩手支援財団岩手県 高齢者総合支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 公益財団法人いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター 玉山 公一</li> <li>➤ 株式会社 TRAPE</li> </ul>
新潟県福祉機器展示室 介護ロボット 相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ あおやまメディカル株式会社 稲毛 将人</li> </ul>

相談窓口名	業務アドバイザー
	五十嵐 行雄
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ とちぎノーマライゼーション研究会 理事長 伊藤 勝規</li> <li>➤ 安全なケア研究所 上田 喜敏</li> </ul>
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 株式会社シェアサポート 大内 英之</li> </ul>
(社)横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コニカミノルタ株式会社 掃部 幸一</li> <li>➤ 株式会社 TRAPE</li> </ul>
(福)富山県社会福祉協議会 富山県介護実・実習普及センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 富山大学 芸術文化学部 客員准教授 富山市角川介護予防センター 中林 美奈子</li> <li>➤ 株式会社 TRAPE</li> </ul>
(国研)国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 名古屋市総合リハビリテーションセンター 鈴木 光久 富板 充</li> <li>➤ 株式会社 TRAPE</li> </ul>
ATC エイジレスセンター 介護ロボット 相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ (株)シーエフロボタス 逢坂 大輔</li> <li>➤ 株式会社介祉塾 砂 亮介</li> </ul>
(社福)健祥会 徳島県介護実習・普及センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 社会福祉法人健祥会 岸 拓司 佐山 育矢</li> </ul>
愛媛県介護実習・普及センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 聖カタリナ大学 守谷 理佐</li> <li>➤ 株式会社 TRAPE</li> </ul>
(一社)日本福祉用具供給協会広島 ブロック	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 一般社団法人 日本福祉用具供給協会中国支部 広島県ブロック 神田 久司</li> <li>➤ 株式会社 TRAPE</li> </ul>
九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 麻生教育サービス株式会社 安部 千秋</li> </ul>

相談窓口名	業務アドバイザー
	岡本 菜生子
社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 大分県社会福祉介護研修センター</li> <li>小原 裕一</li> <li>清成 省吾</li> </ul>
鹿児島県介護実習普及センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 鹿児島大学医学部保健学科作業療法学専攻 吉満 孝二</li> <li>➤ 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科 藤田 賢太郎</li> </ul>

## 第4節 各取組について

### 第1項 相談業務

(1)介護現場(ニーズ側)への介護ロボットの導入方法や活用方法の紹介及び助言

図表 2-3 介護現場(ニーズ側)相談で使用した資料

#	資料名	紹介内容
<b>介護ロボット導入方法全般の紹介</b>		
1	介護ロボットの効果的な活用のための手引き	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 厚労省による事業で作成された手引き</li> <li>➤ 介護ロボット(6分野13項目)の説明や、介護ロボット導入にあたっての基本的な考え方が記されている。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000654358.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000654358.pdf</a></p>
2	生産性向上に資するガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 厚労省による事業で作成されたガイドライン</li> <li>➤ 業務改善の考え方、業務改善に向けた標準ステップ・ツール等が示されている。(施設サービス分/居宅サービス分/医療系サービス分の3パターン存在)</li> </ul> <p style="text-align: center;"><a href="https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/tool/index.html">https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/tool/index.html</a></p>
3	介護ロボットのパッケージ導入モデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 厚労省による事業で作成された介護ロボット取組事例集</li> <li>➤ 各施設・事業所が抱える課題を抽出し、「改善策の取組」の手段(ツール)として介護ロボットの導入・活用を通じて得られた効果などを取組事例としてまとめている。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001126070.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001126070.pdf</a></p>
4	(経営者層向け)職員がいきいきと働く職場に向けた取組み-生産性向上に取り組む経営者の	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 厚労省による事業で作成され、生産性向上に取り組む経営者を纏めた資料。経営者の目線で見ると生産性向上の取組み事例や、テクノロジーを導入したことによる成果が紹介されている。</li> </ul>

	声-	<a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/R4_keieisou_leaflet.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/R4_keieisou_leaflet.pdf</a>
5	介護分野における生産性向上ポータルサイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 厚労省により作成された、生産性向上に関する取り組みに活用可能な各種ツールや、業務の改善活動の支援・促し役、取り組み事例等を紹介するポータルサイト</li> </ul>
		<a href="https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/index.html">https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/index.html</a>
<b>介護ロボット具体例の紹介</b>		
6	ロボット介護機器開発・導入促進事業 製品化機器一覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ AMED によるロボット介護機器の開発・導入促進事業</li> <li>➤ 開発企業等に対して補助を行うと共に、介護現場への導入に必要な基準作成等の環境整備を行うことが目的</li> <li>➤ 製品化機器一覧には、6 分野 20 事例が紹介されている。</li> </ul>
		<a href="https://robotcare.jp/data/news/list2019_10ver1.pdf">https://robotcare.jp/data/news/list2019_10ver1.pdf</a>
7	介護ロボット導入活用事例集 2017～2022	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 厚労省による事業で作成された事例集</li> <li>➤ 介護ロボットの概要、導入事例、機器導入による介護業務の変化等、6 年分で約 80 の事例が掲載されている。</li> </ul>
		<a href="https://www.techno-aids.or.jp/robot/file04/jirei2022.pdf">https://www.techno-aids.or.jp/robot/file04/jirei2022.pdf</a> <a href="https://www.techno-aids.or.jp/robot/file03/jirei2021.pdf">https://www.techno-aids.or.jp/robot/file03/jirei2021.pdf</a> <a href="http://www.techno-aids.or.jp/robot/file02/jirei2020.pdf">http://www.techno-aids.or.jp/robot/file02/jirei2020.pdf</a> <a href="http://www.techno-aids.or.jp/robot/file01/jirei2019.pdf">http://www.techno-aids.or.jp/robot/file01/jirei2019.pdf</a> <a href="http://www.techno-aids.or.jp/robot/file30/jirei2018.pdf">http://www.techno-aids.or.jp/robot/file30/jirei2018.pdf</a> <a href="http://www.techno-aids.or.jp/robot/file29/jirei2017.pdf">http://www.techno-aids.or.jp/robot/file29/jirei2017.pdf</a>
8	介護現場で活用されるテクノロジー便覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 厚労省による事業で作成された介護ロボットをはじめとする様々な製品に関する便覧</li> <li>➤ 介護現場がテクノロジーの導入活用を検討する際に参考となるよう、国内で活用される介護テクノロジー102 製品を掲載している。</li> </ul>
		<a href="https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/r03_add16_02jigyohokokusho.pdf">https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/r03_add16_02jigyohokokusho.pdf</a>
9	体験展示施設一覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 担当エリア内の介護ロボットの体験展示が可能な施設の整理収集を行い一覧化</li> </ul>
		※ 各相談窓口にて作成
<b>介護ロボット導入に関する補助金等の紹介</b>		
10	購入補助金/基金等の一覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 介護ロボットの導入において利用可能な補助金、基金等の一覧</li> </ul>
		➤ 事務局にて取りまとめの上、展開

11	福祉貸与事業融資のご案内	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤福祉貸与事業概要、融資対象、融資の流れ、等</li> </ul> <a href="https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/kashitsuke/">https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/kashitsuke/</a>
<b>モデル事業/モデル施設の紹介</b>		
12	介護技術開発支援モデル事業成果報告書 H27-H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 厚労省によるモデル事業として介護ロボットを導入した施設の、介護ロボット導入における取組が紹介されている。</li> <li>➤ 2カ年分で10施設</li> </ul> <a href="http://www.techno-aids.or.jp/robot/file28/04modelwork27hosei.pdf">http://www.techno-aids.or.jp/robot/file28/04modelwork27hosei.pdf</a> <a href="http://www.techno-aids.or.jp/robot/file28/05modelwork28.pdf">http://www.techno-aids.or.jp/robot/file28/05modelwork28.pdf</a>
13	見学可能モデル施設情報一覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 各地域のモデル施設の整理収集を行い、一覧化</li> <li>➤ 一覧を基に、見学できるよう取り次ぐ。</li> </ul> <p>※ 各相談窓口にて作成</p>
<b>本事業の紹介</b>		
14	事業紹介パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本事業概要、相談窓口の取組、リビングラボの取組</li> <li>➤ 相談に当たっての Q&amp;A、成果紹介 等</li> </ul> <a href="https://www.kaigo-pf.com/media/pamphlet_202310.pdf">https://www.kaigo-pf.com/media/pamphlet_202310.pdf</a>
15	リビングラボの活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 各リビングラボのホームページ・パンフレット等</li> </ul> <p>※ 事務局にて取りまとめの上、展開</p>

(2) 開発企業(シーズ側)への開発・実証・普及方法の紹介

図表 2-4 開発企業(シーズ側)相談で使用した資料

#	資料名	紹介内容
<b>介護ロボットの開発方法に関する紹介</b>		
1	介護ロボット開発への補助金一覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 助成制度名、助成対象、助成額、問合せ先等</li> </ul> <p>※ テクノエイド協会にて取りまとめの上、展開</p>
<b>介護ロボットの实証方法に関する紹介</b>		
2	リビングラボ対応可能事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ リビングラボ名称、対応可能内容等</li> </ul> <p>※ 事務局にて取りまとめの上、展開</p>
3	試作機器へのアドバイス支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ テクノエイド協会が実施する試作機器のアドバイス事業へ取り次ぐ。</li> </ul> <a href="https://www.techno-aids.or.jp/robot/file05/01boshu_kigyo.pdf">https://www.techno-aids.or.jp/robot/file05/01boshu_kigyo.pdf</a>
<b>介護ロボットの普及方法に関する紹介</b>		
4	介護ロボット地域フォー	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 当フォーラムへの出展方法</li> </ul>

	ラムパンフレット/HP 等	▶ 当フォーラムの実施スケジュール 等 ※ 事務局にて取りまとめの上、展開
5	SNS 活用	▶ 相談窓口で企画した SNS 上での介護ロボットの PR ※ SNS での公開前に、事務局の確認を取る事
<b>本事業の紹介</b>		
6	事業紹介パンフレット	▶ 本事業概要、相談窓口の取組、リビングラボの取組 ▶ 相談に当たった Q&A、成果紹介 等 ※ 事務局にて取りまとめの上、展開
7	ニーズ・シーズ連携協調 協議会での成果	▶ 各協議会からの報告内容 <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000765217.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000765217.pdf</a> <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000212398_00005.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000212398_00005.html</a>
8	リビングラボの活動	▶ 各リビングラボのホームページ・パンフレット等 ※ 事務局にて取りまとめの上、展開

### (3) 製品評価・効果検証に係る相談のリビングラボへの取次

開発企業から、リビングラボでの製品評価・効果検証の実施に関する依頼、または助言の要望を受けた場合、内容に応じ、必要な設備や知見を有するリビングラボへ取り次いだ。

### (4) 実績

#### 1) 相談窓口の相談受付件数

全相談窓口における相談受付件数は以下の通りであった。

**図表 2-5 相談対応数**

介護現場からの 相談対応数	1,080 件
開発企業からの 相談対応数	350 件

#### 2) 相談の概要及び満足度

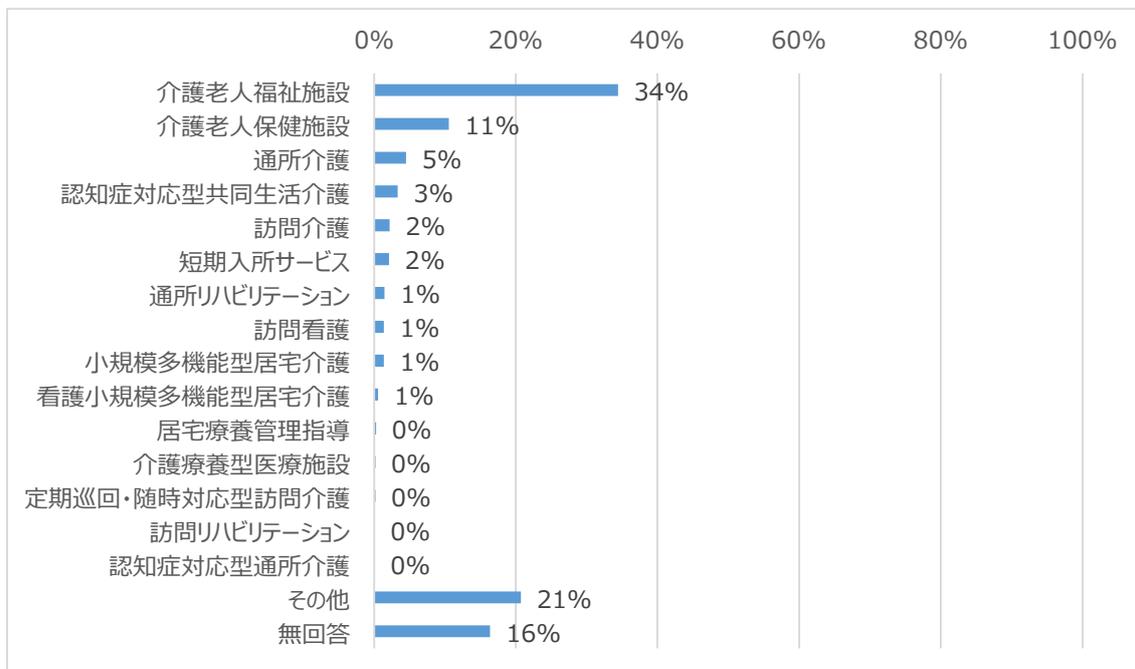
相談業務においては、相談者が希望する相談内容をヒアリングの上、必要な情報の提供や助言を行った。また、相談後には相談対応における満足度のアンケートを実施した。以下、相談者の属性や相談内容、および相談対応における満足度を示す。

a)介護現場からの相談の概要及び満足度

➤ 相談者が所属する介護サービス事業所の種別

図表 2-6 相談者が所属する介護サービス事業所の種別

n=1080



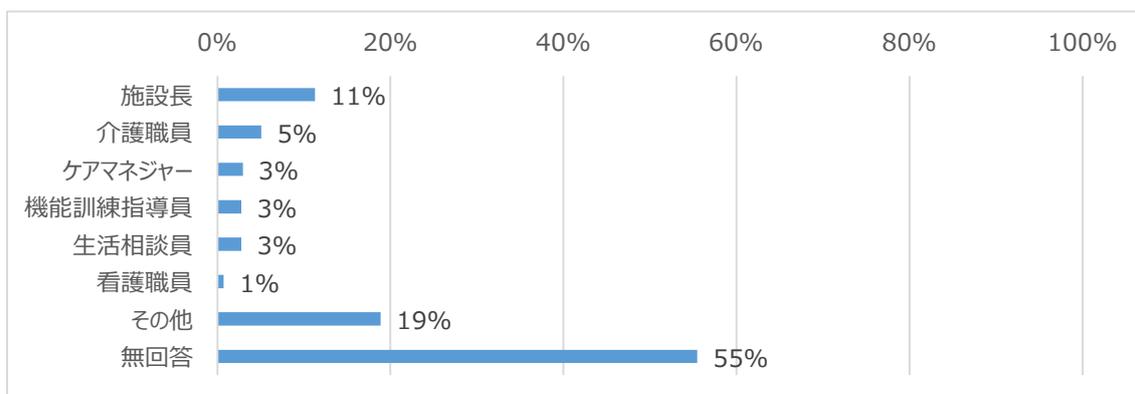
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 特定施設入居者生活介護、障害者支援施設、居宅介護支援事業所、介護付き有料老人ホーム、介護医療院、病院、自治体

➤ 相談者の職種

図表 2-7 相談者の職種

n=1080



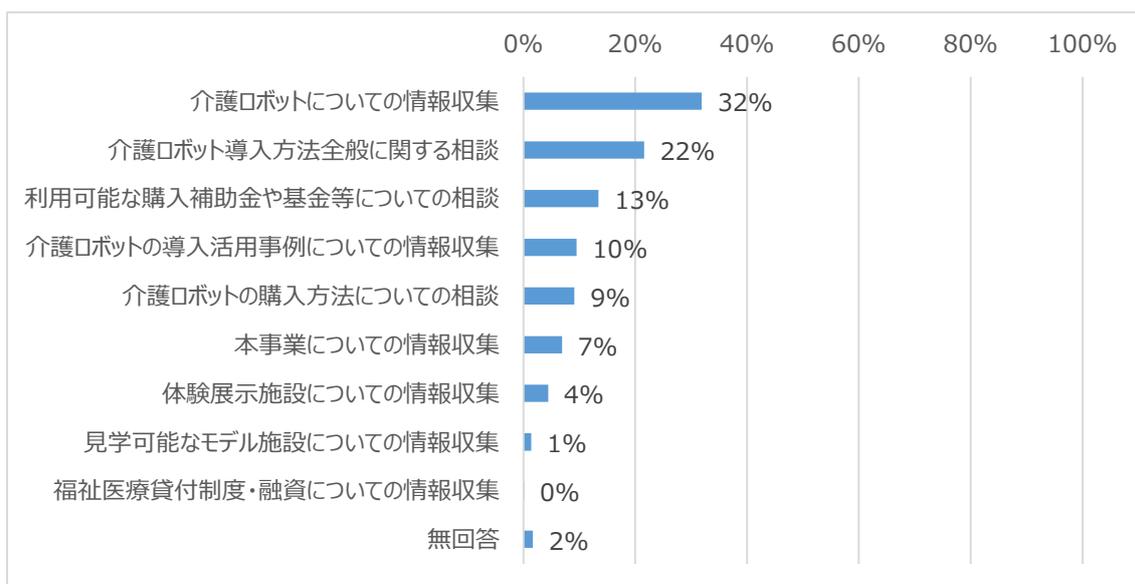
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 代表取締役、事務局長、管理職、事務長、事務職員、法人本部職員
- ・ 作業療法士、教員、医師、福祉用具専門相談員、理学療法士

➤ 相談内容

図表 2-8 相談内容

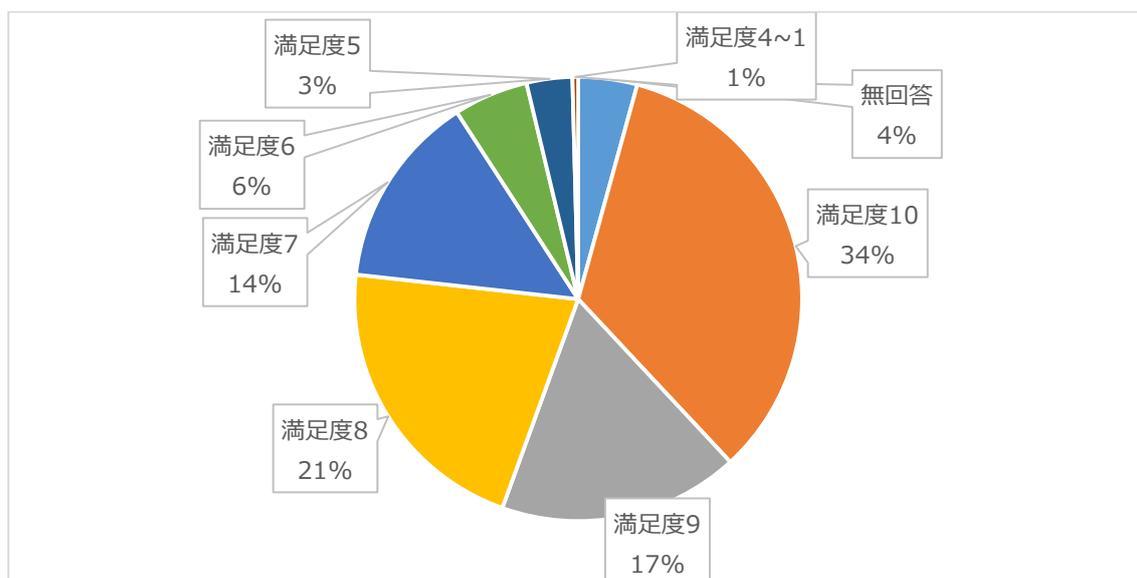
n=1080(複数回答)



➤ 相談対応における満足度

図表 2-9 満足度(満足度が高いほど、点数が高い)

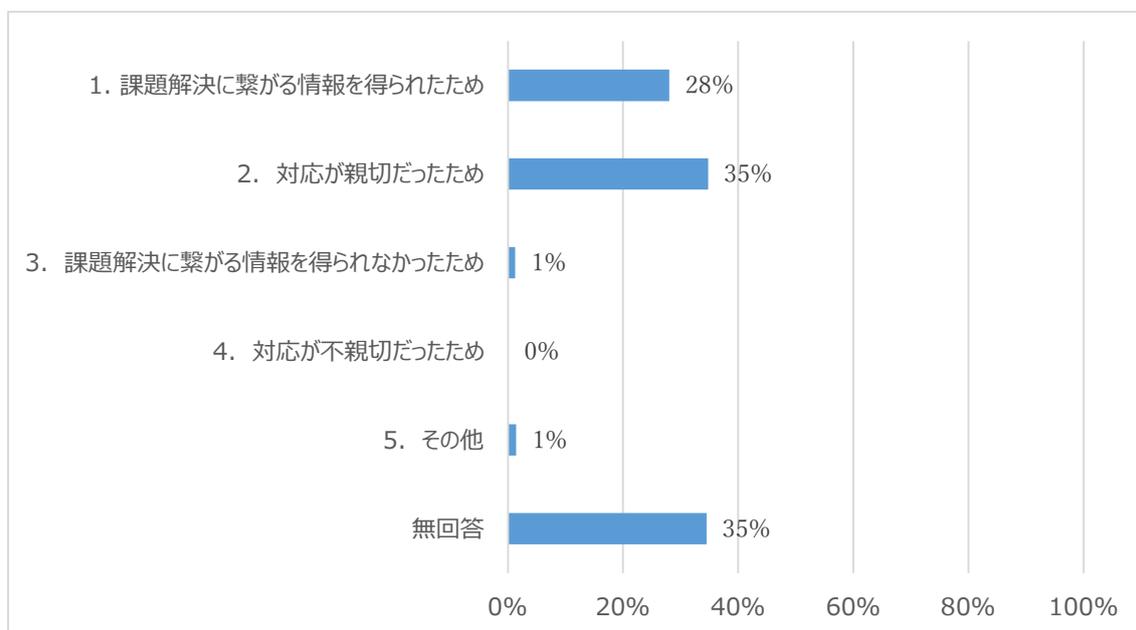
n=940



➤ 相談対応における満足度の理由

図表 2-10 満足度の理由

n=940(複数回答)



「その他」の内容(抜粋)

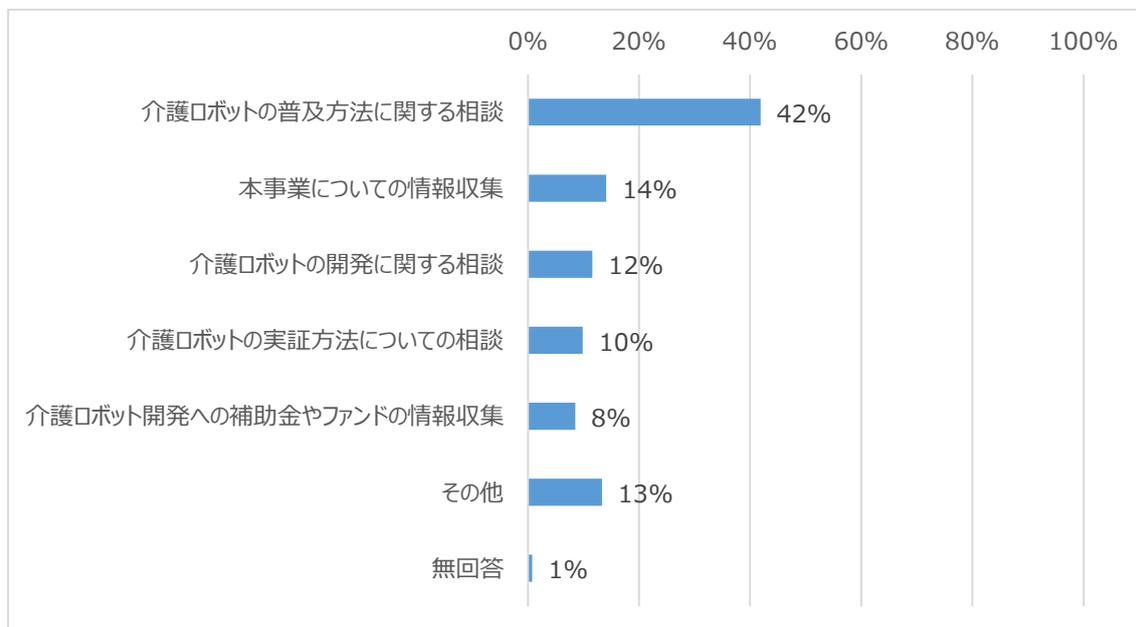
- ・ 途中参加であったため
- ・ 物価高騰等あり導入経費が捻出できない、現場の理解必要
- ・ 様々な介護ロボットがあることを知ることができたため

b)開発現場からの相談の概要及び満足度

➤ 相談内容

図表 2-11 相談内容

n=350(複数回答)



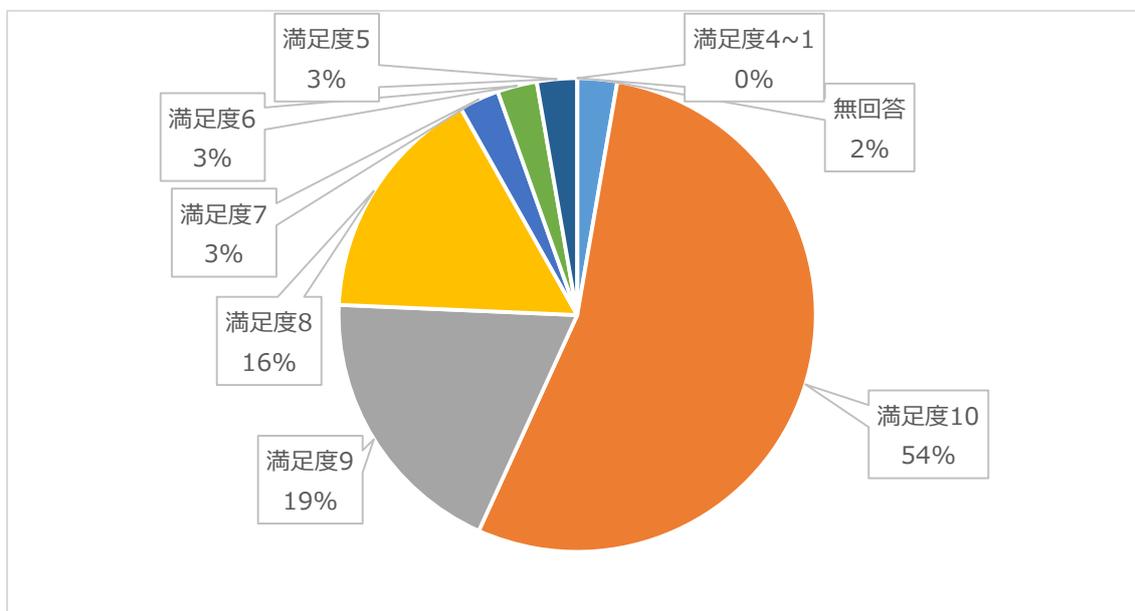
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 介護ロボットに関する情報収集
- ・ 相談窓口における介護ロボットの体験展示に関する相談
- ・ 介護ロボット導入補助金について
- ・ リビングラボへの取次について

➤ 相談対応における満足度

図表 2-12 満足度(満足度が高いほど、点数が高い)

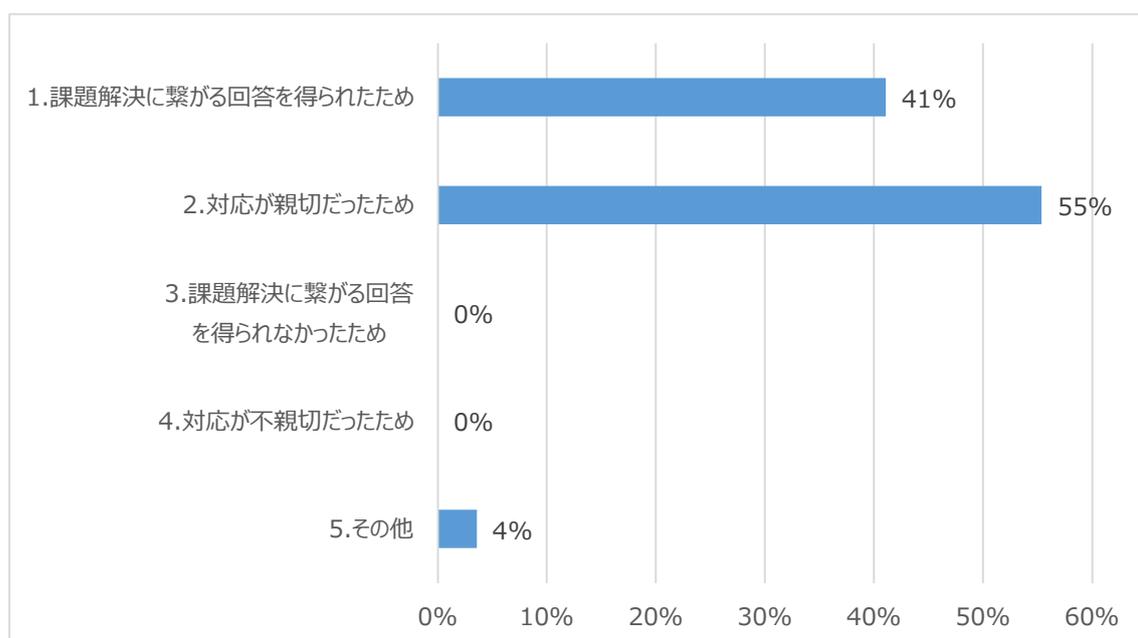
n=37



➤ 相談対応における満足度の理由

図表 2-13 満足度の理由

n=37(複数回答)



### 3)各相談窓口における事例の紹介

#### ①介護現場からの相談の事例

##### ➤ 富山相談窓口

相談内容種別	介護ロボットの導入
ロボット分野	全般
相談内容詳細	3年後に施設の改修予定があり、介護ロボットも含めた ICT 環境の整備など、どう進めて良いか教えてほしい。また、施設が抱えている課題をどのような方法で進めて良いか見当もつかないため、今後どのように取り組むべきかなども含めて情報がほしい。
対応内容・結果	<p><b>【相談内容】</b> 介護ロボット導入にかかる情報収集・段取りについて</p> <p><b>【相談結果】</b> PF 事業全体についての説明をし、課題の洗い出しなどの手法をお話した。伴走支援などの取り組みへの情報提供を行い、介護ロボットの導入に当たっては、試用貸出などを利用して職員の士気が高まるような話し合いができるような雰囲気づくりをすすめ、委員会などリーダーシップを発揮し現場をリードしていくようなチームを形成していくなど、具体的な取り組み方法をご説明した。取組みの中でセンターを積極的に活用していただきたいと話した。</p>
相談者の声	相談の約 2 ヶ月後に AlgoSleep を試用されることとなり、相談対応が貸出に繋がった相談となった。
工夫点・気づき	最初から介護ロボットを進めるのではなく、まず導入にかかるチーム作りを促した。また、現状の課題を相談者に考えていただいたうえで、試用貸出、そして介護ロボットについての紹介を行った。

##### ➤ 新潟相談窓口

相談内容種別	移乗支援機器の運用についての相談
ロボット分野	移乗機器:リフト・パワースーツなど
相談内容詳細	移譲機器の選定、運用、学習についてどのようにすればよいかアドバイスがほしい。補助金の申請について教えてほしい
対応内容・結果	<p><b>【相談内容】</b> とにかく現場職員の「力」が低下し、体格の良い利用者様の移乗が怖い、腰への負担が限界。パワースーツ系、スタンドリフトなど検討している。使い方など</p>

	<p>外部講師を呼んだこともあるが、数人にしか伝わらないのでどうしたらよいか。それらの機器が補助金の対象になるかどうか不安。</p> <p><b>【相談結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移乗の場面と目的に応じて適切な機器は違う。リフトにも天井吊型だけでなくスタンディング型、門型があり、スリングシートを使うなどの工夫で活用範囲が広がることも。何も介護ロボに限らずスライディングボードの活用もある。</li> <li>・ パワースーツ系もメーカーによって機能や適する用途が違うので、値段だけで決めてはいけない。上下単純運動と左右ひねりのある動作では効果が違って来る。具体的にどのような動きをサポートしたいかを決めてから、それに適合するものを選ぶことが必要。</li> <li>・ 機器の利用方法の実践は、必要に応じてメーカーと相談しながら実施してもらうのも一案。</li> <li>・ 補助金は自治体によって違うので、県に具体的な目的や用途を明確にして問合せをした方がよい。</li> </ul>
相談者の声	<p>かなり機器や道具に関して自主的に探したり試したりしていたが、個々の機器の特徴に偏りがちだった。目的に応じた使い方や特徴の比較、総合的な視点からの機器選びのアドバイスを受けて「目から鱗」だった。</p>
工夫点・気づき	<p>機器の選定から相談を受けたが、使う場面や頻度、環境、さらに職員の体の動き方など細かい視点から問いかけをしたところ、必要な機能が絞れてきた。当初は機器の導入と使い方学習ありきで考えていたが、もしかしたら扱いにくい機器よりも簡易な道具と技術の習得の方が現実的かもしれない、という考えも出てきた。客観的な視点での問いかけは有効であると感じた。</p>

➤ 大阪相談窓口

相談内容種別	ニーズ相談
ロボット分野	見守り機器(AAMS)、インカム(クリアトークカム)
相談内容詳細	<p>現在使っている離床センサーの場合、鳴った時点で動いても手遅れになることが多いことや、夜勤の見回り巡回の時間が掛りすぎることが課題となっている。さらに夜勤の巡回時に各部屋のドアを開けると音がフロアに響くので、他の部屋の利用者を起こしてしまうことがある。これらの事情から改善が急務。</p> <p>顧客は富裕層が多いことや地域住民からの紹介も多い。そのため地域住民に先進的な施設であることをアピールすることで集客につなげたい。</p> <p>今年の3-4月に10名ほど大量離職があった。この反省から、職場環境を良くすることで離職率を下げたい。</p>

対 応 内 容 ・ 結 果	改善活動を全3フロアではなく、1フロアごとに行って、そこで得た知見をもとに他のフロアに横展開している。1フロアの運用が一段落したので、次のフロアでの運用を始めた。
相談者の声	業務アドバイザーからの事前アドバイスもあり、機器導入前にしっかり介護ロボットの導入目的や期待する効果を伝えることで不慣れなスタッフもいるが、比較的全員が前向きに取り組めている。
工夫点・気づき	<p>施設は、補助金申請から通常業務まで日々忙しい中で機器導入を行うことはそもそも大変な作業です。</p> <p>導入機器選定では、ある程度各施設の課題に合わせて機器リストを送り、各施設様に自分たちで機器を選んでもらいましたが、もう少し施設とともに機器選定から寄り添ってできればよかったなと感じています。</p> <p>また、メーカーと相談窓口とも連携を取りつつ導入していけるともっとスムーズなように感じた。</p>

## ②開発企業からの相談の事例

### ➤ 愛知相談窓口

相談内容種別	相談対応(開発企業)
ロボット分野	分野外(広義の排泄支援機器)
相談内容詳細	「自動ラップユニット」を搭載したおむつ回収機を、既に上市済み。介護ロボットリストへの掲載や、介護ロボット補助金の適応を希望しているが、どの自治体に相談しても対象とならないため、今後どのような方向性を目指すべきかご相談。
対 応 内 容 ・ 結 果	<p>排泄支援ロボット(排泄物処理)の定義は「排泄物の処理にロボット技術を活用した設置位置調節可能なトイレ」であり、例えロボット技術を活用していても、オムツ処理機は本定義に当てはまらないと各自治体で判断されていた。</p> <p>しかし、相談に対応した医療・介護職の観点からは、臨床的に十分に、清潔保持とスタッフの負担軽減をはかる効果があると思われた。</p> <p>現場ニーズはあるので、介護ロボット認定にこだわらず、低価格化や在宅向け戦略などを検討することをご提案。</p>
相談者の声	介護ロボット認定を受けるための方法模索(機能追加)しか検討されていなかった企業様にとって、新たな方向性を提示することができた。

工夫点・気づき	<p>現場ニーズは本来多岐にわたるものであり、開発重点分野はこれをカバーしきれていないので、今後改訂されていく可能性もある。</p> <p>よって既存の定義や前例にこだわらず、臨床的に有用な機器に対しては、支持的な対応をするよう努めることで、今後の開発を後押しできる可能性があると感じた。</p>
---------	--

## 第2項 体験展示

介護現場や一般の方に介護ロボットを周知するため、実際に触れて使用できる体験展示場を整備した。

なお、介護現場の方が現場での活用場面をイメージできるよう、介護ロボットを展示するのみでなく、実際に触れて使用できるものとした。各相談窓口で体験展示した介護ロボットは下表の通りである。

### (1) 各相談窓口の展示ロボット一覧

図表 2-14 各相談窓口の展示ロボット一覧

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
北海道相談窓口	移乗支援	レイボエクソスケルトン
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	ライブコネクト
	見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)
	入浴支援	バスアシスト®
青森相談窓口	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®T1
	移乗支援	スカイリフト
	移乗支援	移乗・移動ロボット Keipu
	移乗支援	AeroBack
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	ラップボン・エール
	排泄支援	ラップボン・プリーツS
	排泄支援	ヘルプパッド
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	見守り・コミュニケーション	見守りケアシステムM2

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	シオン	
	見守り・コミュニケーション シオン	シルエット見守りセンサ
	見守り・コミュニケーション シオン	見守り支援システム眠りスキャン
	見守り・コミュニケーション シオン	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション シオン	A.I.Viewlife
	見守り・コミュニケーション シオン	ペイシエントウォッチャープラス
	見守り・コミュニケーション シオン	まもる～のHOME
	見守り・コミュニケーション シオン	テントウボウシくん
	見守り・コミュニケーション シオン	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション シオン	e 伝之介くん
	見守り・コミュニケーション シオン	Qoobo-Petit Qoobo
岩手相談窓口	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy (フレアリー)
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug ®T1
	移乗支援	移乗です
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	見守り・コミュニケーション シオン	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション シオン	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	見守り・コミュニケーション シオン	シルエット見守りセンサ

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	見守り・コミュニケーション	e 伝之介くん
	その他	TANO
新潟相談窓口	移乗支援	移乗サポートロボット Hug@L1
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移動支援	リトルターン 電動アシスト付
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	ラップボン・プリオ
	排泄支援	スカットクリーン
	見守り・コミュニケーション	うららかGPSウォーク
	見守り・コミュニケーション	家族コール 3A・スマート
	見守り・コミュニケーション	みまもり CUBE
栃木相談窓口	見守り・コミュニケーション	オスカー
	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	移乗です
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	DFree Professional(※モックアップ)
	見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」	
見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』(チャピット)	

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
埼玉相談窓口	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	DARWING Hakobelude
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	レイボエクソスケルトン
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	見守り・コミュニケーション	見守り支援システム「いまイルモ」
	見守り・コミュニケーション	e 伝之介くん
	見守り・コミュニケーション	LASHIC-care
	見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」
	見守り・コミュニケーション	ペイシエントウォッチャープラス
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	うららか GPS ウォーク
	見守り・コミュニケーション	みまもり CUBU- システム Light
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	見守り・コミュニケーション	ペイシエントウォッチャープラス
見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)	
横浜相談窓口	移乗支援	移乗サポートロボット Hug T1
	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	移乗支援	レイボエクソスケルトン
	移乗支援	DARWING Hakobelude
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	排泄支援	ラップポン・エール2
	排泄支援	家具調トイレ セレクト R 自動ラップ
	見守り・コミュニケーション	眠り SCAN
	見守り・コミュニケーション	見守りケアシステムM2
	見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」
	見守り・コミュニケーション	シルエット見守りセンサ
	見守り・コミュニケーション	A.I.Viewlife
	見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション	見守り支援システム「いまイルモ」
	見守り・コミュニケーション	BOCCO emo LTE モデル
	見守り・コミュニケーション	まもりこ
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	入浴支援	バスリフト
	その他	サンライズビーチ
富山相談窓口	移乗支援	スカイリフト
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug@L1
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug@T1
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy (フレ

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
		アリー)
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	自動ラップ式トイレ ラップポン・ブリオ
	排泄支援	水洗式ポータブルトイレ「流せるポータくん」3号洗浄便座付き
	排泄支援	リリアムスポット2
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	見守り・コミュニケーション	電動ベッドレストサポート付離床センサー内臓ベッド
	見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション	眠り SCAN
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	見守り・コミュニケーション	介護モニタリングシステムエンジェルアイ
	見守り・コミュニケーション	うららかGPSウォーク
	見守り・コミュニケーション	見守り機能付き服薬支援ロボット「FUKU助」
	見守り・コミュニケーション	LOVOT
	入浴支援	バスリフト
	入浴支援	つるべーU1
愛知相談窓口	移乗支援	移乗サポートロボット Hug@L1
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	マッスルスーツエブリイ
	移動支援	HAL 腰タイプ介護・自立支援用
	移乗支援	ロボスネイル OVER
	移動支援	WHILL model F
	排泄支援	水洗ポータブルトイレ キューレット

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	排泄支援	自動採尿器 Behome スマート集尿器
	排泄支援	Helppad
	見守り・コミュニケーション	離床センサーi サポート付ベッド
	見守り・コミュニケーション	リアルタイム見守りセンサーM-station
	見守り・コミュニケーション	高齢者見守りシステム 見守りライフ
	見守り・コミュニケーション	睡眠見守りシステムみまもり一ふ
	見守り・コミュニケーション	癒やしロボットスマイビ S
	見守り・コミュニケーション	ベッド内蔵型見守りケアシステム M2
	見守り・コミュニケーション	介護ふれあいロボット HIMBOT
	見守り・コミュニケーション	LOVOT
	見守り・コミュニケーション	見守り機能付き服薬支援ロボット「FUKU助」
	見守り・コミュニケーション	AI センサー センティネア 2
	見守り・コミュニケーション	Mirai-eye
	入浴支援	バスアシスト®
	介護業務支援	FT care-i
大阪相談窓口	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®T1
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 1
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	移動支援	自立推進トレーニングロボット J-Walker テクテック
	移動支援	リトルキーパス S
徳島相談窓口	移乗支援	HAL® 腰タイプ介護・自立支援用
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	移乗・移動ロボット Keipu
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移動支援	ロボットアシストウオーカーRT. 1
	排泄支援	排泄予測デバイス Dfree Professional
	排泄支援	ラップポン・ブリオ
	見守り・コミュニケーション	うららかGPSウオーク
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	A.I.Viewlife
	見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」
見守り・コミュニケーション	介護予防プログラム「モフトレ」	
愛媛相談窓口	移乗支援	HAL® 腰タイプ介護・自立支援用
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	リフト付シャワーキャリー
	移乗支援	スカイリフト
	移動支援	ロボットアシストウオーカーRT. 2
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	排泄支援	セレクトR自動ラップ
	見守り・コミュニケーション	A.I.Viewlife
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	シオン	
	見守り・コミュニケーション	シルエット見守りセンサ
	見守り・コミュニケーション	見守りケアシステムM2
	見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション	眠り SCAN-eye
	見守り・コミュニケーション	LASHI-Care
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』(チャピット)
広島相談窓口	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®T1
	移動支援	サラフレックス
	見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	ライブコネクト
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	介護業務支援	ケアカルテ・ハナスト
北九州相談窓口	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	移乗支援	歩行トレーニングロボット
	移乗支援	移乗です
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®L1

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	レイボエクソスケルトン
	移乗支援	スマートスーツ Lite
	移乗支援	サポートジャケット PRO II
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	ライフレンズ
	見守り・コミュニケーション	みまもり CUBE
	見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション	A.I.Viewlife
	見守り・コミュニケーション	眠り SCAN eye
	見守り・コミュニケーション	見守りセンサ AiSleep
	見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」
	見守り・コミュニケーション	LASHIC care
	見守り・コミュニケーション	見守りライフ
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルIII
	見守り・コミュニケーション	PARO
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』(チャピット)
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	排泄支援	ラップボン・バケット
	介護業務支援	ケアカルテ
	介護業務支援	FonLog
	介護業務支援	誤薬チェッカー
	介護業務支援	トルト
	介護業務支援	ケア樹
	介護業務支援	ブルーオーシャンタブレット
	介護業務支援	BellaBot
	介護業務支援	BuddyCom
	その他	TANO
大分相談窓口	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	サポートジャケット Bb pro II
	移乗支援	サポートジャケット Bb FIT
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug@L1
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	移乗です
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 1
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	移動支援	Walk training robo
	排泄支援	ラップボン・エール2
	排泄支援	ベッドサイド水洗トイレ
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	排泄支援	Helppad
	排泄支援	SATOILET
	排泄支援	リアムスポット2
	見守り・コミュニケーション	シルエット見守りセンサ
	見守り・コミュニケーション	みまもりシステム
	見守り・コミュニケーション	眠りSCAN

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	シオン	
	見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション	ライフレンズ
	見守り・コミュニケーション	みまもり CUBE
	見守り・コミュニケーション	うららかGPSウォーク
	見守り・コミュニケーション	PARO
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	スマイビ
	見守り・コミュニケーション	Comuoon(コミュニケーション)
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」
	見守り・コミュニケーション	すいすいケア
	見守り・コミュニケーション	e 伝之介くん
	入浴支援	バスリフト
	介護業務支援	ケアカルテ
	介護業務支援	ケア樹
	介護業務支援	バイタルナビ
	その他	ハナスト
	その他	LINE WORKS
	その他	OpenComm(骨伝導インカム)
	その他	服薬支援ロボ

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
鹿児島 相談窓口	移乗支援	HAL® 腰タイプ介護・自立支援用
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®T1
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	移乗です
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	ラップポン・エール2
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	見守りセンサ AiSleep
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	e 伝之介くん
	見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」
見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams	

(2)実績

1)体験展示の来場者数 30,538人

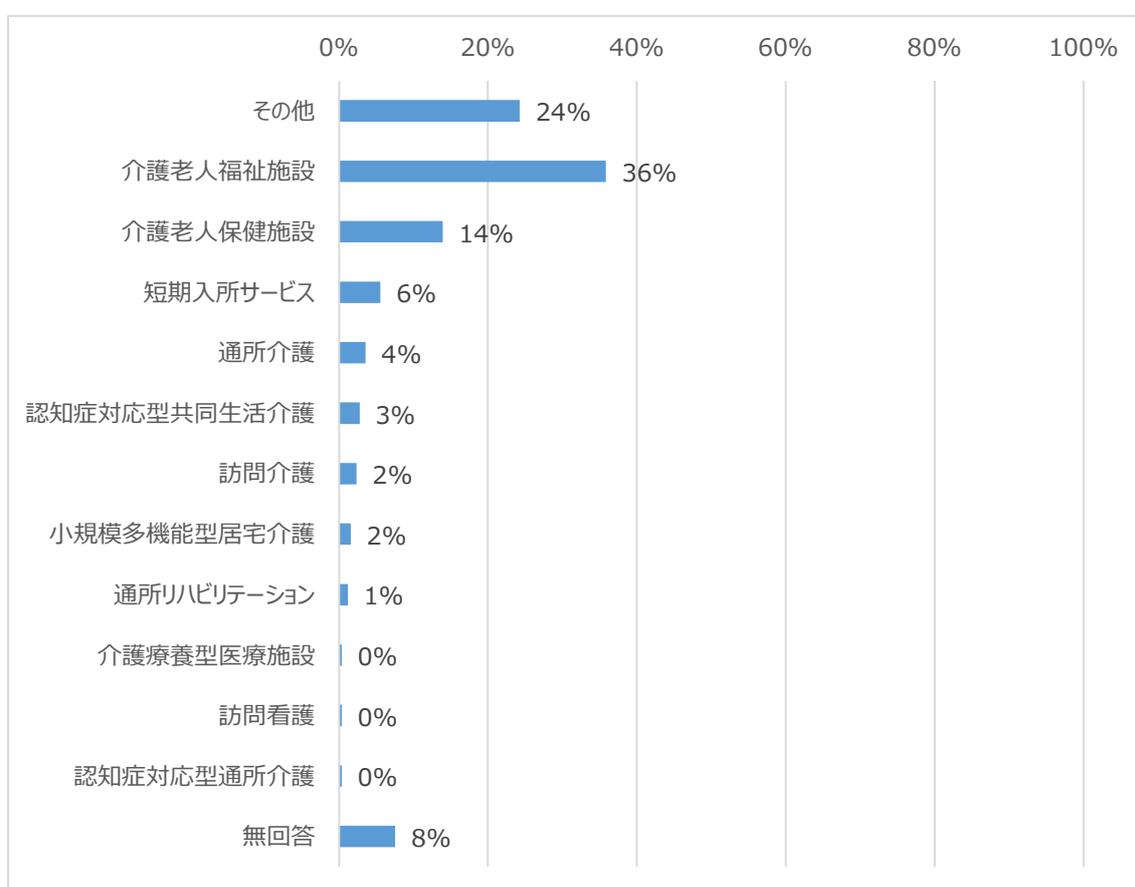
2)体験展示の来場者の属性及び満足度

体験展示においては、体験後に来場者を対象としたアンケートを実施した。以下、アンケートの各項目の集計結果を示す。

➤ 来場者が所属する介護サービス事業所・施設の種別

図表 2-15 来場者が所属する介護サービス事業所・施設の種別

n=251 ※来場者が介護サービス事業所に所属している場合のみ集計



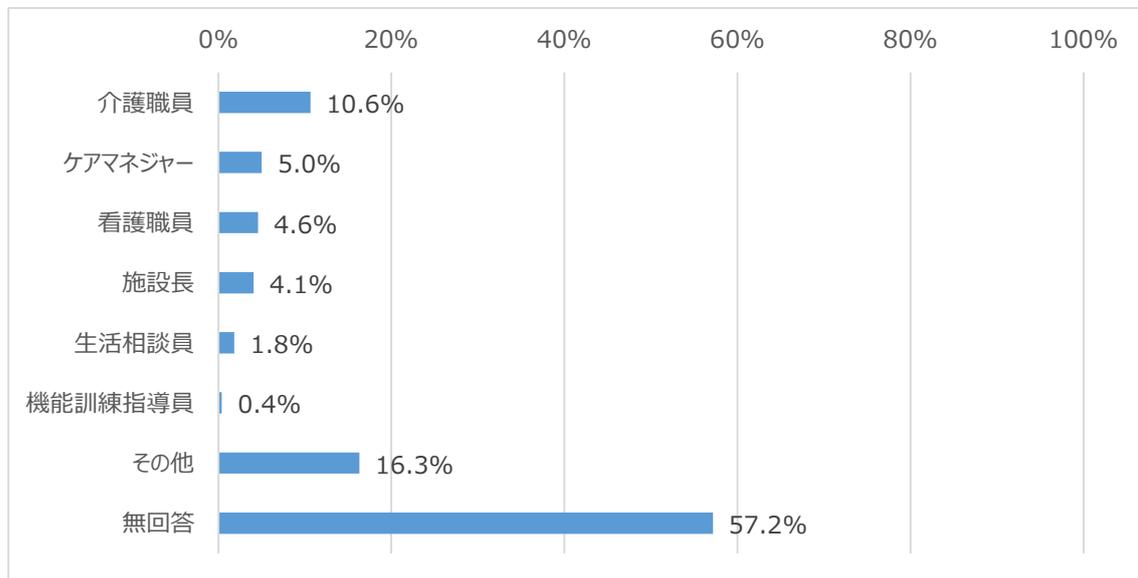
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 介護ロボット開発企業、福祉用具貸与事業所、教育機関、行政、地域包括支援センター
- ・ 居宅介護支援事業所、在宅介護支援センター、障害者支援施設、特定施設入居者生活介護

➤ 来場者の職種

図表 2-16 来場者の職種

n=761



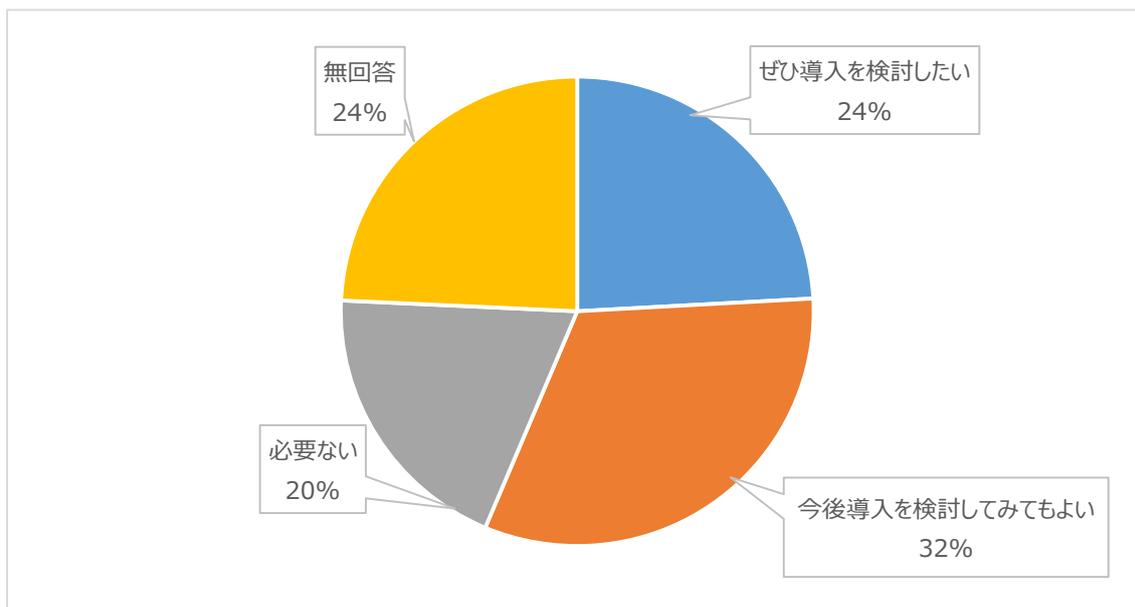
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 相談支援専門員、福祉用具専門相談員
- ・ 作業療法士、理学療法士、保健師、営業職、学生、教員、行政、事務職、個人

➤ 介護ロボットの今後の導入意向

図表 2-17 来場者の介護ロボットの今後の導入意向

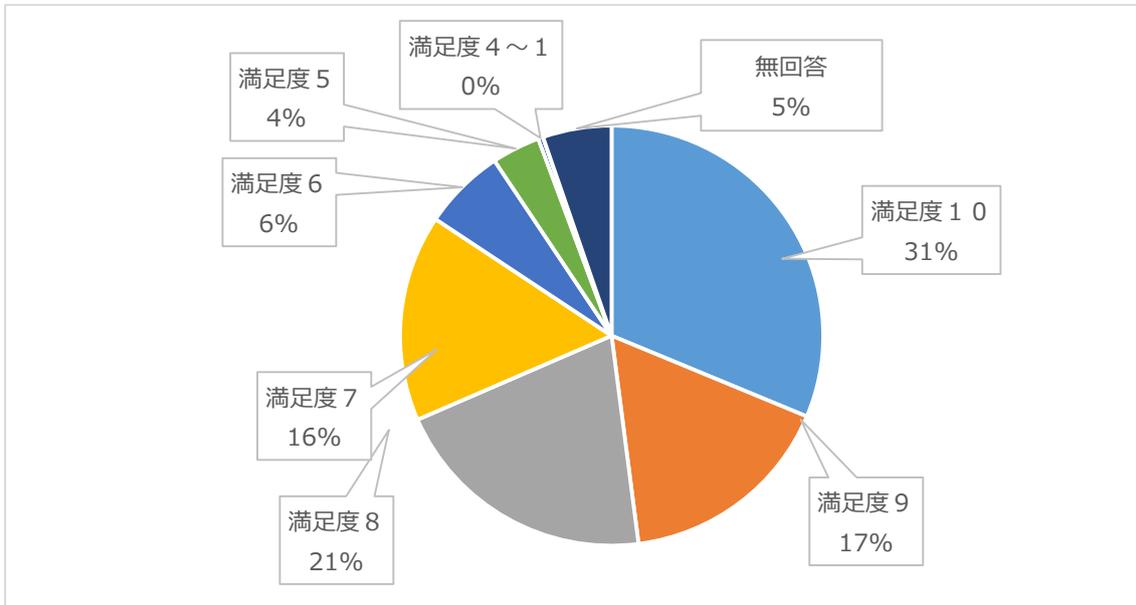
n=761



➤ 体験展示の満足度

図表 2-18 体験展示の満足度(満足度が高いほど、点数が高い)

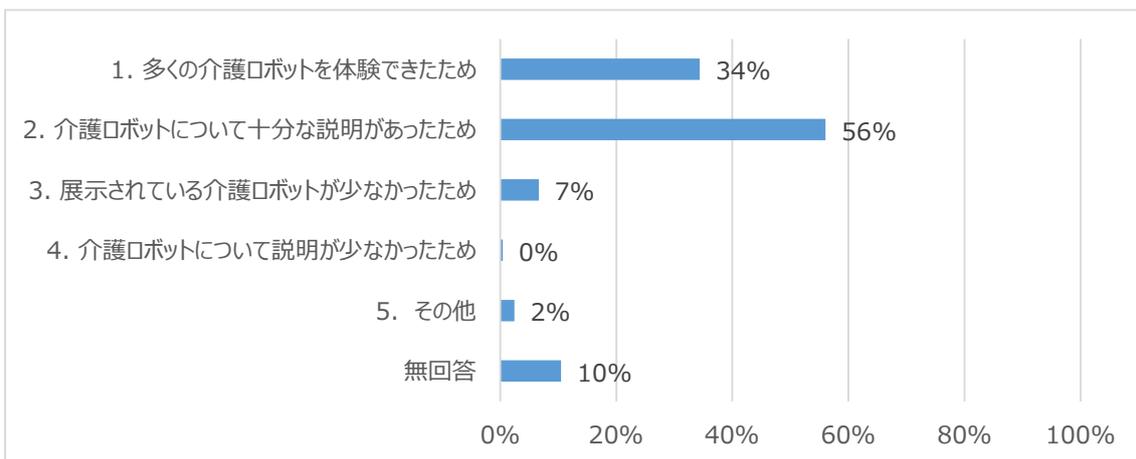
n=761



➤ 体験展示の満足度の理由

図表 2-19 体験展示の満足度の理由

n=761(複数回答)



「その他」の内容(抜粋)

- ・ 展示品にふれる時間がもっと欲しかった
- ・ 体験時間が短かった
- ・ 過去に体験・説明を受けていたことがあるロボットが多かったため

### 3) 体験展示における事例の紹介

#### ➤ 栃木相談窓口

取組背景	<p>県内では日頃体験する機会の少ない介護ロボットや福祉用具を一堂に集め、地域の介護施設や事業所で介護に従事する関係者や在宅での介護を担うご家族等、広く関係者様に周知を図ることで、福祉用具や介護ロボットの適切かつ効果的な導入・利活用に資することを目的に開催した。</p>																		
取組内容詳細	<p><b>【実施内容】</b> 開催日 令和5年11月29日火曜日 10:00～16:30</p> <p><b>【機器一覧】</b> 33企業の介護ロボット (移乗支援・移動支援・排泄支援・見守り・コミュニケーション分野)</p> <p><b>【開催場所・来場者数】</b> とちぎ福祉プラザ多目的ホール・モデルルーム 総数 180名</p> <table border="0"> <tr> <td>内訳</td> <td>高齢者関係事業所</td> <td>47名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>障害児者関連事業所</td> <td>27名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般・個人</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>福祉用具関連事業所</td> <td>22名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>行政・教育関連</td> <td>54名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>研究・開発・製造関連</td> <td>12名</td> </tr> </table> <p>来場者の声(アンケート回収数 147部) 報道関係 NHKの取材 テレビ放映</p>	内訳	高齢者関係事業所	47名		障害児者関連事業所	27名		一般・個人	18名		福祉用具関連事業所	22名		行政・教育関連	54名		研究・開発・製造関連	12名
内訳	高齢者関係事業所	47名																	
	障害児者関連事業所	27名																	
	一般・個人	18名																	
	福祉用具関連事業所	22名																	
	行政・教育関連	54名																	
	研究・開発・製造関連	12名																	
取組結果	<p>見守りロボットへの関心が高く、特に介護ソフトとの連携について多く質問が寄せられていた。次いで移乗ロボットへの関心が高かった。またその展示を増やしてほしいという意見があった。前年度の展示会と比べ目的を持ちかつ滞在時間が長いケースが多いと感じられた。</p>																		
工夫点・気づき	<p>介護ロボットが物珍しいという感覚よりも、誰のために必要で誰を助けるものなのかの情報が近くに感じられたのではないかと。</p> <p>実際に体験することで自身が思ってもみなかった感覚が生まれたり、デメリットに気づくことがあるかと思うので、今回体験したことが今後の導入計画や施設での試用貸出のきっかけになることが大きく期待される。</p>																		

図表 2-20 体験展示会のチラシ

「見たい!」「体験したい!」福祉用具・介護ロボットが  
とちぎ福祉プラザに集結!

**32社  
40製品以上**

# 福祉用具・介護ロボット 展示会

令和5年11月29日(水)  
10時~16時30分

昨年度の様子



**入場無料** とちぎ福祉プラザ  
多目的ホール & モデルルーム

当イベントは、新型コロナウイルスの感染状況により、延期または中止する可能性があります。  
その場合は、当会ホームページ等でお知らせするほか、お電話・メール等でお問い合わせください。

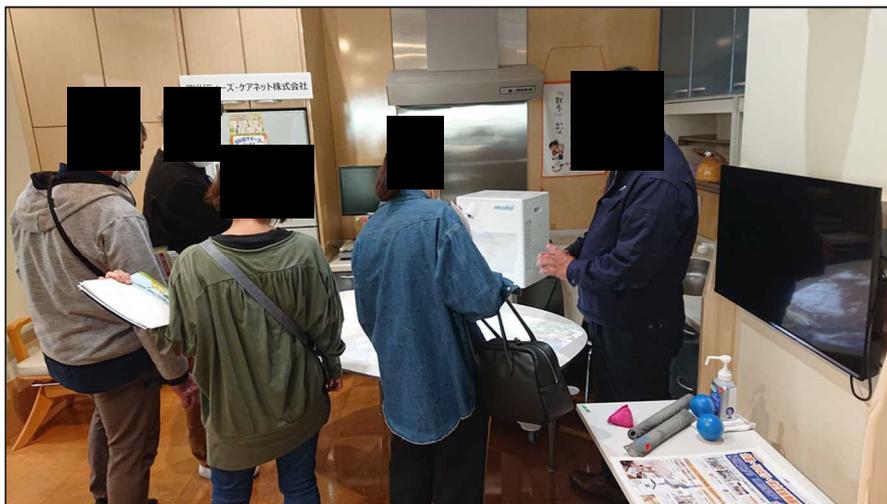
【主催】 NPO法人とちぎノーマライゼーション研究会  
TEL/FAX **028-627-2940**  
<https://robot.normalization.jp/>

【後援(予定)】 栃木県・栃木県社会福祉協議会・栃木県老人福祉施設協議会・栃木県老人保健施設協会・栃木県社会福祉法人経営者協議会・栃木県身体障害者施設協議会・栃木県障害施設・事業協会



〒320-8508 宇都宮市若草1-10-6

図表 2-21 体験展示会の様子



➤ 鹿児島相談窓口

取組背景	職員への声かけが必要な介護ロボットの見学・体験は見学者にとって敷居が高く、気軽に情報に触れて学べる環境作りが必要と感じた。
取組内容詳細	<p>当センターでは17点の介護ロボットを展示しているが、うち10点については事務所とは別の場所にある介護用モデルハウスに展示しており、モデルハウス自体がオープンな形で公開していないため日頃見学者の目に触れる機会が少ない。</p> <p>また事務所隣接の福祉用具展示室に展示中の7点についても、外見からすぐに使用方法や効用が理解できるという性格のものではないため、求めに応じて担当職員が説明したりデモをしたり対応を行っているが、声かけを躊躇され眺めるだけで帰られる方も多いため現状である。</p> <p>このため、このような状況を少しでも改善し、多くの見学者に気軽に介護ロボットの存在や情報に触れてもらえる方法として、福祉用具展示室内の既設モニターに常時介護ロボットの紹介ビデオを上映することを考えた。コンテンツ動画については開発企業等に個別に提供をお願いして、現在までに全ての展示ロボットの紹介ビデオを上映するところまで漕ぎ着けたところである。</p> <p>ただ、既設モニターについては室内の奥まった外部からは目に触れない位置にあるため、1月からは、アイキャッチとしてさらにショーウィンドー内にもモニター1台を新たに設置し、外部通路に向けて紹介ビデオの上映を開始した。</p> <p>また、研修会等のイベント動画も併せて上映しており、介護ロボット相談窓口の広報の強化も図っているところである。</p>
取組結果	目に見える効果はまだ実感できていないが、介護ロボットの存在に気づいてもらい、見学や体験の訪問を促す効果が期待できるものと考えている。
工夫点・気づき	介護ロボットは一般の家電等とは異なり、使用方法や効用などについてポイントを押さえた説明を受けないと理解が難しい性格のものであり、そのためには職員に声かけの必要があることから、特に一見の見学者にとっては想像以上に敷居が高いと思われる。紹介ビデオの上映は、まずは介護ロボットの存在を知ってもらうという入口の機能を果たすとともに、さらに基礎的なことについての学習が可能であり、介護ロボット展示の副次的なツールとしてかなり効果的ではないかと考えたところである。

図表 2-22 体験展示の様子



➤ 愛媛相談窓口

<p>取組背景</p>	<p>愛媛県相談窓口では、窓口を設置する「愛媛県福祉用具・住宅改造展示場(ユニコム)」内に体験展示コーナーを設け、介護ロボット(21種類)の常設展示を行っているが、遠方在住等の理由により来所が難しい方や、介護ロボットに興味はあるものの、来所するかどうかを迷っている方等に対して、インターネット上で展示コーナーの雰囲気をリアルに感じてもらう仕組みを設けることとした。</p>
<p>取組内容詳細</p>	<p>○介護ロボット相談窓口のホームページ内に360度パノラマ画像を活用したヴァーチャル展示場を開設した。</p> <p>【愛媛県介護ロボット相談窓口 HP】  <a href="https://ehime-kaigo- robo.jp/">https://ehime-kaigo- robo.jp/</a></p>  <p>○出前講座などの出張先では、タブレット等を活用して同ヴァーチャル展示場を紹介し、実際の展示場のイメージをつかんでもらうことで、窓口への来所や相談を促している。</p>
<p>取組結果</p>	<p>○体験展示コーナーをインターネットに公開することで、相談者等が本会にある介護ロボットの種類や主な機能等について、常時、情報収集をすることが可能となった。(現在は、個別のロボットの紹介動画の追加を調整中)</p> <p>○「ヴァーチャル」という言葉自体に興味をもたれる方が多く、「一体、どのようなものか?」といった動機でチラシ等に掲載したQRコードをスマートフォンで読み取ってサイトにアクセスしてくれる方が多い。(介護ロボットに興味のある方以外への啓発にも役立っている。)</p> <p>○ヴァーチャル展示場の利用をキッカケに介護ロボットに興味を持ち、実際の展示場の来場者の増加につながったケースも確認されている。</p> <p>○相談者に対して電話等で体験展示コーナーの説明をする際には、同サイトを紹介することで、実際のコーナーのイメージをつかんでもらいやすく、相談対応にも役立っている。</p>
<p>工夫点・気づき</p>	<p>○360度パノラマ画像を活用したサイトを運用することで、より多くの方に興味を持ってもらえるサイトの運営に努めた。</p> <p>○現在は、展示する介護ロボットの追加や入れ替えがあった際のこまめな更新が、費用等の問題によりできていない。そのため、将来的には360度カメラを導入し、費用負担をすることなく、窓口スタッフの手で都度、更新していけるようにしたい。</p>

図表 2-23 ヴァーチャル展示場の様子



出典：<https://ehime-kaigo-robo.jp/>

### 第3項 試用貸出

介護ロボットの普及を促進するため、介護施設等への試用貸出業務を実施した。試用貸出機器については、テクノエイド協会が厚生労働省から委託を受けて実施している「福祉用具・介護ロボット実用化支援事業」(以下、「実用化支援事業」という。)と連携し、実用化支援事業の一環として実施されている「介護ロボット等試用貸出事業」の試用貸出機器リストを本事業においても使用した。試用貸出リストは図表 2-23 のとおり。

図表 2-24 試用貸出リスト

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
移乗支援	株式会社ジェイテクト	介護作業専用アシストスーツ J-PAS fleairy (ジェイパスフレアリー)
	CYBERDYNE 株式会社	HAL® 腰タイプ
	ダイヤ工業株式会社	DARWING Hakobelude
	株式会社加地	レイボエクソスケルトン
	株式会社イノフィス	マッスルスーツ Every
	マッスル株式会社	ROBOHELPER SASUKE
	株式会社F U J I	移乗サポートロボット Hug L1
		移乗サポートロボット Hug T1
	アイ・ソネックス株式会社	スカイリフト
	株式会社アイザック	移乗・移動ロボット Keipu-Sb
	株式会社あかね福祉	移乗用介護ロボット「移乗です」
	アルジョ・ジャパン株式会社	サラフレックス
		マキシムーブ
		マキシツイン
日本ケアリフトサービス株式会社	SOEL® MX-Air ソエル エムエックス エア	
移動支援	R T. ワークス株式会社	ロボットアシストウォーカーR T. 1
		ロボットアシストウォーカーR T. 2
	パナソニック株式会社	Walk training robo

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	AssistMotion 株式会社	curara
	株式会社 INOWA 体	感型歩行自立支援システム Arbre
	株式会社スペース・バイオ・ラボラトリーズ	RE-Gait®
排泄支援	アロン化成株式会社	水洗ポータブルトイレ キューレット
	株式会社アム	水洗式ポータブルトイレ 「流せるポータくん」3号洗浄便座付き
	日本セイフティー株式会社	ラップポン・プリート (S) 普通便座 (ベージュ)
	トリプル・ダブリュール・ジャパン株式会社	排尿予測デバイス「DFree」
	株式会社リリアム大塚	リリアムスポット 2
	新東工業株式会社	Aiserv® 排泄検知システム
	富士フィルムメディカル株式会社	iViz air
	株式会社エフエージェイ	おむつモニター mini
	見守り・コミュニケーション	エコナビスタ株式会社
株式会社ツカモトコーポレーション		AlgoSleep 介護用見守りセンサー
トーテックアメニティ株式会社		見守りライフ
キング通信工業株式会社		シルエット見守りセンサー
エイアイビューライフ株式会社		A. I. Viewlife

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	株式会社TAOS研究所	見守りセンサ AiSleep
	凸版印刷株式会社	SensingWave® 介護・睡眠見守りシステム
	ノーリツプレジジョン株式会社	見守りシステム Neos+Care (ネオスケア)
	株式会社 Z-Works	ライブコネクト
	コアフューテック株式会社	e 伝之介くん
	フランスベッド株式会社	見守りケアシステム M-2
	株式会社 AXIVE	CareVision( ケアビジョン )
	株式会社エイビス	エイビスみまもりシステム
	ミネベアミツミ株式会社	ベッドセンサーシステムベーシック
	積水化学工業株式会社	見守りセンサー「ANSIEL」
	株式会社アルコ・イーエックス	ペイシエントウォッチャープラス
	ドーンコーラス合同会社	高齢者・障害者支援施設向け見守り支援システム「もりん2」
	テクノホライズン株式会社	睡眠見守りシステム みまもり〜ふ
	株式会社ユタカ電子製作所	VitalVoice オンライン自動モニタリング システム ※旧つながるくん
	株式会社シンセイコーポレーション	Care-Top
	バイオシルバー	aams. 介護
	株式会社メディカルプロジェクト	シッタープロ
	株式会社 FEN	どこでもナースコール・見守りセンサー
	株式会社ヒート	みてるもん 2

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	三昌商事株式会社	見守りシステム “CareBird”
	株式会社コンフォート	エンジェルアイ
	株式会社リンクジャパン	スマートナースコール eBell (イーベル)
	アールジービー株式会社	つながROOM「テンシル」
	加藤電機株式会社	見守りシステム SANフラワーXヘルシーライフ
	株式会社インフィック・コミュニケーションズ	LASHIC-care (ラシクケア)
	株式会社マクニカ	AttentiveConnect (アテンティブコネクト)
	株式会社フューチャーインク	Vital Beats 3in1
	株式会社ハピネスコーポレーション	Iot 見守りシステム Happiness 絆
	株式会社フォーエヴァー	【睡眠！ケア】 いきいきセンサー
	システムファイブ株式会社	介護施設向け見守りシステム「すいすいケア」
	シーホネンス株式会社	ベッド内蔵型見守りセンサー 「iサポート」搭載 Xシリーズ
	竹中エンジニアリング株式会社	サーバー内蔵予測型見守りセンサー ベッドモニターケア
	株式会社フルコミュニケーション	まもりん
	三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社	介護ロボット トイレ見守り kizkia-Knight T
	株式会社ソルクシーズ	見守り支援システム「いマイルモ」

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	株式会社ミオ・コーポレーション	iTSUMO アイ
	メティスコム	見守りセンサー “ ヴェスタ ”
	株式会社ラムロック	—みまもり CUBE—
		みまもり CUBE—システム Light—
	株式会社 ZIPCARE	まもるへの ONE
	株式会社トレイル	うららかGPSウォーク
	アーバン警備保障株式会社 アーバンテック	iTSUMO 2
	株式会社メディカルスイッチ	見守り機能付き服薬支援ロボット 「FUKU助」
	富士ソフト株式会社	PALRO 高齢者福祉施設向けモデル III
	株式会社レイトロン	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』（チャピット）
ザ・ハーモニー株式会社	認知症コミュニケーションロボット 「だいちゃん」	
入浴支援	株式会社ハイレックスコーポレーション	バスアシスト
	株式会社ミクニライフ&オート	ミクニマイティエースII浴室セット
介護業務支援	コニカミノルタ QOLソリューションズ株式会社	HitomeQ ケアサポート（ヒトメクケアサポート）
	NECプラットフォームズ株式会社	NEC サニタリー利用記録システム
移乗支援	株式会社ジェイテクト	介護作業専用アシストスーツ J-PAS fleairy（ジェイパスフレアリー）
	CYBERDYNE 株式会社	HAL® 腰タイプ
	ダイヤ工業株式会社	DARWING Hakobelude

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	株式会社加地	レイボエクソスケルトン
	株式会社イノフィス	マッスルスーツ Every
	マッスル株式会社	ROBOHELPER SASUKE
	株式会社F U J I	移乗サポートロボット Hug L1
		移乗サポートロボット Hug T1
	アイ・ソネックス株式会社	スカイリフト
	株式会社アイザック	移乗・移動ロボット Keipu-Sb
	株式会社あかね福祉	移乗用介護ロボット「移乗です」
	アルジョ・ジャパン株式会社	サラフレックス
		マキシムーブ
		マキシツイン
日本ケアリフトサービス株式会社	SOEL® MX-Air ソエル エムエックス エア	
移動支援	R T. ワークス株式会社	ロボットアシストウォーカーR T. 1
		ロボットアシストウォーカーR T. 2
	パナソニック株式会社	Walk training robo
	AssistMotion 株式会社	curara
	株式会社 INOWA 体	感型歩行自立支援システム Arbre
	株式会社スペース・バイオ・ラボラトリーズ	RE-Gait®
排泄支援	アロン化成株式会社	水洗ポータブルトイレ キューレット
	株式会社アム	水洗式ポータブルトイレ 「流せるポータくん」 3号洗浄便座付き
	日本セイフティー株式会社	ラップポン・プリート (S) 普通便座 (ベージュ)

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社	排尿予測デバイス「DFree」
	株式会社リリアム大塚	リリアムスポット 2
	新東工業株式会社	Aiserv® 排泄検知システム
	富士ファイルメディアカル株式会社	iViz air
	株式会社エフエージェイ	おむつモニター mini
見守り・コミュニケーション	エコナビスタ株式会社	ライフリズムナビ ®+Dr.
	株式会社ツカモトコーポレーション	AlgoSleep 介護用見守りセンサー
	トーテックアメニティ株式会社	見守りライフ
	キング通信工業株式会社	シルエット見守りセンサ
	エイアイビューライフ株式会社	A. I. Viewlife
	株式会社TAOS研究所	見守りセンサ AiSleep
	凸版印刷株式会社	SensingWave® 介護・睡眠見守りシステム
	ノーリツプレジジョン株式会社	見守りシステム Neos+Care (ネオスケア)
	株式会社 Z-Works	ライブコネクト
	コアフューテック株式会社	e 伝之介くん
	フランスベッド株式会社	見守りケアシステム M-2
	株式会社 AXIVE	CareVision( ケアビジョン )
	株式会社エイビス	エイビスみまもりシステム

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	ミネベアミツミ株式会社	ベッドセンサーシステムベーシック
	積水化学工業株式会社	見守りセンサー「ANSIEL」
	株式会社アルコ・イーエックス	ペイシェントウォッチャープラス
	ドーンコーラス合同会社	高齢者・障害者支援施設向け 見守り支援システム「もりん2」
	テクノホライズン株式会社	睡眠見守りシステム みまもり～ふ
	株式会社ユタカ電子製作所	VitalVoice オンライン自動モニタリングシステム ※旧つながるくん
	株式会社シンセイコーポレーション	Care-Top
	バイオシルバー	aams. 介護
	株式会社メディカルプロジェクト	シッタープロ
	株式会社 FEN	どこでもナースコール・見守りセンサー
	株式会社ヒート	みてるもん 2
	三昌商事株式会社	見守りシステム “CareBird”
	株式会社コンフォート	エンジェルアイ
	株式会社リンクジャパン	スマートナースコール eBell (イーベル)
	アールジービー株式会社	つながROOM「テンシル」
	加藤電機株式会社	見守りシステム SANフラワーXヘルシーライフ
	株式会社インフィック・コミュニケーションズ	LASHIC-care (ラシクケア)

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	株式会社マクニカ	AttentiveConnect (アテンティブ コネクト)
	株式会社フューチャー インク	Vital Beats 3in1
	株式会社ハピネスコ ーポレーション	Iot 見守りシステム Happiness 絆
	株式会社フォーエヴ アー	【睡眠！ケア】 いきいきセンサ ー
	システムファイブ株 式会社	介護施設向け見守りシステム「す いすいケア」
	シーホネンス株式会 社	ベッド内蔵型見守りセンサー 「iサポート」搭載 Xシリーズ
	竹中エンジニアリン グ株式会社	サーバー内蔵予測型見守りセンサ ー ベッドモニターケア
	株式会社フルコミニ ュケーション	まもりん
	三菱電機インフォメ ーションシステムズ 株式会社	介護ロボット トイレ見守り kizkia-Knight T
	株式会社ソルクシー ズ	見守り支援システム「いまイル モ」
	株式会社ミオ・コー ポレーション	iTSUMO アイ
	メティスコム	見守りセンサー “ ヴェスタ ”
	株式会社ラムロック	—みまもり CUBE— みまもり CUBE—システム Light—
	株式会社 ZIPCARE	まもるへの ONE
	株式会社トレイル	うららかGPSウォーク
	アーバン警備保障株 式会社 アーバンテ ック	iTSUMO 2
	株式会社メディカル スイッチ	見守り機能付き服薬支援ロボット 「FUKU助」

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	富士ソフト株式会社	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	株式会社レイトロン	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』（チャピット）
	ザ・ハーモニー株式会社	認知症コミュニケーションロボット 「だいちゃん」
入浴支援	株式会社ハイレックスコーポレーション	バスアシスト
	株式会社ミクニライフ&オート	ミクニマイティエースⅡ浴室セット
介護業務支援	コニカミノルタ QOLソリューションズ 株式会社	HitomeQ ケアサポート（ヒトメクケアサポート）
	NECプラットフォームズ株式会社	NEC サニタリー利用記録システム

(1) 試用貸出の貸出件数(全相談窓口合計)

575 件

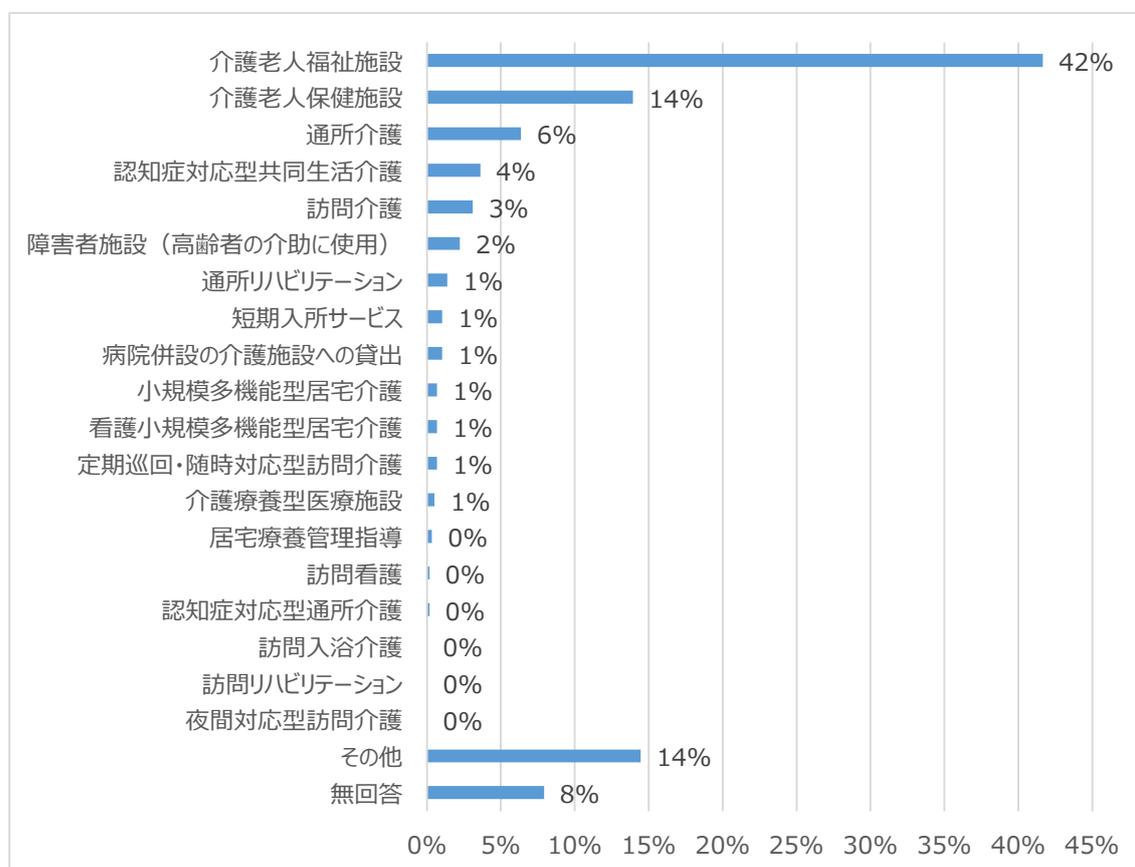
(2) 試用貸出の概要及び満足度

試用貸出においては、試用貸出終了後に貸出を受けた事業所・施設を対象としたアンケートを実施した。以下、試用貸出時の申込情報と、アンケートの各項目の集計結果を示す。

➤ 試用貸出を利用した介護サービス事業所・施設の種別

図表 2-25 介護サービス事業所種別

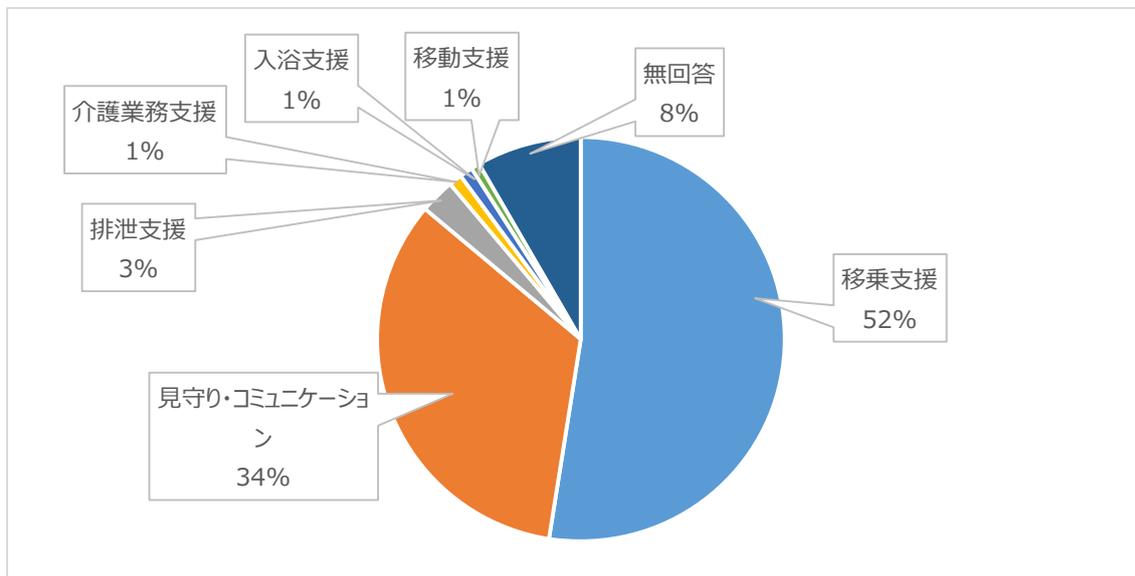
n=575(複数回答)



➤ 借り受けた介護ロボットの種類

図表 2-26 介護ロボットの種類

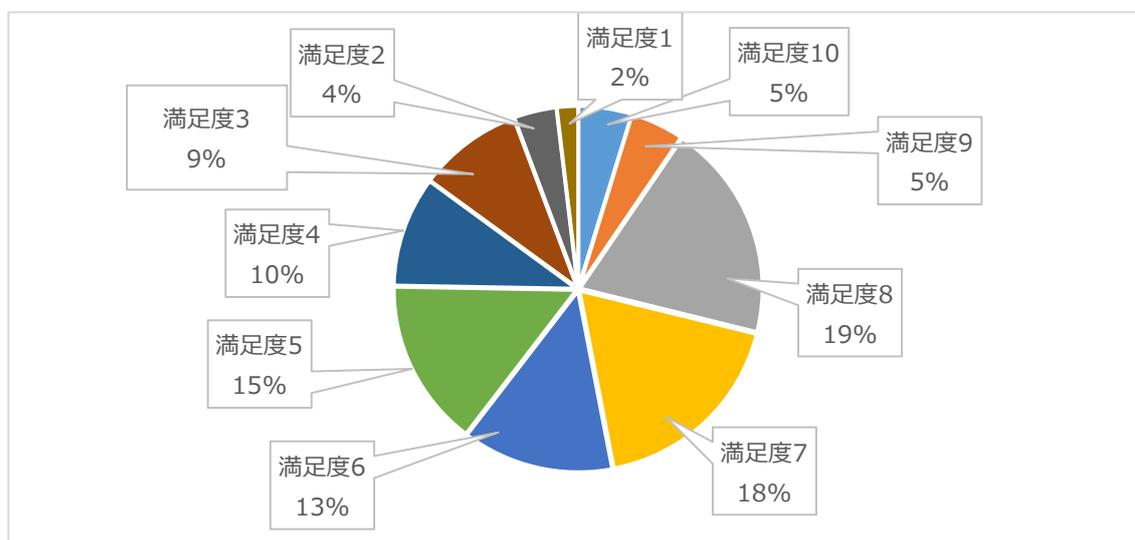
n=575



➤ 借り受けた介護ロボットについての満足度

図表 2-27 介護ロボットについての満足度(満足度が高いほど、点数が高い)

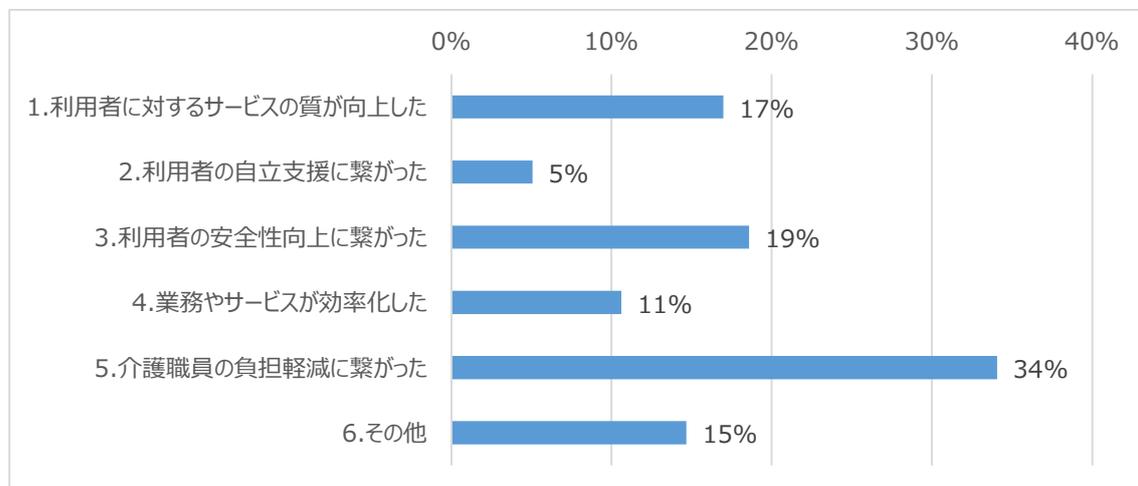
n=530



➤ 借り受けた介護ロボットを使用した効果

図表 2-28 介護ロボットを使用した効果

n=530(複数回答)



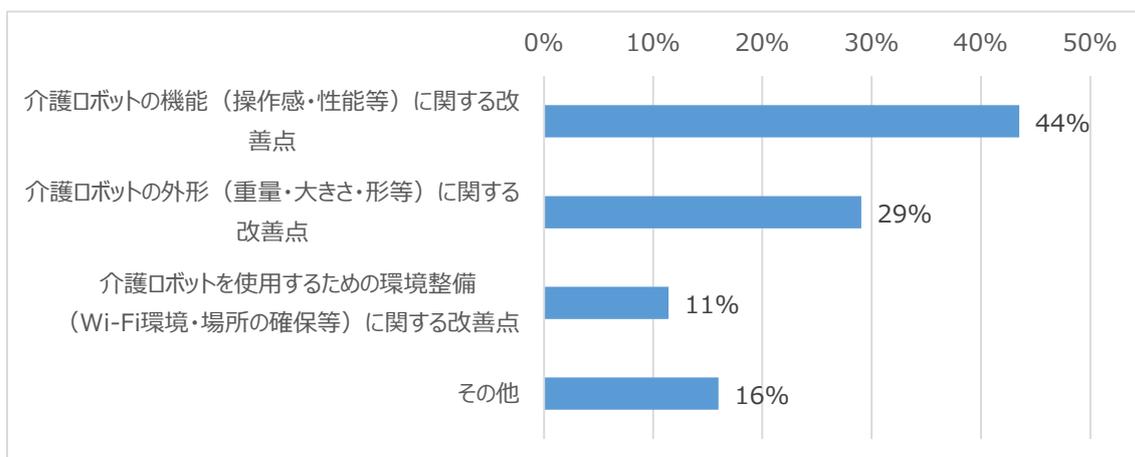
「その他」の内容(抜粋)

- ・ Wi-Fi環境が整っていない環境下での試行としてモバイル通信を設定してもらったが、電波状況が悪く通信状況が安定した場での試行とは至らなかった
- ・ 機器の装着や微調整が難しく、アシスト感をあまり感じるできなかった
- ・ 機器の良さは理解できたが、利用者のニーズには合わなかった
- ・ 施設の設備サイズに合わなかった

➤ 借り受けた介護ロボットの改善点

図表 2-29 介護ロボットの改善点

n=530(複数回答)



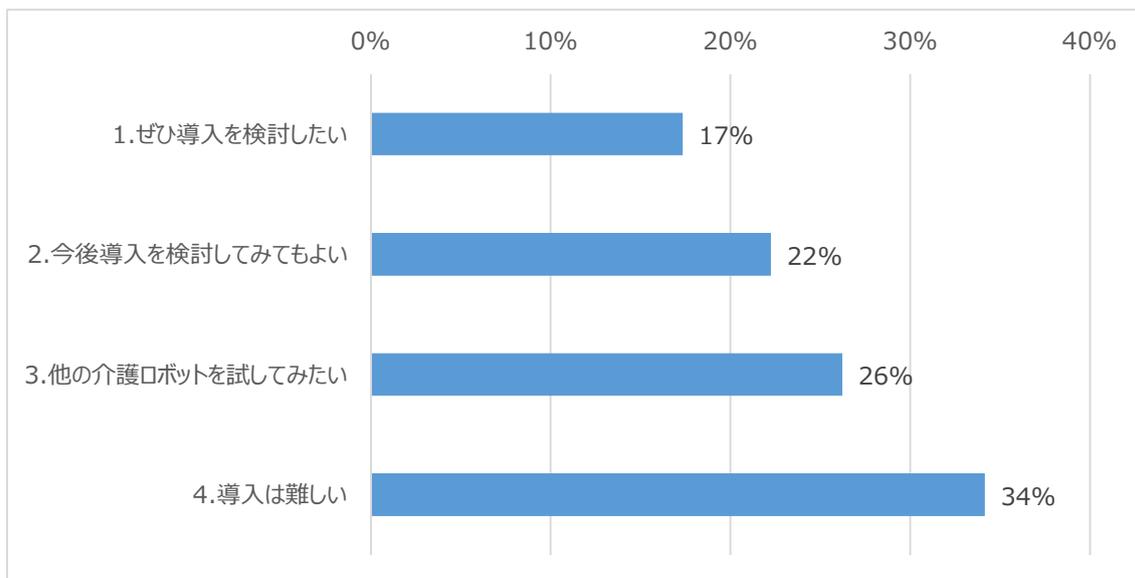
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 費用面、サイズ感、機器の装着感、操作性

➤ 借り受けた介護ロボットの導入意向

図表 2-30 介護ロボットの導入意向

n=530



#### 第4項 研修会

「介護ロボット導入のパッケージモデル」(以下、「パッケージモデル」という。)の普及を目的とした研修会を実施し、パッケージモデルでまとめられた、現場の課題とそれに応じた介護ロボットの選定、介護ロボット導入時の留意事項、介護ロボット導入による効果等について説明するとともに、次項に記載する伴走支援の成果報告を行い、地域における介護ロボット導入モデルの横展開を図った。

##### (1)各相談窓口の研修会実施実績

相談窓口名	開催日	議事
北海道相談窓口	令和6年1月30日 1月31日 2月16日	・生産性向上についてのポイント、介護ロボット導入のポイント等についての講演 ※研修会と併せて介護ロボット展示会を実施
青森相談窓口	令和5年10月17日	・経営戦略としてのテクノロジー導入を踏まえた生産性向上の取組に関する講演 ・ワンポイントアドバイス ・質疑応答
	7月7日	・厚労省・秋田県の行政説明 ・生産性向上についてのポイントの講演 ・東北圏内先進事例の紹介 ・経営層の役割について検討するワークショップの実施
	令和6年2月21日	・生産性向上の取組意義に関する講演 ・モデル事業所成果報告
岩手相談窓口	令和5年11月20日	・施設向け介護ロボット紹介 ・在宅向け介護ロボット紹介
	12月25日	・介護ロボットプラットフォーム事業の進捗について ・②講演:介護生産性向上についての最新情報 ・③報告:介護生産性向上の取組状況について
	令和6年2月20日	・「事業紹介」相談窓口取り組み ・「講演」介護現場の生産性向上 ・「行政説明」介護現場の生産性向上に向けた今後の施策 ・「実践報告会」働きやすい職場環境づくり

相談窓口名	開催日	議事
新潟相談窓口	令和5年7月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新の機器・技術・資格を用いた働きやすい職場づくり、それを可能にする人材の必要性～共通する課題と解決法～</li> <li>介護ロボット・介護 ICT 導入の事例と質疑応答</li> </ul>
	11月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演:これからの介護事業者に求められること ～最新の政策動向から見る経営力強化とデジタル化の必要性～</li> <li>対談:”新潟モデル”の生産性向上のかたちとは</li> <li>スマート介護士資格・介護記録システム SCOP について</li> </ul>
	令和6年2月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演:生産性向上の価値を考える～経営・介護の現場から～</li> <li>質疑応答</li> </ul>
	3月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護ロボット・ICT 導入による業務改善成功のポイント～決め手は”伴走者”の存在～</li> <li>介護現場の生産性改善</li> </ul>
栃木相談窓口	令和5年6月21日 6月22日 6月26日 6月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>解説! 介護ロボット導入パッケージモデル</li> <li>移乗支援介護ロボットの導入と腰痛対策</li> </ul>
	11月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1部「腰痛予防対策は利用者/患者と介護提供者の安全になる」(講義)</li> <li>第2部「腰痛対策の具体的な対応方法」～セーフティケア～(講義)</li> <li>第3部 実技:「セーフティケア1」</li> </ul>
	令和6年1月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ今介護ロボットなのか?</li> <li>②質の高いケアを実現するための腰痛対策</li> <li>③介護現場の生産性向上に向けて</li> <li>④生産性向上=業務改善～7つの視点</li> <li>⑤介護ロボットのパッケージ導入モデル</li> </ul>
	2月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口活動報告</li> <li>先進事業所による講演</li> <li>シンポジウム(質疑・意見交換)</li> </ul>
埼玉相談窓口	令和5年12月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護ロボット導入パッケージモデルと課題の見える化</li> <li>取組事例の紹介</li> <li>実践! 『すまいるの里(仮想)』の課題をみんなで見える化</li> </ul>

相談窓口名	開催日	議事
	令和6年1月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット導入パッケージモデルと課題の見える化</li> <li>・移乗支援機器を活用することで得られる効果</li> <li>・介護ロボット見学・試用会</li> </ul>
	2月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット導入パッケージモデルと課題の見える化</li> <li>・取組事例の紹介</li> <li>・課題の見える化」した後の「何から行う？</li> </ul>
横浜相談窓口	令和5年5月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボットプラットフォーム事業について</li> <li>・介護ロボットとは</li> <li>・導入のコツ</li> </ul>
	6月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パッケージ導入モデルについて</li> <li>・介護ロボット導入のポイント</li> </ul>
	令和6年1月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット導入のポイント</li> <li>・介護ロボット導入事例紹介</li> <li>・介護ロボット相談窓口からお知らせ</li> </ul>
	2月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボットのプラットフォーム事業と生産性向上推進総合事業について</li> <li>・介護ロボットを活用した生産性向上の取組事例と解説</li> <li>・業務改善事例報告</li> </ul>
富山相談窓口	令和5年11月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業紹介</li> <li>・実践報告「マルポスメジャーを使用した、職員の腰痛予防対策と生産性向上の支援を通して介護ロボット等の導入を検討する」</li> <li>・令和4年度伴走支援施設の成果発表</li> </ul>
	12月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン講義「ケアを変える介護ロボット等のメリットと導入・活用に向けたポイント」</li> <li>・介護ロボット実演会・導入事例紹介</li> </ul>
	12月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアを変える介護ロボット等のメリットと導入・活用に向けたポイント</li> <li>・介護ロボット実演会・導入事例紹介</li> </ul>
	12月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とやま介護テクノロジー普及・推進センターの役割について</li> <li>・介護ロボット導入前の準備と活用ステップ～介護ロボットのパッケージ導入モデルより～</li> <li>・介護テクノロジーの導入による職員のプロ意識の向上について</li> </ul>
	令和6年3月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践報告会</li> </ul>

相談窓口名	開催日	議事
		見守り支援機器の導入を想定した運動特化型半日デイサービスの質向上に向けた取組
愛知相談窓口	令和5年8月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の概要と相談窓口の活動について</li> <li>・テクノロジー活用を踏まえた経営戦略としての生産性向上の取り組み</li> <li>・モデル施設の取組発表</li> <li>・行政説明</li> </ul>
大阪相談窓口	令和5年6月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府の現状と介護ロボット・ICT 導入補助金</li> <li>・介護ロボット導入前の準備と活用ステップ</li> <li>・介護ロボットPF 相談窓口の紹介</li> <li>・介護ロボット展示場のご案内</li> </ul>
	7月12日 7月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット導入ステップの振り返り</li> <li>・現場の課題の見える化ワークショップ</li> </ul>
	令和6年1月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット導入ステップの振り返り</li> <li>・活動の振り返り、壁の乗り越え方に関する講演</li> <li>・実行計画の見直しワークショップ</li> </ul>
徳島相談窓口	令和5年7月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場における生産性の向上について</li> <li>・現場の課題の見える化ワークショップ</li> <li>・補助金の有効活用</li> <li>・伴走支援施設の募集について</li> </ul>
	9月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場における生産性の向上について</li> <li>・生産性向上に関するディスカッション</li> <li>・介護ロボット導入取組事例紹介</li> </ul>
	令和6年1月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボットの活用と生産性向上について</li> <li>・モデル事業所成果報告</li> </ul>
愛媛相談窓口	令和5年7月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛媛県介護ロボット導入支援事業費補助金等について</li> <li>・介護ロボットプラットフォーム事業等について</li> <li>・テクノロジー活用を踏まえた介護経営戦略としての生産性向上</li> <li>・実践ワークショップ 「事業所のありたい姿と現状把握」 「生産性向上で成果を出すための取り組み優先順位を見出す」</li> </ul>
	11月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況の確認</li> <li>・課題の抽出・共有</li> <li>・今後の展開の検討</li> </ul>

相談窓口名	開催日	議事
	12月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「介護現場におけるテクノロジーの導入方法について」</li> <li>・事例紹介「善光会における介護テクノロジーの活用例」</li> </ul>
	令和6年2月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業説明「介護ロボットプラットフォーム事業」</li> <li>・基調講演「介護現場における生産性向上の取り組みポイント」</li> <li>・実践報告「生産性向上のための業務改善実践報告」</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>
広島相談窓口	令和5年6月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演および伴走支援モデル施設募集説明</li> <li>・事例紹介</li> <li>・実践ワークショップおよび質疑応答</li> </ul>
	10月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット・ICT 機器を活用した生産性向上の取り組みにおける壁とその乗り越え方</li> </ul>
北九州相談窓口	令和5年6月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット・ICT 導入の進め方～介護ロボット導入のパッケージモデルについて～</li> <li>・介護ロボット・ICT 導入補助金の活用方法～補助金申請のポイント～</li> </ul>
	12月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット・ICT 導入の進め方</li> <li>・介護人材の定着とメンタルヘルス～職員にやさしい職場づくり～</li> </ul>
	令和6年2月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターによる伴走支援の報告</li> <li>・卒業出来るデイサービスと介護テクノロジー活用</li> <li>・介護テクノロジーの効果的な導入・活用とチームケアの実践</li> <li>・最新、介護テクノロジー動向と事業所が行うべき判断とは？</li> </ul>
大分相談窓口	令和5年4月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ロボット等の開発・実証・普及のプラットフォーム事業について</li> <li>・令和4年度大分県モデル事業所における介護テクノロジー導入等、改善活動の実例紹介</li> <li>・経営戦略としての テクノロジー導入～介護現場の生産性向上 と 組織マネジメントのポイント ～</li> </ul>
	10月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスの生産性向上に向けたテクノロジー活用のポイント</li> <li>・機器紹介</li> </ul>
	令和6年1月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場の生産性向上に向けた当セ</li> </ul>

相談窓口名	開催日	議事
		ンターの支援について ・介護テクノロジー導入事業所(伴走支援施設)による改善活動の実践報告 ・働く人の幸福度を追求する。「幸せ」に包まれた介護現場の実現に向けた介護テクノロジーの活用
鹿児島相談窓口	令和5年10月25日	・介護ロボットの円滑な導入のポイント ・行政説明 ・伴走支援施設実践報告
	11月6日	・介護ロボットの円滑な導入のポイント ・行政説明 ・伴走支援施設実践報告 ・介護ロボット体験及び相談
	12月26日	・介護現場における生産性向上の取り組みー介護ロボット試用を端緒にー ・行政説明(沖縄県) ・介護ロボット移乗支援分野(Every)を試用して

(2)研修会における事例の紹介

➤ 大阪相談窓口

取組背景	NTT データを講師に介護ロボット導入研修を実施(ワークショップ)
取組内容詳細	<p><b>【開催日・参加人数】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2023 年 6 月 16 日 介護ロボット・ICT 活用支援セミナー【会場&amp;オンライン】を実施 大阪府による補助金申請説明会を同時開催 (参加者:オンライン 201 人、会場 19 人、計 220 人)</li> <li>・ 2023 年 7 月 13 日 令和 5 年度 介護現場の「課題の見える化」ワークショップを実施 事前申し込みと審査により、6 事業所×2 日間 計 12 施設が参加。 6 事業所の中から伴走支援希望事業者を募集し、3 施設を選定。</li> <li>・ 2024 年 1 月 16 日 NTT データによる介護ロボット導入後研修会を実施。 伴走支援 3 施設に向けて導入後研修会を実施。 (第 1 回目の研修会に申込みした施設含め電話で機器導入の状況をヒアリングしたが、機器導入していない施設が多かったため、導入した 3 施設のみ参加となった)</li> </ul>
取組結果	前年度の伴走支援施設選定に大変苦労したため、今年度は大阪府様との連携により補助金情報の説明会から介護ロボット導入の重要性、伴走支援施設募集と導入に向けての勉強会と一連の流れで行えたことで、伴走支援施設の選定も大変スムーズに行えたと思う。
工夫点・気づき	今後も自治体との連携や、その他社協など施設の窓口団体とともに同じ目的に向かって取り組んでいくことが重要と感じた。

➤ 大分相談窓口

取組背景	1 回目は「生産性向上における PDCA サイクルの回し方」、2 回目に「介護テクノロジーの紹介」を主軸として研修を行った。そして 3 回目は、「伴走支援施設における取組成果報告(現場と経営層両方の視点から)」を主軸として研修を開催した。
------	---

<p>取組内容詳細</p>	<p><b>【開催概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象地域: 大分・宮崎</li> <li>・ 広報: 当センターHP(介護ロボット普及推進センター、大分県介護研修センター、KAIGO SWITCH)での研修案内。各県の担当部署から介護現場への研修案内を依頼</li> <li>・ 開催方法: 対面・ZOOM のハイブリッド開催</li> </ul> <p><b>【構成】</b></p> <p>第1部: 介護現場の生産性向上に向けた当センターの支援について</p> <p>第2部: 伴走支援施設による改善活動の実践報告 (社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 特別養護老人ホームいずみの園 施設長 谷口弘美氏、課長 高倉哲也氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①プロジェクトリーダーからの実践報告</li> <li>②経営層からの実践報告</li> </ul> <p>第3部: 基調講演(社会福祉法人スマイリング・パーク 理事長 山田一久様) ～働く人の幸福度を追求する。「幸せ」に包まれた介護現場の実現に向けた介護テクノロジーの活用～</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>第1部では業務アドバイザーが生産性向上の取り組み意義、当センターの支援概要(主に伴走支援)、次年度の生産性向上総合相談センターの設置、補助金や加算等について説明を行った。</p> <p>第2部では、今年度伴走支援を行った事業所の現場リーダーと経営層からの実践報告を行った。気付きシートで200件以上の課題を集め、因果関係図ワークショップによる課題分析、夜勤帯の業務時間調査等、PDCAサイクルに沿った介護テクノロジー導入までの取組説明を実施。その他、相談窓口活用のポイント、取組において苦労したポイント、人材育成における対話・承認(口を出しすぎない)等、実体験に基づいた内容の説明を実施。</p> <p>第3部では、介護テクノロジーの活用事例として、見守りシステム、音声入力等だけでなく、RPA、配膳ロボット等の実践事例や導入効果を発表。今後、職員、利用者のために介護テクノロジー、A.Iの活用は不可欠である点が共有できた。</p>
<p>取組結果</p>	<p>参加者は140名、事業所は64事業所の参加であった。研修後アンケートでは「施設として目指す形が見えた気がしました」「どこの施設・法人も同じ悩みを抱えています。とても良い研修でした」「同じような内容の研修を再度受講したい」「生産性向上に向けた研修をまた受講したい」といった前向きな意見が</p>

	<p>多く寄せられた。</p>
<p>工夫点・気づき</p>	<p>県の担当者による周知が効果的であった。また、ハイブリッド開催も定着してきたため宮崎県からの参加者が約半分を占めた。年間を通して参加者が多く、関心の高まりを感じる。</p> <p>プロジェクトリーダーと経営層による実践報告や、最先端の事例報告等、次年度に向け多くの方に興味を持っていただけるメニューとした。</p> <p>生産性向上の横展開について、研修での実践報告等もひとつの方法であるが、モデル事業所を創出し地域単位での横展開を図る等、他の方法も推進していかなければならない。</p>

## 第5項 伴走支援

各相談窓口の担当区域内の介護ロボット等を導入しようとする介護サービス事業所

に対し、当該施設における課題を踏まえた適切な介護ロボット等の選定に関する助言、介護ロボット等の導入に当たっての施設内のオペレーション変更に関する助言、職員に対する研修等の実施に関する助言、介護ロボット等導入による効果の把握、取組の見直しに関する助言等による導入支援(伴走支援)を行った。

### (1)各相談窓口の伴走支援実績

相談窓口名	伴走支援施設種別	導入機器
北海道相談窓口	介護老人福祉施設	介護記録システム
	介護老人保健施設	移動支援
	特定施設入所者介護	見守り機器・インカム
青森相談窓口	介護老人保健施設	介護記録システム
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
	特定施設入所者介護	インカム
岩手相談窓口	介護老人保健施設	介護記録システム
	通所介護事業所(デイサービス)	未導入(業務改善を実施)
	認知症対応型共同生活介護事業所	見守り機器
新潟相談窓口	介護老人保健施設	見守り機器・コミュニケーションロボット
	介護老人福祉施設	見守り機器
	通所介護事業所(デイサービス)	コミュニケーションロボット
栃木相談窓口	介護老人福祉施設	未導入(移乗支援機器を予定)
	介護老人福祉施設	未導入(移乗支援機器・インカムを予定)
	小規模多機能型居宅介護	未導入(移乗支援機器を予定)
埼玉相談窓口	介護老人福祉施設	見守り機器
	介護老人福祉施設	見守り機器
	介護老人福祉施設	未導入(介護記録システムを予定)
横浜相談窓口	介護老人福祉施設	見守り機器
	介護老人福祉施設	介護記録システム
富山相談窓口	介護老人福祉施設	移乗支援機器
	介護老人福祉施設	移乗支援機器
	通所介護事業所(デイサービス)	見守り機器
愛知相談窓口	介護老人保健施設	移乗支援機器
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
	通所介護事業所(デイサービス)	未導入(業務改善を実施)

相談窓口名	伴走支援施設種別	導入機器
大阪相談窓口	介護老人保健施設	見守り機器・インカム
	介護老人福祉施設	見守り機器・インカム
	特定施設入所者介護	見守り機器・インカム
徳島相談窓口	介護老人福祉施設	移乗支援機器
	介護老人福祉施設	未導入(介護記録システムを予定)
	特定施設入所者介護	未導入(移乗支援機器・見守り機器を予定)
愛媛相談窓口	介護老人福祉施設	見守り機器
	介護老人福祉施設	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	介護記録システム
	通所介護事業所(デイサービス)	未導入(業務改善を実施)
広島相談窓口	通所介護事業所(デイサービス)	未導入(業務改善を実施)
	介護老人保健施設	未導入(業務改善を実施)
	介護老人福祉施設	介護記録システム
北九州相談窓口	介護老人福祉施設	未導入(介護記録システムを予定)
	介護老人福祉施設	未導入(見守り機器を予定)
	介護老人福祉施設	未導入(複数の分野の機器を検討中)
大分相談窓口	介護老人保健施設	見守り機器
	介護老人福祉施設	見守り機器
	介護老人福祉施設	見守り機器・インカム
	介護老人保健施設	移乗支援機器・見守り機器・インカム
	介護老人福祉施設	見守り機器
鹿児島相談窓口	介護老人福祉施設	移乗支援機器
	介護老人福祉施設	移乗支援機器
	介護老人福祉施設	移乗支援機器
	通所介護事業所(デイサービス)	移乗支援機器

(2) 伴走支援における事例の紹介

➤ 横浜相談窓口における伴走支援事例(1 事業所を抜粋)

	サービス種別	特別養護老人ホーム
	選定の経緯	令和4年度より継続して介護ロボットを活用することによる業務改善を実施したいという意向があったため、支援を行うこととした。
	導入機器	見守り機器
実施内容や取組チームの変化等	手順 1 改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務アドバイザーより、事業説明を行った。</li> <li>・ 事業所内で取組チームを組成した。</li> </ul>
	手順 2 現場の課題が見える化しよう	<p>課題の抽出・分析のワークショップを実施した。ワークショップのプロセスは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 施設の運営方針を経営者より説明する。</li> <li>② テクノロジーの活用により目指す姿を再度議論する。</li> <li>③ 目指す姿を踏まえ、施設の課題を議論する。</li> <li>④ 取り組む課題の優先順位を選定する。</li> </ol>
	手順 3 実行計画を立てよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見守り機器を導入するための実行計画の策定および計画の共有を行った。</li> <li>・ 試用機器の準備・設置を行った。</li> <li>・ 試用機器の映像の確認方法の研修を行った。</li> <li>・ データの収集方法の研修を行った。</li> </ul>
	手順 4 改善活動に取り組もう	<p>実際に機器を活用していく中で、機器の効果の見える化を丁寧に行った。そうすることで、短期間にも関わらず、「入所者の状況が見える」ことが職員のモチベーションにつながった。結果として、「入所者を想うケア」へ思考変化が現れた。</p>
	手順 5 改善活動を振り返ろう	<p>機器を活用する中で、以下の効果が得られたことが明らかになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通知が鳴った際に訪室することで、転倒防止ができる。職員の安心感にも繋がった。</li> <li>・ その場の状況や、利用者様の行動から、訪室をする判断基準を見直すことに繋がった。</li> </ul>

	<p>手順 6 実行計画を 練りなおそう</p>	<p>事業所からは、以下のコメントが得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ これまでの見守りセンサーは、入所者の危険を知らせるだけの物と認識していたが、入所者の行動や状態が分かることにより、職員が入所者のことを想った意見や行動が生まれた。</li> <li>▪ 映像やデータの意味や意義を痛感した。</li> </ul>
--	----------------------------------	---

➤ 広島相談窓口における伴走支援事例(1 事業所を抜粋)

	サービス種別	デイサービス
	選定の経緯	事業所から支援の立候補があったため、面談を経て伴走支援先に決定した。利用者や職員の満足度・やりがいを大切にしており、熱量がとても高い事業所である。
	導入機器	なし(テクノロジーの導入以前に、実施したい改善点があることが明らかになったため。
実施内容や取組チームの変化等	<p>手順 1 改善活動の 準備をしよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ キックオフ宣言を行った。</li> <li>▪ 事業所内で取組チームを組成した。</li> </ul>
	<p>手順 2 現場の課題を 見える化しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 現場の状況を多角的な視点で把握するためにアンケートを実施した。</li> <li>▪ アンケート結果について因果関係図を用いて“なぜ”今の状況になっているのかを整理し対話することで、解決すべき課題を明確にした。</li> <li>▪ 原因を明確にすることで、各職員がこのプロジェクトで行う改善活動を自分ごと化し、主体的に行動できるようにした。</li> <li>▪ 対話した結果、“情報共有”と“業務の偏り”が課題の中心であることが明確になった。</li> <li>▪ いくつか出ている課題の中から“入浴業務における情報共有”に取り組むことを決定した。</li> <li>▪ 現場職員で対話し、入浴業務の各工程における課題を整理した。</li> </ul>
	<p>手順 3 実行計画を 立てよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ アンケートを用いて取り組む課題における現状の負担感がどこから生まれているのかを明確にした</li> <li>▪ 入浴業務の中でも、浴室一居室間の移動介助、浴室内までの介</li> </ul>

	<p>助、浴槽出入り介助、洗髪・洗体介助に取り組むことを決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明確になった具体的な課題に対し、どの課題に手順書やルールを作成するか決定した</li> </ul>
<p>手順 4 改善活動に 取り組もう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで手順書やルールなどを作成・共有したことがなく、入浴業務において“対応の仕方がわからない”、“不安がある”などの声が多く出た</li> <li>・ 2、3名で介助が必要な方や、認知症でコミュニケーションが難しい方に対して多くの職員が課題を感じていた。この二人の対応がうまくいくようになれば、他の利用者にも汎用できると考えたため、まずはこの二人に関する情報共有シートを作成した。</li> <li>・ 入浴業務を担当する職員が確認しやすいように、情報共有シートは脱衣所に掲示した。</li> <li>・ 作成した情報共有シートを実際に運用し、担当した職員が気がついた内容をアンケートを通じて回答した</li> </ul>
<p>手順 5 改善活動を 振り返ろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順 2 で実施したアンケートを再度行い、これまでの活動プロセスが業務にどのような影響を与えたのか比較した。</li> <li>・ アンケート結果をもとに事業所内で対話し、これまでのプロセスで何が良かったのか、今後の改善活動をどのように実施していったらより良くなるのかを整理した。</li> </ul>
<p>手順 6 実行計画を 練りなおそう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入浴業務における情報共有シートの修正プランを検討した。</li> <li>・ 入浴以外の情報共有についても、改善活動の計画を立てた。具体的には、記録に関してテクノロジーの活用を検討することとした</li> </ul>

## 業務アドバイザー連絡会

地域における導入支援活動が円滑に進むよう研修会や伴走支援の進捗状況とそれらを実施して得られた知見を共有する業務アドバイザー連絡会を実施した。

### 1) 業務アドバイザー連絡会の概要

	開催日	概要
第1回	令和5年10月18日	今後の伴走支援の参考とするため、各相談窓口における伴走支援の進捗状況や事例の共有を行った。
第2回	令和6年2月8日	今後の伴走支援の参考とするため、各相談窓口における伴走支援の事例共有を行った。 また、伴走支援によって得られた知見及び業務アドバイザーが有する専門的な知見を共有するための意見交換を行った。

## 第6項 地域のネットワーク構築を図る協議会

各相談窓口が担当する都道府県の担当部署や当該都道府県において介護ロボット等の導入に先進的に取り組んでいる介護事業所、地域の関係業界団体を構成員とした協議会を各窓口1回以上開催し、各構成員の取組、地域の状況等に係る情報の共有、都道府県が設置する介護生産性向上総合相談センターに関する意見交換、事業への要望等に関する意見聴取等を行い、地域のネットワークの構築を図った。

### (1) 各相談窓口の協議会開催実績

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
北海道 相談窓口	令和6年 3月13日	北海道医師会 医療法人社団大蔵会グループ 株式会社大蔵商事(大蔵サポート) 社会福祉法人 翔陽会 特別 養護老人ホーム 清明庵 株式会社マルベリー 理学療法士 北海道社会福祉協議会 地域 共生社会推進部長	・令和5年度北海道介護ロボット普及推進事業実施報告について ・令和5年度介護ロボット開発・実証・普及のプラットフォーム事業実施報告について ・令和6年度介護ロボット普及推進事業の概要について
青森 相談窓口	令和5年 7月7日	秋田県老人福祉施設協議会 秋田県介護老人保健施設連絡協議会 秋田県認知症グループホーム 連絡協議会	・介護現場における生産性向上 ・秋田県における介護現場の現状と施策動向 ・介護ロボットプラットフォーム

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
		秋田県社会福祉法人経営者協議会 秋田県ホームヘルパー協議会 秋田県介護支援専門員協会 秋田県介護福祉士会 介護労働安定センター秋田支部 秋田県社会福祉協議会 秋田県健康福祉部長寿社会課 日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科	事業説明 ・介護現場の状況とネットワーク構築に関する意見交換
岩手 相談窓口	令和5年 11月15日	岩手県保健福祉部長寿社会課 介護福祉担当 宮城県保健福祉部長寿社会政策課介護人材確保推進班 山形県健康福祉部高齢者支援課事業指導・介護人材育成担当 北上市福祉部長寿介護課介護給付係 岩手県社会福祉協議会高齢者福祉協議会 岩手県介護老人保健施設協会 岩手県作業療法士会 岩手県介護福祉士会 住田町社会福祉協議会(アンルス指定通所介護事業所) 医療法人三秋会(介護老人保健施設やまゆり) NPO 法人ファミリーサポートおひさま(グループホームひだまり)	・テーマ「介護生産性向上総合相談センター(仮称)設置に向けて」 ・介護現場の生産性向上の推進に向けた取り組みについて ・岩手相談窓口の事業の進捗状況について ・岩手県における介護現場の生産性向上の取り組みの現状について ・介護現場の生産性の取り組みの現状と課題に関する意見交換
	令和6年 3月6日	岩手県保健福祉部長寿社会課 介護福祉担当 岩手県商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室ものづくり産業振興担当 宮城県保健福祉部長寿社会政策課介護人材確保推進班 宮城県経済商工部新産業振興課産学連携推進班 山形県健康福祉部高齢者支援課事業指導・介護人材育成担当 山形県産業労働部産業技術イノベーション課ものづくり振興担当	・テーマ「介護生産性向上総合相談センター(仮称)設置及び介護ロボット・ICTの導入に向けて」 ・介護ロボットプラットフォーム事業について ・介護現場における生産性向上の取組について ・介護ロボットのプラットフォームにおける岩手相談窓口の取組 ・意見交換

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
		北上市福祉部長寿介護課介護 給付係 岩手県社会福祉協議会高齢者 福祉協議会岩手県介護老人保 健施設協会 岩手県作業療法士会 岩手県介護福祉士会 岩手大学工学部准教授 岩手県工業技術センター 仙台市産業振興事業団 住田町社会福祉協議会(アン ルズ指定通所介護事業所) 医療法人三秋会介護老人保健 施設やまゆり NPO 法人ファミリーサポートお ひさまグループホームひだまり	
新潟 相談窓口	令和5年 7月28日	新潟県老人福祉施設協議会21 世紀部 全国介護事業者連盟新潟県支 部 新潟県作業療法士会 新潟県社会福祉士会 新潟県介護福祉士会 新潟県福祉保健部高齢福祉保 健課 新潟県社会福祉協議会 福祉 人材課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護現場における生産性向 上について</li> <li>・ 新潟県における介護ロボッ トの現状・実態について</li> <li>・ 意見交換(各構成員より各団 体における現状と課題を報 告)</li> </ul>
	令和6年 3月19日	新潟県保健福祉部高齢福祉保 健課介護人材確保係 新潟県作業療法士会 新潟県老人福祉施設協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度「介護生産性向上総 合相談センター(仮称)」につ いて方針・連絡事項</li> <li>・ 今年度の活動報告</li> </ul>
栃木 相談窓口	令和5年 7月3日	栃木県保健福祉部高齢対策課 一般社団法人栃木県老人福祉 施設協議会 一般社団法人栃木県老人保健 施設協会 栃木県社会福祉法人経営者協 議会 一般社団法人栃木県介護福祉 士会 栃木県社会福祉協議会 安全なケア研究所 栃木県保健福祉部高齢対策課 栃木県社会福祉協議会 福祉 人材部 福祉人材・研修センタ ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度介護ロボットの開 発・実証・普及のプラットフォ ーム事業の概要について</li> <li>・ 地域医療介護総合確保基金 を活用した「介護生産性向上 総合相談事業」について</li> <li>・ 介護ロボット等の活用に向け た課題について</li> <li>・ 地域課題共有のためのアン ケート調査について(事務局 提案)</li> </ul>

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
	令和6年 2月26日	栃木県保健福祉部高齢対策課 一般社団法人栃木県老人福祉施設協議会 一般社団法人栃木県老人保健施設協会 栃木県社会福祉法人経営者協議会 一般社団法人栃木県介護福祉士会 栃木県社会福祉協議会 安全なケア研究所 栃木県保健福祉部高齢対策課 栃木県社会福祉協議会 福祉人材部 福祉人材・研修センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とちぎ相談窓口の活動報告について</li> <li>・地域課題共有のためのアンケート調査結果について</li> <li>・介護ロボット等の活用に向けた課題について</li> </ul>
埼玉 相談窓口	令和5年 7月25日	埼玉県老人福祉施設協議会 良宝園 埼玉県老人福祉施設協議会 見沼緑水苑 埼玉県介護老人保健施設協会 シルバーケア敬愛 埼玉県福祉部 高齢者福祉施設・事業者指導担当 埼玉県福祉部 高齢者福祉施設整備担当 埼玉県福祉部 高齢者福祉事業者指導担当 埼玉県社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組紹介 (1)介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業及び埼玉県内での伴走支援の取組等紹介 (2)各介護保険施設での介護ロボット導入や導入に向けた取組等紹介 (3)埼玉県における介護ロボットの普及促進・補助金等について</li> <li>・意見交換</li> </ul>
	令和6年 2月15日	埼玉県老人福祉施設協議会 特別養護老人ホーム良宝園 特別養護老人ホーム晴和苑 特別養護老人ホームベルホーム 埼玉県福祉部 高齢者福祉課施設・事業者指導担当 埼玉県福祉部 高齢者福祉課施設整備担当 埼玉県社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の取組紹介 (1)埼玉県老人福祉施設協議会 ○協議会にて実践する「介護ロボット関連事業」 (2)埼玉窓口における介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 ○埼玉窓口の取組 ○介護ロボット普及に関する意見交換会</li> </ul>
横浜 相談窓口	令和5年 9月15日	かながわ福祉サービス振興会 経済産業省 医療・福祉機器産業室 特別養護老人ホーム寒川ホーム 特別養護老人ホームサニーヒル横浜 株式会社イノフィス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度介護・生活支援ロボット普及推進協議会 事業進捗報告</li> <li>・令和5年度実証実験について1</li> <li>・令和5年度実証実験について2</li> <li>・講演「経済産業省におけるロ</li> </ul>

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
		富士ソフト株式会社 リコージャパン株式会社 ユニカミノルタ株式会社 日本セイフティー株式会社 アロン化成株式会社	ボット介護機器産業政策について」
富山 相談窓口	令和5年 5月17日	富山大学 富山県作業療法士会 富山県理学療法士会 富山県介護福祉士会	・ 介護ロボットのプラットフォーム事業について ・ 出張展示会について
愛知 相談窓口	令和5年 7月11日	あいち健康の森公園管理事務所 社会福祉法人愛知県厚生事業団 愛厚ホーム大府苑 社会福祉法人仁至会 介護老人保健施設 ルミナス大府 株式会社オリジン フラワーサーチ大府 社会福祉法人成仁会 メドック東浦 社会福祉法人愛光園 相生 大府商工会議所 中小企業相談所 東浦町商工会 大府市 商工業ウェルネスバレー推進課 東浦町 商工振興課 【オブザーバー】 愛知県福祉局高齢福祉課 愛知県経済産業局産業振興課次世代産業室 【特別参加】 株式会社ジェネラス 就労継続支援B型施設 とこはぐ大府	・ 施設見学(国立長寿医療研究センター) ・ 新たに開設された施設のヘルスケア産業振興 WG への参加について:株式会社ジェネラス 就労継続支援B型施設 とこはぐ大府 ・ 令和5年度の活動について:事務局 ・ 介護ロボットのプラットフォーム事業について:国立長寿医療研究センター ・ Independent Ageing2023 (10/13-15) について:国立長寿医療研究センター ・ ひがしうら Re-Bone グルメについて:東浦町 ・ 愛知県の健康長寿産業振興施策について:愛知県次世代産業室 ・ 愛知県高齢福祉課の施策について:愛知県高齢福祉課 ・ 企業からの実証相談:事務局等
	令和6年 2月6日	あいち健康の森公園管理事務所 社会福祉法人愛知県厚生事業団 愛厚ホーム大府苑 社会福祉法人仁至会 介護老人保健施設 ルミナス大府 株式会社ジェネラス 就労継続支援B型施設 とこはぐ大府 社会福祉法人成仁会 メドック東浦 社会福祉法人愛光園 相生	・ 新たに開設された施設のヘルスケア産業振興WGへの参加について:エイチュアース(株)メドックホーム栄風館 ・ 令和5年度ウェルネスバレー推進協議会について:事務局 ・ 令和5年度の活動について:事務局 ・ 介護ロボットのプラットフォーム事業について:国立長寿医

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
		大府商工会議所 中小企業相談所 東浦町商工会 大府市 商工業ウェルネスバレー推進課 東浦町 商工振興課 <b>【オブザーバー】</b> 愛知県福祉局高齢福祉課 愛知県経済産業局産業振興課 次世代産業室 愛知県経済産業局革新事業創造部 スタートアップ推進課 <b>【特別参加】</b> エイチユアース株式会社メドックホーム栄風館	療研究センター ・ひがしうら Re-Bone グルメについて:東浦町 ・愛知県の健康長寿産業振興施策について:愛知県次世代産業室 ・愛知県高齢福祉課の施策について:愛知県高齢福祉課 ・企業・スタートアップからの実証相談:事務局等 ・令和6年度の活動について:事務局
大阪 相談窓口	令和6年 3月11日	大阪府社会福祉協議会 大阪府介護老人保健施設協会 介護労働安定センター 大阪支部 大阪介護福祉師会 大阪府	・介護現場における生産性向上の政策動向について ・各府県における生産性向上に関する施策の検討状況について ・介護ロボット相談窓口(大阪) ・介護現場の生産性の進め方について
徳島 相談窓口	令和5年 7月18日	徳島県 香川県 徳島県老人福祉施設協議会 日本認知症グループホーム協会 徳島県老人保健施設協議会 徳島県介護福祉士会 専門学校健祥会学園 全国老人福祉施設協議会 香川県老人福祉施設協議会 香川県老人保健施設協議会 香川県グループホーム・小規模多機能連絡協議会	・介護現場の生産性向上の推進に向けた取組について ・徳島県の介護ロボット普及状況と今後の方針について ・香川県の介護ロボット普及状況と今後の方針について ・徳島窓口の取組紹介 ・介護ロボットの普及および介護現場の生産性向上の推進に向けた課題、介護生産性向上総合相談センター設置について、生産性向上の意義の伝え方について、地域における課題・普及・啓発ネットワーク構築に向けての意見交換
	令和6年 2月26日	徳島県 全国老人福祉施設協議会 徳島県老人福祉施設協議会 徳島県老人保健施設協議会 日本認知症グループホーム協会 専門学校健祥会学園 徳島県介護福祉士会	・生産性向上に関する動向について ・令和5年度事業報告 ・施設の取組紹介 ・介護ロボットの普及および介護現場の生産性向上の推進に向けた課題への意見交換

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
		香川県 香川県老人福祉施設協議会 香川県老人保健施設協議会 香川県グループホーム・小規模多機能連絡協議会	
愛媛 相談窓口	令和5年 7月5日	聖カタリナ大学 愛媛県老人福祉施設協議会 愛媛県老人保健施設協議会 愛媛県ホームヘルパー協議会 愛媛県地域密着型サービス協会 全国介護事業者連盟 愛媛県支部 愛媛県介護福祉士会 愛媛県福祉サービス協会 介護労働安定センター愛媛県支部 特定非営利活動法人 ICT 愛媛 特別養護老人ホームつわぶき荘 高知県社会福祉協議会 愛媛県保健福祉部長寿介護課 株式会社TRAPE 株式会社善光総合研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場の生産性向上の推進に向けた取組について</li> <li>・介護ロボットプラットフォーム事業について(事業概要・報告/伴走支援の事例報告)</li> <li>・介護生産性向上推進事業について 介護労働安定センター</li> <li>・各団体の介護ロボに関する現状報告・意見交換等</li> </ul>
	令和6年 3月8日	聖カタリナ大学 愛媛県老人福祉施設協議会 愛媛県老人保健施設協議会 愛媛県ホームヘルパー協議会 愛媛県地域密着型サービス協会 全国介護事業者連盟 愛媛県支部 愛媛県介護福祉士会 愛媛県福祉サービス協会 介護労働安定センター愛媛県支部 高知県社会福祉協議会 愛媛県保健福祉部長寿介護課 株式会社TRAPE 株式会社善光総合研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場の生産性向上に関する動向について</li> <li>・令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画について</li> <li>・愛媛県社会福祉協議会(愛媛県介護ロボット相談窓口)</li> <li>・意見交換(現状報告・課題提起等)</li> </ul>
広島 相談窓口	令和5年 10月13日	広島県 一般社団法人シルバーサービス振興会 公益財団法人テクノエイド協会 広島市域訪問介護事業所連絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会の目的や存在意義について参加者と共有</li> <li>・介護現場の生産性向上の推進に向けた取組について</li> <li>・介護における「生産性向上とは何か?」の目線あわせ</li> <li>・先進施設さまからの取組み事</li> </ul>

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
		一般社団法人広島県介護福祉士会 介護労働安定センター広島支部 社会福祉法人広島県社会福祉協議会 社会医療法人社団陽正会 介護医療院みのり 医療法人永和会 老人保健施設かなえ 株式会社 TRAPE	例の発表 ・ 将来の地域増について(目的の共有、課題の抽出) ・ 上記課題についての具体的な取組みについて
	令和6年 2月28日	広島県 広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会 介護労働安定センター広島支部 社会福祉法人広島県社会福祉協議会 社会福祉法人新市福祉会 社会福祉法人福祉広医会 医療法人社団聖仁会 株式会社 TRAPE	・ 広島県内における生産性向上に関する状況の共有 ・ 広島県の発表を受けて、県内の各団体を交えての協議 ・ 令和5年度伴走支援事業所から取組み報告 ・ 広島県内の各団体を交えての協議(取組み報告を受けて)
北九州 相談窓口	令和5年 6月23日	福岡県老人福祉施設協議会 公益社団法人福岡県介護老人保健施設協会 一般社団法人全国介護事業者連盟九州支部 麻生医療福祉専門学校福岡校 介護福祉科・ソーシャルワーカー科 厚生労働省老健局高齢者支援課介護業務効率化・生産性向上推進室 福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課介護人材確保対策室	・ 事務局説明 ・ 「介護現場における生産性向上について」:厚生労働省 ・ 「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業について」:NTT データ経営研究所 ・ 「今年度の取組状況と次年度以降の福岡県の取組みについて」:福岡県 ・ 意見交換
	令和6年 2月9日	福岡県老人福祉施設協議会 公益社団法人福岡県介護老人保健施設協会 一般社団法人全国介護事業者連盟九州支部 麻生医療福祉専門学校福岡校 介護福祉科・ソーシャルワーカー科 厚生労働省老健局高齢者支援課介護業務効率化・生産性向上推進室	・ 事務局説明 ・ 「介護現場の生産性向上等を通じた働きやすい職場環境づくり」:厚生労働省 ・ 「次年度以降の福岡県の取組みについて」:福岡県 ・ 「センターによる伴走支援の報告」:事務局 ・ 意見交換

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
		福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課介護人材確保対策室	
大分相談窓口	令和5年9月8日	大分県社会福祉介護研修センター 宮崎県老人福祉サービス協議会 宮崎県老人保健施設協会 社会福祉法人スマイリング・パーク 宮崎県社会福祉協議会 安心生活部 宮崎県社会福祉協議会 人材研修部 宮崎県 福祉保健部 長寿介護課 施設介護担当 宮崎県老人福祉サービス協議会 宮崎県老人保健施設協会 宮崎県社会福祉協議会 人材研修部 福祉人材センター 宮崎県 福祉保健部 長寿介護課 施設介護担当 宮崎県 福祉保健部 福祉保健課 地域福祉保健・自殺対策担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (1)介護現場の生産性向上に向けた介護ロボットの開発・実証・普及の プラットフォーム事業について</li> <li>・ (2)宮崎県の現状</li> <li>・ (3)令和5年度事業計画について</li> <li>・ 意見交換会</li> </ul>
	令和6年2月8日	大分県社会福祉法人経営者協議会 大分県老人福祉施設協議会 大分県知的障害者施設協議会 大分県身体障害児者施設協議会 大分県老人保健施設協会 大分県介護福祉士会 別府溝部学園短期大学 後藤学園智泉福祉製菓専門学校 大分県立大分南高等学校 大分労働局職業安定部職業対策課 大分公共職業安定所 介護労働安定センター大分支部 大分県福祉保健部高齢者福祉課 大分県福祉保健部障害福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (1)最近の雇用情勢及び産業別賃金動向について</li> <li>・ (2)介護人材確保に向けての令和5年度の取組状況及び令和6年度の取組予定について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 労働環境の整備推進</li> <li>イ キャリアアップの仕組みの構築</li> <li>ウ 福祉・介護サービスの周知・理解</li> <li>エ 潜在的有資格者等の参入の促進等、多様な人材の参入・参面の促進</li> <li>オ その他(福祉系学校の取組)</li> </ul> </li> <li>・ (3)介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 介護現場の生産</li> </ul> </li> </ul>

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
		大分県商工観光労働部雇用労働政策課 大分県福祉人材センター (大分県社会福祉介護研修センター) 施設団体支援部 大分県社会福祉介護研修センター 大分県福祉保健部介護サービス事業班 大分大学 理工学部 福祉メカトロニクスコース 社会福祉法人大翔会 大分県老人福祉施設協議会 大分県社会福祉法人経営者協議会 大分県老人保健施設協会	性向上の推進に向けた取組みと最新情報 イ 先進施設の取組と令和6年度の事業予定について ・意見交換
鹿児島 相談窓口	令和5年 8月24日	鹿児島県くらし保健福祉部 高齢者生き生き推進課 介護保険室 鹿児島県老人保健施設協会 鹿児島県老人福祉施設協議会 鹿児島県理学療法士協会 鹿児島県作業療法士協会 特別養護老人ホーム さつま園 特別養護老人ホームシルクロード七福神 鹿児島大学医学部保健学科 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科 <b>【オブザーバー】</b> 鹿児島県くらし保健福祉部 高齢者生き生き推進課 介護保険室 熊本県健康福祉部長寿社会局 高齢者支援課 熊本県健康福祉部長寿社会局 高齢者支援課 沖縄県子ども生活福祉部 高齢者福祉介護課	・事業説明 「厚生労働省「介護生産性向上総合相談事業」及び「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」について」 ・行政説明 「鹿児島県における介護ロボットの導入状況等」 ・意見交換 「介護ロボットの普及・導入について」
	令和6年 2月16日	鹿児島県くらし保健福祉部 高齢者生き生き推進課 介護保険室 鹿児島県老人福祉施設協議会 鹿児島県理学療法士協会 鹿児島県作業療法士協会 特別養護老人ホーム さつま園	・事業説明 「介護ロボットプラットフォーム事業及び介護生産性向上推進総合事業について」 ・介護ロボット相談窓口の活動状況について ・行政説明

相談窓口名	開催日	構成メンバー(順不同)	議事
		特別養護老人ホームシルクロード七福神 特別養護老人ホーム 松恵園 介護老人保健施設 ひまわり 鹿児島大学医学部保健学科 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科 <b>【オブザーバー】</b> 鹿児島県くらし保健福祉部 高齢者生き生き推進課 介護保険室	「鹿児島県における介護ロボットの導入状況等について」 ・意見交換 「介護ロボットの普及・導入について」

(2)協議会における事例の紹介

➤ 大阪相談窓口

開催日時・会場	日時:令和6年3月11日 15:00~17:00 会場:ATC エイジレスセンター
協議会のゴール設定	介護現場の生産性向上に関する直近の施策・取組の動向を共有し、生産性向上の進め方、地域の関係団体との連携について共通理解をもつこと
委員構成	<b>【関係団体】</b> 大阪府社会福祉協議会 大阪介護老人保健施設協会 大阪介護福祉会 介護労働安定センター 大阪支部 <b>【自治体】</b> 大阪府 福祉部 高齢介護室 介護事業者課 整備調整グループ 京都府 健康福祉部 地域福祉推進課 福祉人材・法人指導係 奈良県 福祉医療部 長寿・福祉人材確保対策課 人材確保・育成係 和歌山県 福祉保健部 福祉保健政策局 長寿社会課 <b>【事業関係者】</b> 厚生労働省 老健局 高齢支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット開発・推進室 ATC エイジレスセンター(業務アドバイザー含む) NTT データ経営研究所

議事概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護現場における生産性向上の政策動向について</li> <li>2. 各府県における生産性向上に関する施策の検討状況について</li> <li>3. 介護ロボット相談窓口(大阪)成果報告について</li> <li>4. 介護現場の生産性向上の進め方について <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の関係団体における生産性向上に関連する令和6年度の取組内容について</li> <li>➤ 地域におけるモデルの考え方(案)について</li> <li>➤ 生産性向上における地域の関係団体との連携について</li> </ul> </li> </ol>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護現場の生産性向上に関連する国、自治体、関係団体の最新の動向を関係者で共有した。</li> <li>・ 地域におけるモデルの考え方について、地域の実情を踏まえて意見交換を行った。</li> <li>・ 今後、地域で生産性向上を推進するため、関係団体と窓口が共に取組むこと、具体的には周知、相談の取次、モデルの構築・活用において連携することを合意した。</li> </ul>

## 第7項 その他の取組

### (1) 相談窓口勉強会の実施

相談窓口において、ニーズ相談、シーズ相談双方について、より専門的な内容にも対応できるよう相談窓口の方が相互に学び合える勉強会を、WEB 会議システムを通じて9回実施した。また、都道府県に設置される介護生産性向上総合相談センターにもオブザーバー参加を可能とした。

#### 1) 勉強会の概要

	開催日	概要
第1回	令和5年6月15日	生産性向上の取組と介護ロボットの関係について生産性向上ガイドラインを基に説明した。
第2回	7月20日	介護生産性向上総合相談センターの手引きについて説明した。
第3回	8月17日	パッケージ導入モデルに基づいた伴走支援の進め方の理解を促すため、改訂版のパッケージ導入モデルについての説明及び標準的な伴走支援の進め方について紹介を行った。
第4回	9月21日	専門的な相談対応に活かせるよう相談窓口における専門的な相談対応業務の好事例について紹介を行った。

	開催日	概要
第5回	10月19日	相談対応の能力の向上を図ることを目的に、生産性向上ガイドラインの詳細説明を行った。
第6回	11月16日	相談窓口を運営する自組織が介護生産性向上総合相談センターへ移行した際のイメージを示すため、介護生産性向上総合相談センターの取組内容を事例を基に説明を行った。
第7回	12月21日	今後の伴走支援の取組の参考として、伴走支援の中間報告と好事例の共有を行った。
第8回	令和6年1月18日	第7回に引き続き、今後の伴走支援の取組の参考として、伴走支援の中間報告と好事例の共有を行った。
第9回	2月15日	本年度の総括として、取組成果を共有するとともに、各相談窓口における事例の共有を行った。

## 第8項 導入実績

相談対応、体験展示及び試用貸出の相談窓口の取組を通じて、介護ロボットの導入に至った実績を以下に示す。なお、相談窓口における取組のフォローアップにより把握できたもののみを掲載する。

(1) 導入実績数(全相談窓口合計)

64件

(2) 導入に至った経緯(複数の取組を経て導入に至ったものについては重複してカウントした)

・相談対応から導入に至った件数

60件

・試用貸出から導入に至った件数

17件

・体験展示から導入に至った件数

12件

### 第3章 リビングラボにおける取組について

#### 第1節 リビングラボ設置の目的

介護ロボットの開発企業が、介護現場のニーズに合う介護ロボットを開発するためには、ロボット開発の過程で、実際の使用環境に近い模擬環境でロボットを使用して、その効果や安全性を確かめることが不可欠である。実際の使用環境での利用者の生の声を基に機器の改良や、顧客となるターゲット群の見直し価格設定の変更を行う等、開発の過程で適宜、現場からのフィードバックに基づき、方針や仕様に改良を重ねていくことが必要となる。

リビングラボは、ネットワーク化することで、それぞれの強みを活かした相談を受ける事が可能となるなど、模擬生活環境や、測定機器、専門職によるアドバイスを基に、開発企業から持ち込まれた製品の安全性や効果の検証及び、実証の支援を行い、開発企業にフィードバックをすることを目的として設置された。

#### 第2節 リビングラボにおける取組

##### (1) 開発企業からの相談対応

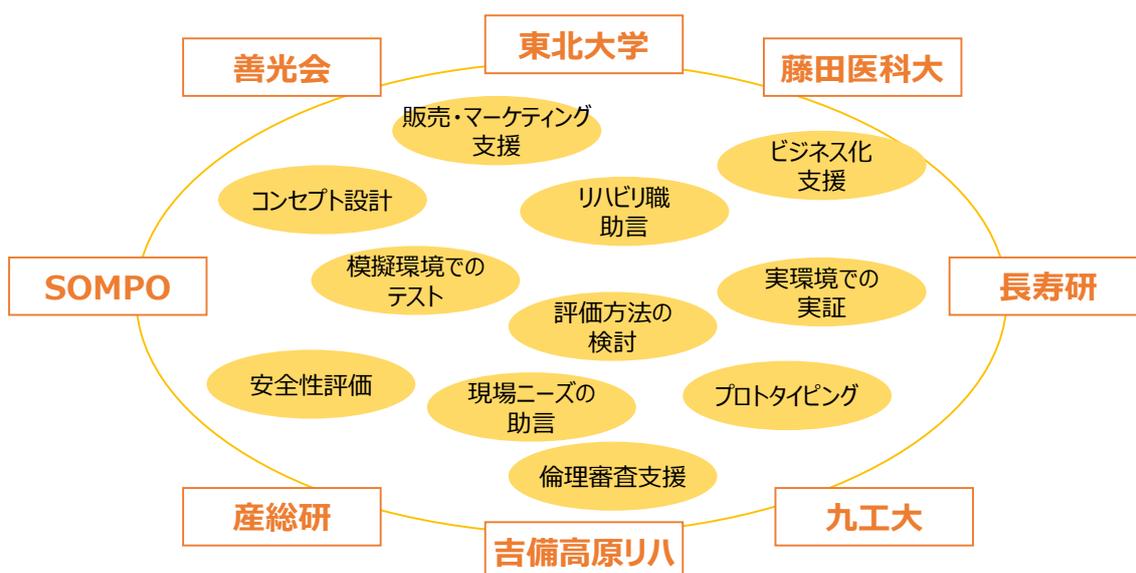
リビングラボは、開発企業からの相談に対して「製品評価・効果検証」「効果検証に係る助言」の2つを主な取組として実施した。本事業では、「製品評価・効果検証」と「効果検証に係る助言」を以下の様に整理した。

図表 3-1 「相談対応」と「ラボ検証」と「実証支援」の違い

	概要	試験環境	試験実施者
相談対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せや電話対応等の話し合いを主な実施事項とし、ラボの機材や環境を用いないで、対応したもの</li> </ul>	N/A (使用しない)	N/A (実施しない)
ラボ検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>リビングラボの施設や設備を利用して対応したもの</li> <li>仮に、製品が実際の利用者に使用された場合の効果を検証したもの</li> <li>実際の利用者が対象ではないもの(健常者を対象)</li> </ul>	リビングラボなどの安全性が確保された模擬環境	評価・検証に必要な専門知識を有した者
実証	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品を実際の利用者に実際の利用環境で使用してもらい、効果検証や改善点の導出を行ったもの</li> </ul>	介護施設等の当該製品が実際に使用される環境	実際のユーザー

本事業に携わるリビングラボはそれぞれ異なる強みや特徴を有しており、製品に至る前段階でのコンセプト設計に対する相談や、プロトタイピングを行うリビングラボもあれば、倫理審査支援や販売・マーケティング支援等の相談対応を実施した。必ずしも「ラボ検証」「実証支援」に限定されない取組も実施した。なお、開発企業からの相談には、相談窓口からの取り次ぎによるもの、開発企業から直接の問合せによるもの、ニーズ・シーズマッチング支援事業からの紹介によるものがあった。

図表 3-2 8つのリビングラボが有する機能の全体イメージ



## (2) 会議体への参加

また、リビングラボは開発企業からの相談対応の他に後述する年3回開催の「リビングラボネットワーク定例会議」、年2回開催の「相談窓口・リビングラボネットワーク定例会議」へ参加し、支援事例の共有等を行った。

## 第3節 各リビングラボの概要

リビングラボネットワークを形成する8つのリビングラボは、それぞれが異なる特徴を有している。3D プリンタやレーザーカッター等を揃え充実したプロトタイピング環境を備える施設や、リハビリテーション科専門医やセラピストが実生活環境を模した施設で実際のロボットを活用しながらアドバイスを行う施設、安全性評価やリスクアセスメントに強みを持つ施設、実際の介護現場を複数運営し、介護現場での介護ロボットの実証支援や、介護現場目線でのアドバイスに強みを持つ施設が参画した。

以下に各リビングラボの名称、所在地、WEB サイト URL、紹介動画、コンセプト・特徴、可能な支援内容を示す。

(1) 東北大学青葉山リビングラボ

所在地	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01 東北大学大学院工学研究科機械系共同棟 5 階
URL	<a href="https://srd.mech.tohoku.ac.jp/living-lab/">https://srd.mech.tohoku.ac.jp/living-lab/</a>
コンセプト・特徴	<p><b>次世代介護を実現する新しい介護ロボットの創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次世代介護ロボットの研究開発を行っている国内外の研究者との連携により、社会実装を前提とした取り組みを支援</li> <li>・ 複数の介護ロボットやセンサシステムとの連携により、1 台の介護ロボットに限定しない協調型介護支援システムの構築を支援</li> <li>・ トイレ、風呂、キッチン等を有した介護施設模擬環境や、階段、スロープ、荒れ地等の屋外模擬環境を整備予定</li> <li>・ VR やプロジェクタ等を利用した動的環境を模擬した介護ロボット評価システムを整備予定</li> </ul>
可能な支援内容	<p><b>最先端技術を利用したロボット評価とニーズ・シーズ連携支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モーションキャプチャ、床反力計等を利用した介護支援動作、被介護者動作、介護ロボット動作等の 3 次元計測・解析</li> <li>・ 模擬環境を利用した開発システムの環境適合性評価</li> <li>・ 他の介護ロボットや次世代介護ロボットとの連携検証評価</li> <li>・ 3D プリンタ等を利用したプロトタイプ開発支援</li> <li>・ 県内外の介護施設と連携した実証実験のコンサルティング</li> </ul>

(2) Care Tech ZENKOUKAI Lab ((福)善光会 サンタフェ総合研究所)

所在地	〒144-0033 東京都大田区東糀谷六丁目 4 番 17 号
URL	<a href="https://caretechlab.sfri.jp/">https://caretechlab.sfri.jp/</a>
紹介動画	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=P2_OoOX8NZ0">https://www.youtube.com/watch?v=P2_OoOX8NZ0</a>
コンセプト・特徴	<p><b>実績豊富な『考えられる現場』が実現する次世代介護</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで 130 種に及ぶ介護ロボット・機器を運営する施設</li> <li>・ 企業技術を活用した機器開発のコンセプト企画から現場実証、マーケティング支援まで、現場で本当に活用されていくソリューションを生み出す</li> </ul>
可能な支援内容	<p><b>企画・製品評価・実証・マーケティング等広く支援可能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業技術を活用した機器開発のコンセプト企画</li> <li>・ 製品品質や性能向上のためのフィードバック</li> <li>・ 機器運用下での職員負担の軽減具合や、職員の試用満足度評価等の変化検証</li> <li>・ 機器運用下でのサービス品質(利用者の状態変化)の検証</li> <li>・ 現場実証</li> <li>・ マーケティング支援</li> </ul>

(3) Future Care Lab in Japan (SOMPO ホールディングス(株)、SOMPO ケア(株))

所在地	〒140-0002 東京都品川区東品川 4-13-14 グラスキューブ品川 10 階
URL	<a href="https://futurecarelab.com/">https://futurecarelab.com/</a>
紹介動画	<a href="https://youtu.be/XRbjv9f3if4">https://youtu.be/XRbjv9f3if4</a>
コンセプト・特徴	<p><b>介護サービス運営実績に基づく現場ニーズの収集</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食堂・風呂・介護施設の居室を再現し、人間とテクノロジーの共生をしながら新しい介護のあり方を追求する研究所</li> <li>・ 在宅介護から施設介護までフルラインナップで運営しているため、現場ニーズをダイレクトに収集可能</li> <li>・ 現場実証を通じて、介護ロボット実装の際に起きうる課題や懸念点の洗い出しが可能</li> </ul> <p><b>デンマークの ATAT を参考にした指標での評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デンマークの ATAT(※)は、障害者支援機器の導入検討時に使用される評価フレーム。</li> <li>・ この ATAT を参考に、ヒアリング、アンケート等を活用して以下を定量的・定性的に評価</li> <li>・ 製品の精度・安全性・ケアの品質・介護士の業務負担・費用対効果</li> </ul> <p>(※)ATAT:Assistive Technology Assessment Tool)</p>
可能な支援内容	<p><b>介護施設を模した施設・介護施設での評価・効果検証</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護施設を模した施設にて製品を試験的に使用し、評価・効果検証</li> <li>・ 実際の介護施設内でも評価・効果検証</li> <li>・ ヒアリング、アンケート、高齢者の状態把握等により定量的・定性的に評価</li> </ul>

(4) 柏リビングラボ ((国研)産業技術総合研究所)

所在地	〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 6-2-3 東京大学柏 II キャンパス内 社会イノベーション棟
URL	<a href="https://unit.aist.go.jp/harc/arrt/ARRT.html">https://unit.aist.go.jp/harc/arrt/ARRT.html</a>
紹介動画	<a href="https://youtu.be/Vf9ZcAPj13Q">https://youtu.be/Vf9ZcAPj13Q</a>
コンセプト・特徴	<p><b>模擬生活環境の活用と介護関係者からの意見収集によるロボットの効果・性能評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キッチン、風呂、トイレなどを含む模擬生活環境や、温度湿度を調整できる人工気候室を保有している。</li> <li>・ これまでのロボット介護機器開発・導入プロジェクトにおける多くのメーカーへの開発支援を通じて、ロボットの安全性や効果・性能の評価に関して取り組んできた。</li> <li>・ 多様な意見を集めるため、介護ロボットの研究者に加えて、柏地域の介護関係者および住民参加型のワークショップを開催する。</li> </ul>
可能な支援内容	<p><b>リスクアセスメント・環境適合性評価・ワークショップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リスクアセスメントシート等での機器のコンセプトや安全性の確認</li> <li>・ 模擬生活環境や人工気候室を用いた環境適合性の評価検証</li> <li>・ 介護関係者および住民参加型のワークショップにおける意見聴取</li> </ul>

(5) 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター

所在地	〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ケ窪 1 番地 98 藤田医科大学病院内
URL	<a href="https://www.fujita-hu.ac.jp/rsh-aat/">https://www.fujita-hu.ac.jp/rsh-aat/</a>
紹介動画	<a href="https://youtu.be/oLSNRafp6ow">https://youtu.be/oLSNRafp6ow</a>
コンセプト・特徴	<p><b>実環境を模した実証研究施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者世帯が生活する実環境を模した実証研究施設で、長寿社会に適した住まいの開発を目指す。</li> <li>・ 介護・医療現場を熟知したリハビリテーション科専門医や理学療法士、作業療法士、リハビリテーション工学士が、随時相談可能。</li> <li>・ 複数の評価・解析機器が整備されており、紹介や実証試験も実施可能。</li> </ul>
可能な支援内容	<p><b>倫理審査等の幅広い支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護現場のニーズの反映方法に関する助言</li> <li>・ 利用効果の科学的な実証に関する助言</li> <li>・ 実証時に取得が必要なデータとその分析方法に関する助言</li> <li>・ 倫理審査に関する助言</li> <li>・ 実証環境、計測解析機器の紹介</li> </ul>

(6) (国研)国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター

所在地	〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430
URL	<a href="https://platform.ncgg.go.jp/">https://platform.ncgg.go.jp/</a>
紹介動画	<a href="https://youtu.be/bkJf8WxGfMU">https://youtu.be/bkJf8WxGfMU</a>
コンセプト・特徴	<p><b>ナショナルセンターとして高齢者医療・介護・生活にロボットを適合</b></p> <p>国立長寿医療研究センターは日本にある 6 つの国立高度専門医療研究センターの一つ。健康長寿支援ロボットセンターはそのセンター内センターとして、高齢者の生活や活動を支えるロボットを医療・介護・生活の場に普及するための拠点として、開発者のシーズを生活の場に適合させるための評価研究を実施している。</p> <p><b>動線解析による介護効率の分析・腰部への負担軽減計測等</b></p> <p>現在 20 以上のプロジェクトが同時進行。最近では介護ロボットの評価方法の標準化事業(AMED)に採択され、動線解析による介護効率の分析、介護ロボットの腰部への負担軽減を深部筋の活動を計測できる特殊な電極と三次元動作分析で実施するなどの活動に注力している。</p>
可能な支援内容	<p><b>製品の長所を活かした利用方法と検証方法を検討</b></p> <p>年間 7,200 人超の患者に対するリハビリ(理学療法・作業療法・言語聴覚療法を含む)と、これまでの製品開発支援のノウハウを生かし、シーズの長所を活かした利用シーンを提案</p> <p><b>長所の分析を踏まえた実証方法/実証場所の提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回復期リハビリテーション病棟</li> <li>・ 模擬生活環境(日常生活動作訓練室)</li> <li>・ 在宅(訪問リハビリ、認知症リハビリ参加者)</li> </ul> <p><b>専門家および実際に支援を必要とする方の意見を反映</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療従事者</li> <li>・ 入院・通院・訪問の患者とその家族</li> </ul>

(7) ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター)

所在地	〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 7511
URL	<a href="https://www.kibirihah.johas.go.jp/003_reha/16_kaigo_roboto.html">https://www.kibirihah.johas.go.jp/003_reha/16_kaigo_roboto.html</a> (独)労働者健康安全機構 ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター) 内のページ
紹介動画	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=9ZoT_toIWY">https://www.youtube.com/watch?v=9ZoT_toIWY</a>
コンセプト・特徴	<b>リハビリテーション専門職員によるロボットの臨床効果の検証</b> ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター)は、回復期リハビリテーション後の社会復帰までの医療を担当するリハビリテーション専門病院で、社会復帰に必要な生活環境の整備や福祉機器の開発、脊髄再生医療を視野に入れたロボティクスを用いたリハビリテーション治療を行っている。 脊髄損傷のリハビリテーション科専門医、理学療法士、作業療法士、医用工学研究員による、様々な福祉機器の臨床的評価が可能。
可能な支援内容	<b>実際の生活場面・リハビリ医療現場での臨床評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬生活環境(トイレ、風呂など)において、機器の整合性の評価、工学的な技術を用いた定量的評価</li> <li>・ 脊髄損傷者のリハビリテーション科専門医師、理学療法士、作業療法士による、製品化や安全性に関する評価と助言</li> <li>・ 安全性が担保された機器について、リハビリテーション臨床現場で実際に使用することによる臨床評価</li> </ul>

(8) スマートライフケア共創工房 (大)九州工業大学)

所在地	〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの 2-5 情報技術高度化センター
URL	<a href="https://slc3lab.jp/">https://slc3lab.jp/</a>
紹介動画	<a href="https://youtu.be/enZUh8XEHKw">https://youtu.be/enZUh8XEHKw</a>
コンセプト・特徴	<p><b>当事者参加型のアイデア出し、評価実験、プロトタイピングを実施可能</b></p> <p>被介護者(高齢者や障がい者)や介護者(介護福祉士、理学療法士、作業療法士、介護施設経営者)など当事者の協力をアイデア段階から得ることが可能。また、模擬環境で介護者・被介護者同時にモーション、筋電位、足裏圧力分布などの計測が可能で、更に筋骨格モデルを用いた筋活動推定やウェアラブル脳活動計測装置活用のご相談にのることも可能。また、大型の光造形式 3D プリンタや、大型のレーザーカッター、またトルク制御可能なロボットモジュールなど、プロトタイピング環境も備える。</p> <p><b>介護施設での大規模実証も相談可能</b></p> <p>実験は共創工房内の基礎的かつ精密なものだけでなく、北九州市内の介護施設における製品の大規模実証実験の相談も可能。</p>
可能な支援内容	<p><b>複数の大学院教員や、北九州市と連携した幅広い支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロボティクス、脳科学、福祉工学、AI などを専門とする大学院教員への相談</li> <li>・ 九州工業大学や北九州市介護ロボットコンソーシアムの倫理委員会に対する倫理申請に関する助言</li> <li>・ 共創工房の機器を用いた計測解析やプロトタイピングに関する助言</li> <li>・ 実証時に取得が必要なデータとその科学的分析方法に関する助言</li> </ul> <p><b>具体的な社会実装の支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スマートフォンを用いた行動認識アプリの紹介</li> <li>・ 実証や販促に向けた介護 IT インストラクタ制度の紹介</li> </ul>

なお、上記 8 つのリビングラボを本事業では、「基幹型」リビングラボと呼称した。他方、リビングラボネットワーク定例会議にのみ参加する組織である「支援型」リビングラボとして、以下の 7 つの組織が参画した。

- 社会福祉法人 孝徳会
- 社会福祉法人 こうほうえん
- 全国老人保健施設協会

- 東北福祉大学・社会福祉法人東北福祉会
- 徳島文理大学
- 北陸大学
- 株式会社 ベネッセスタイルケア

## 第4節 各取組について

### 第1項 相談対応

8つのリビングラボの月平均の相談対応数は17.2件であり、延べ206件(3月22日時点。以下同様とする)となった。104企業の相談に対応し、そのうち44企業に対して、リビングラボは複数回の相談対応を行った。

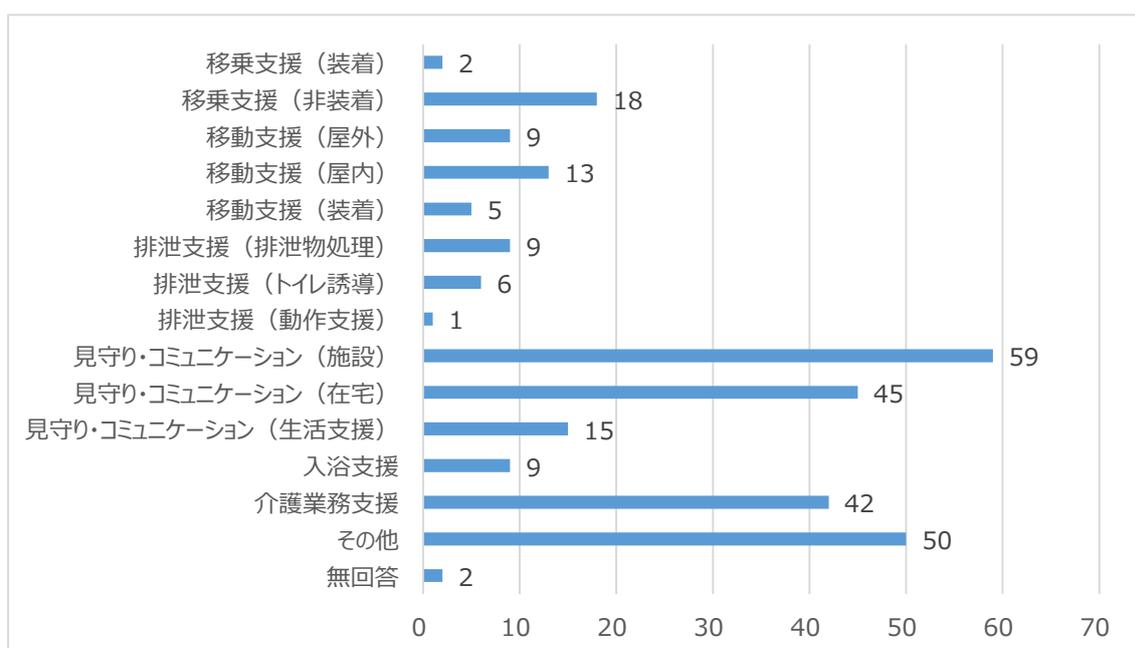
図表 3-3 リビングラボにおける相談対応実績



相談対応を行った企業が開発中・検討中のロボットの分野は、「見守り・コミュニケーション(施設)」が最も多く、次いで「見守り・コミュニケーション(在宅)」が多かった。

図表 3-4 開発中・検討中のロボットの分野

n=206(複数回答)



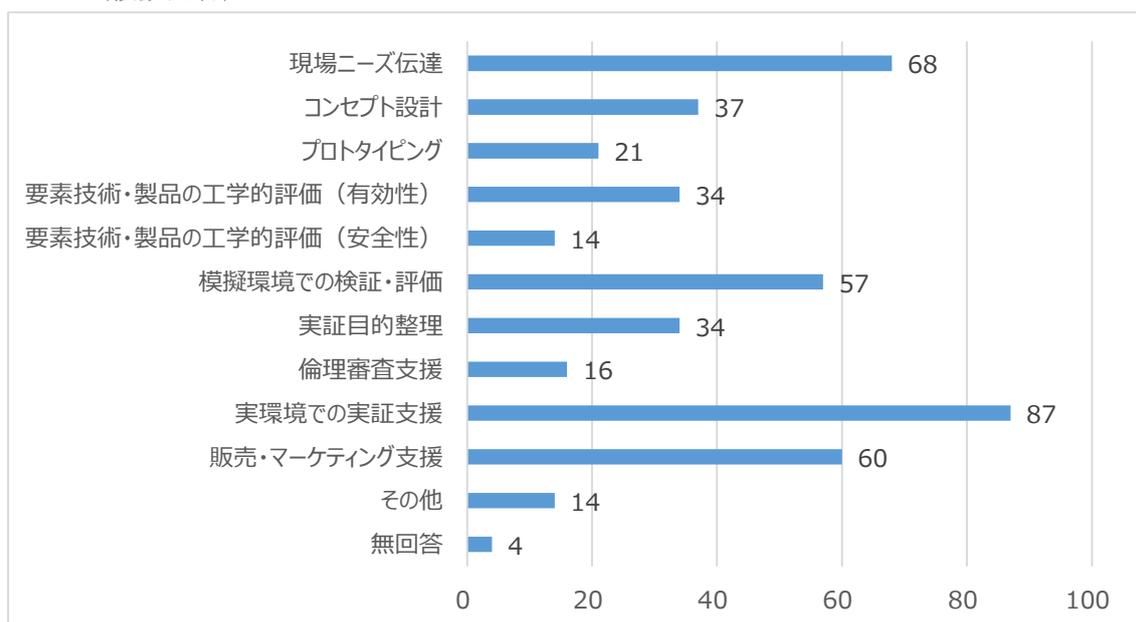
「その他」の内容(抜粋・一部加工)

- ・ 服薬支援
- ・ 歩行訓練支援
- ・ 介護職員のシフト作成支援

相談目的としては、「実環境での実証支援」「現場ニーズ伝達」「販売・マーケティング支援」が特に多かった。

図表 3-5 ラボへの相談目的

n=206(複数回答)



企業の相談内容等(抜粋・一部加工)

【実環境での実証支援】

- ・ 開発中の機器が、介護現場での業務負荷を軽減できるか確かめたい。
- ・ プロトタイプの実証に向けた手続きと準備の相談をしたい。

【現場ニーズ伝達】

- ・ 所有技術を活用して開発した機器の、介護現場におけるニーズを探索したい。
- ・ 介護施設でリハビリの業務負荷軽減に寄与できている機器を企画している。施設でリハビリに関わるPTやOTにヒアリングを行いたい。

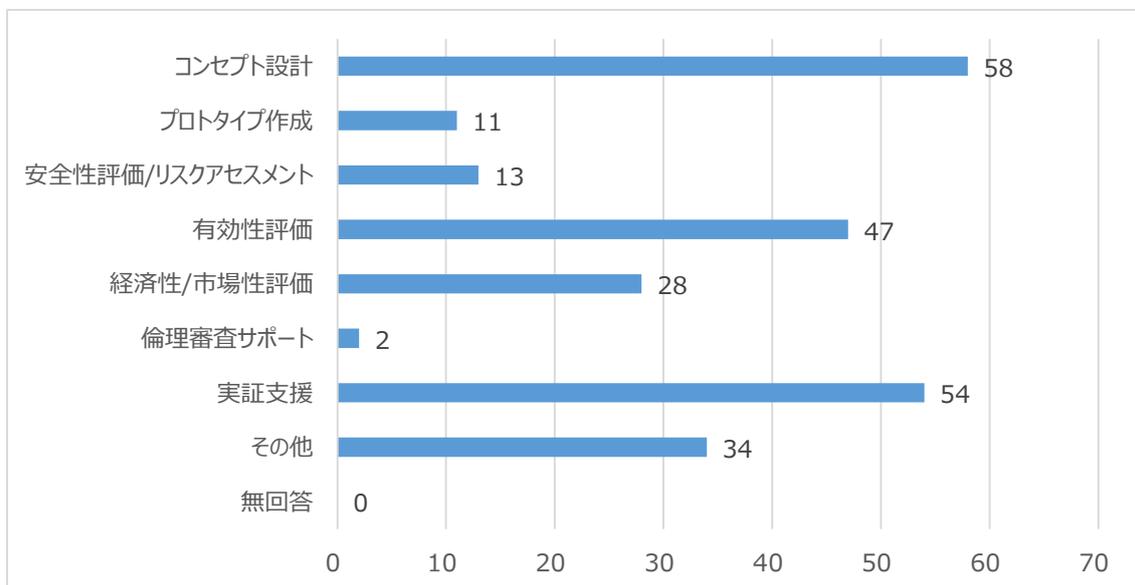
【販売・マーケティング支援】

- ・ 前年度に別のリビングラボで実証を重ね、開発を進めてきた。今年度は本格的にビジネス展開をしたく、販売やマーケティング支援の観点でも相談したい。
- ・ 介護施設を中心に展開してきたが、在宅分野へも展開するうえで改良点のアドバイスが欲しい。

リビングラボの対応内容は、「コンセプト設計」「有効性評価」「実証支援」が特に多かった。

図表 3-6 リビングラボの対応内容

n=206(複数回答)



【コンセプト設計】

- ・ 現場ニーズの伝達をおこない、サービス提供スキームの一部に見直しの余地を見出した。
- ・ 類似製品に対する競合優位性について議論を行った。

【有効性評価】

- ・ 開発中の試作機に関して、性能や安全性の評価手法を提案した。

【実証支援】

- ・ 実証を行う対象者像の明確化を行った。
- ・ 実証候補となっている介護施設を訪問し、計測方法等について協議した。

## 第2項 ラボ検証

ラボ検証については、8つのリビングラボの月平均の案件数は1.5件、対応件数は2.3件であり、延べ数はそれぞれ18件、27件となった。企業数は14企業であった。

図表 3-7 リビングラボにおけるラボ検証対応実績

ラボ検証実施案件数	ラボ検証対応数	検証対応企業数	企業あたりの検証対応数	
			対応数/企業	企業
月平均1.5件 (延べ18件)	月平均2.3件 (延べ27件)	延べ14企業	1回	10企業
			2回	1企業
			3回	1企業
			4回	1企業
			8回	1企業

検証内容詳細(抜粋・一部加工)

- ・ 模擬環境において、仕様確認・動作確認を行い、有効性と安全性について検証を行った。
- ・ 模擬環境において、医師や理学療法士が試作品を使用し、使用感の検証を行った。
- ・ 製品使用時の、使用者の筋肉の活動度を計測した。

## 第3項 実証支援

8つのリビングラボの月平均の実証に関連する相談対応の件数は10.1件であり、延べ121件となった。これらの支援は、延べ55企業に対して行った。実際に実証を実施したのは15企業、今後実証を予定している企業は2企業であった。

図表 3-8 リビングラボにおける実証等の件数

実証に関連する相談対応数	実証に関連する相談対応企業数	実証件数	実証実施企業数	実証予定企業数
月平均10.1件 (延べ121件)	延べ55企業	17件	15企業	2企業

実証内容(抜粋・一部加工)

- ・ 機器を、導入が想定される実環境にて使用し、想定される実際のユーザーに使用して有効性があるか検証を行った。
- ・ 機器を1-2週間程度実際に運用し、運用前後の介護職員の意識の変化やオペレーションの変化に関してアンケート調査を行った。

#### 第4項 リビングラボネットワーク定例会議

(1) 第1回リビングラボネットワーク定例会議 開催概要

図表 3-9 第1回リビングラボネットワーク定例会議開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2023年7月10日(月) 10:05-11:55 WEB 会議
会議議長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席組織	<p>&lt;基幹型リビングラボ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立大学法人東北大学 2名</li> <li>・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 5名</li> <li>・ SOMPO ホールディングス株式会社、SOMPO ケア株式会社 4名</li> <li>・ 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所 5名</li> <li>・ 藤田医科大学 ロボティックススマートホーム・活動支援機器研究実証センター 3名</li> <li>・ 吉備高原医療リハビリテーションセンター ロボット活動支援機器実証センター 8名</li> <li>・ 国立大学法人九州工業大学 4名</li> </ul> <p>&lt;支援型リビングラボ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人孝徳会 特別養護老人ホーム サポートセンター門司 1名</li> <li>・ 社会福祉法人こうほうえん 3名</li> <li>・ 公益社団法人全国老人保健施設協会 2名</li> <li>・ 東北福祉大学/社会福祉法人東北福祉会せんだんの杜 3名</li> <li>・ 株式会社ベネッセスタイルケア 3名</li> <li>・ 徳島文理大学 1名</li> <li>・ 北陸大学 1名</li> </ul> <p>&lt;オブザーバー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厚生労働省 老健局 参与 本田 幸夫</li> <li>・ 厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護ロボット政策調整官 佐々木 憲太</li> <li>・ 厚生労働省 老健局高齢者支援課 主査 兼子 雄</li> <li>・ 厚生労働省 老健局高齢者支援課 臼井 沙耶香</li> <li>・ 経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 室長補佐</li> </ul>

	南須原 美恵 ・ 経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 係長 安川 一代  <事務局> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
--	--

第1回リビングラボネットワーク定例会議は、プラットフォーム事業の概要・進捗について共有し、本事業遂行に活かすこと、各リビングラボが有する介護ロボット開発の知見を共有し、ALL Japan で開発・参入を加速することを目的に実施した。

会議においては、本年度の事業概要、目指す成果、介護生産性向上総合相談センター等について説明を行った。また、本事業に関連する老健事業として、「介護現場のニーズをふまえたテクノロジー開発支援に関する調査研究」「介護ロボットの効果的な導入支援に関する調査研究」「介護施設等における生産性向上に関する委員会の調査研究」の事業説明を実施した。

(2) 第2回リビングラボネットワーク定例会議 開催概要

図表 3-10 第2回リビングラボネットワーク定例会議開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2023年11月17日(金) 13:05-14:55 WEB 会議
会議議長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席組織	<基幹型リビングラボ> ・ 国立大学法人東北大学 2名 ・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 7名 ・ SOMPO ホールディングス株式会社、SOMPO ケア株式会社 4名 ・ 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所 4名 ・ 藤田医科大学 ロボティックススマートホーム・活動支援機器研究実証センター 3名 ・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 3名 ・ 吉備高原医療リハビリテーションセンター ロボット活動支援 機器実証センター 4名 ・ 国立大学法人九州工業大学 4名  <支援型リビングラボ>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人孝徳会 2名</li> <li>・ 社会福祉法人こうほうえん 5名</li> <li>・ 公益社団法人全国老人保健施設協会 2名</li> <li>・ 東北福祉大学/社会福祉法人東北福祉会せんだんの杜 3名</li> <li>・ 株式会社ベネッセスタイルケア 2名</li> <li>・ 徳島文理大学 1名</li> <li>・ 北陸大学 1名</li> </ul> <p>&lt;オブザーバー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厚生労働省 老健局 参与 本田 幸夫</li> <li>・ 厚生労働省 老健局高齢者支援課 主査 兼子 雄</li> <li>・ 経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 係長 安川 一代</li> <li>・ 経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 係員 平井 那奈</li> </ul> <p>&lt;事務局&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株式会社 NTT データ経営研究所</li> </ul>
--	---

第2回リビングラボネットワーク定例会議は、本事業の概要・進捗について共有し、本事業遂行に活かすこと、各リビングラボが有する介護ロボット開発の知見を共有し、ALL Japan で開発・参入を加速することを目的に実施した。

会議においては、本事業の進捗報告として、介護生産性向上総合相談センターの設置状況、相談対応・ラボ検証・実証件数、現状及び課題に関する各ラボへのヒアリング結果と対策案について報告を行った。また、老健事業「介護現場のニーズをふまえたテクノロジー開発支援に関する調査研究」「介護ロボットの効果的な導入支援に関する調査研究」の状況報告を行った。さらに、現場のニーズにあった製品がより多く世に出回るように、企業にニーズや改良案について気づきをあたえることを目的として、機器を導入した介護事業所(相談窓口を活用した企業等)から、機器に対する改善要望を収集し、公開することに関して討議を行った。

### (3) 第3回リビングラボネットワーク定例会議 開催概要

**図表 3-11 第3回リビングラボネットワーク定例会議開催概要**

(敬称略)

開催日時/形式	2024年2月29日(木)13:05-14:55 WEB 会議
会議議長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科

	教授 柴田 智広
出席組織	<p>&lt; 基幹型リビングラボ &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立大学法人東北大学 2名</li> <li>・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 7名</li> <li>・ SOMPO ホールディングス株式会社、SOMPO ケア株式会社 4名</li> <li>・ 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所 4名</li> <li>・ 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター 6名</li> <li>・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 3名</li> <li>・ 吉備高原医療リハビリテーションセンター ロボット活動支援機器実証センター 7名</li> <li>・ 国立大学法人九州工業大学 4名</li> </ul> <p>&lt; 支援型リビングラボ &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人孝徳会 特別養護老人ホーム サポートセンター門司 2名</li> <li>・ 社会福祉法人こうほうえん 4名</li> <li>・ 東北福祉大学/社会福祉法人東北福祉会せんだんの杜 2名</li> <li>・ 株式会社ベネッセスタイルケア 2名</li> <li>・ 徳島文理大学 1名</li> <li>・ 北陸大学 1名</li> </ul> <p>&lt; オブザーバー &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厚生労働省 老健局 参与 本田 幸夫</li> <li>・ 厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護ロボット政策調整官 佐々木 憲太</li> <li>・ 厚生労働省 老健局高齢者支援課 主査 兼子 雄</li> <li>・ 経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 係長 安川 一代</li> <li>・ 経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 係員 平井 那奈</li> </ul> <p>&lt; 事務局 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株式会社 NTT データ経営研究所</li> </ul>

第3回リビングラボネットワーク定例会議は、本事業の成果について共有し、今後の取組に活かすことを目的として実施した。

会議においては、本事業の実績報告として、相談対応・ラボ検証・実証件数およびその過年度からの推移、リビングラボによる支援の好事例について報告を行った。また、次年度以降のリビングラボネットワークおよびニーズ・シーズマッチング支援事業による開発企業支援のイメージについて討議を行った。さらに、今後のロボット技術の介護利用における重点分野の改訂に関して、本事業からどのようなインプットを提供できるか、そのために何が必要かといった観点で討議を行った。

## 第5項 リビングラボでの支援事例

以下にリビングラボでの支援事例を示す。なお、支援事例①に関しては、相談者の要望に基づき、リビングラボ名を匿名化した。

図表 3-12 リビングラボでの支援事例①

相談者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な事業内容:合成樹脂製品・介護ロボット等の製造・販売</li> <li>・ 開発中の機器:高齢者の歩行状態を記録するデバイスを検討中。リハビリへの活用を考えている。</li> <li>・ 開発フェーズ:企画・調査段階</li> </ul>
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開発中の機器のコンセプトについて、介護現場にニーズがあるか検証したい。</li> <li>・ リハビリに関わっているPT、OT にヒアリングを実施したい。</li> </ul>
リビングラボ①での対応内容	<p>オプション機能(歩行状態を家族に通知する機能)については、在宅独居高齢者におけるニーズが高いものの、限定した歩行支援製品よりも、あらゆるものに付属できる歩行支援製品の方が顧客の広がりが期待できる旨アドバイスした。</p> <p>また、リハビリへの活用に関しては、急性期医療の現場でよりニーズが高いと思われることを伝えた。</p>
連携の経緯・理由	<p>現場スタッフ対象のアンケートを実施するにあたり、病院・介護施設・在宅のいずれをターゲットにしていくのか、まだ絞りきれいでなかった。</p> <p>そこで、リビングラボ①から、同じくリハビリの経験が豊富であり、急性期医療の現場も有している医療系機関(リビングラボ②)を紹介した。</p>
リビングラボ②での対応内容	<p>機器のコンセプトについて打ち合わせを実施。介護・リハビリに従事している、リハビリテーション医師、理学療法士や作業療法士を交えて意見交換を行った。被介護者、介護者のニーズについて情報共有をした。また高齢者の生活を評価する指標について、既存の機器との有用性の比較についても助言を行った。</p>
連携の結果	<p>複数のリビングラボでのヒアリング結果を踏まえて、開発の方向性を修</p>

	<p>正した。</p> <p>歩行機能の評価・リハビリへの活用面を重点的にとらえ、開発を進めていくこととなった。</p>
--	--

図表 3-13 リビングラボでの支援事例②

相談者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な事業内容:分析装置等の製造・販売</li> <li>・ 開発中の機器:ADL を簡便に評価・記録することができるアプリを開発中。</li> <li>・ 開発フェーズ:企画・調査段階</li> </ul>
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学と共同研究し、開発を行っている外国人介護人材向けアプリのコンセプトについて、介護現場の声を聞きたい。</li> <li>・ 将来、LIFE との連携を見据えており、現在の LIFE への入力方法や提出方法、フィードバックの内容等を知りたい。</li> </ul>
リビングラボ① (Future Care Lab in Japan)での対応内容	現在の LIFE へのデータ送信方法、フィードバックの内容、介護現場におけるフィードバックデータの活用方法等を伝達した。この打ち合わせには研究員でケアマネジャーの有資格者が同席した。また、介護職員にアプリのコンセプトを伝え、使用感等意見をヒアリングした。
連携の経緯・理由	異なる介護現場の意見も聞きたいとの要望から、国立長寿医療研究センター(以下、長寿研)を紹介した。
リビングラボ② (長寿研)での対応内容	長寿研から、ヒアリング・実証を行える介護施設があることを伝えた。愛知県内の協議体を通じて、企業側の希望する条件にあう複数の施設に依頼し、その中から数ヶ所より承諾が得られた。今後ヒアリングを実施する予定。
連携の結果	複数のリビングラボおよび介護現場から得られた多面的な意見を参考に、相談者側で開発コンセプトの再検討、複数介護施設での実証実験の計画を立てることができた。

## 第6項 実証フィールドに対する取組

実証フィールドの活用時、円滑に実証実施施設を選定し、実証につなげられるように、実証フィールド登録施設に対して事業説明会とアンケートを実施した。

### (1) 事業説明会の実施

実証フィールド登録施設が、本事業についてより理解し、実証の相談があった際に協力しやすくなるよう、事業説明会を実施した。説明会の実施概要は以下のとおり。

図表 3-14 実証フィールド登録施設向け事業説明会開催概要

開催日時/形式	2023年10月3日(火)15:00-15:30 WEB開催
アジェンダ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護現場の生産性向上に関する厚生労働省の施策について</li> <li>2. 介護ロボットプラットフォーム事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場への介護ロボット等の導入・活用支援</li> <li>・介護現場のニーズを汲み取った介護ロボット等の開発支援</li> </ul> </li> <li>3. 介護ロボット開発における実証の事例</li> <li>4. 実証へのご協力をお願い</li> </ol>

(2) アンケートの実施

リビングラボが、実証実施施設を選定する際に参考となる情報を取得するため、実証フィールド登録施設に対してアンケートを実施した。主なアンケートの調査項目は以下のとおり。

- ・ 現在、活用している介護ロボット・ICT 機器の分野・項目
- ・ 今後、活用してみたい介護ロボット・ICT 機器の分野・項目
- ・ 介護ロボット・ICT 機器開発について、協力が可能な内容
- ・ 介護ロボット・ICT 機器開発への協力について、興味・関心がある分野
- ・ 介護ロボット・ICT 機器開発への協力について、今後、特定の開発企業と継続的な協力関係を結ぶことに対する興味・関心

## 第4章 ニーズ・シーズマッチング支援事業について

### 第1節 マッチング支援事業の目的と支援内容

#### (1) 背景と目的

本事業では、令和4年度に実施した取組内容を踏まえ、引き続き介護現場における課題(ニーズ)と、介護ロボット開発に携わる企業等が保有する製品や初期段階の試作機、要素技術等(シーズ)のマッチング、シーズ同士のマッチングを支援し、開発企業等自身への気づきを与え、介護現場の真のニーズを汲み取った介護ロボットの開発やその利活用方法に結びつけることを目的に、ニーズ・シーズマッチング支援事業を実施した。

#### (2) 支援内容

本事業では、介護現場の課題を開発企業が理解しやすいように整理、リスト化した上で一般公開を行った。その上で、企業がマーケット情報を収集するためのフィールド等を紹介することで、企業の参入検討・開発・製品の普及を支援した。また、介護ロボットの上市を目指している、または上市済の製品を持つ開発企業に対して、介護ロボットの販売・アフターサービス等を行っている事業者の紹介・取次を実施した。

#### (3) マッチング支援

マッチング支援は以下の3つを行った。

- ① ニーズリストを介したニーズの紹介、取次
- ② 実証・検証に関わる相談及びフィールド(介護施設・リビングラボ等)の紹介
- ③ 製品、技術を有する開発企業、製品の普及・活用促進を行う企業の紹介、取次

#### (4) 実施体制

本事業の目的を達成するために、以下の実施体制を構築した。

- ① マッチングサポーター
- ② ニーズ・シーズマッチング検討会(以下、「マッチング検討会」という。)
- ③ ①、②を取りまとめる事務局

##### ① マッチングサポーター

介護現場や介護ロボット等の製品知識や経験を有している有識者をマッチングサポーター(以下、サポーター)として配置した。

図表 4-1 マッチングサポーター(ニーズ側)一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
泉 博之	日本製鋼所 M&E 株式会社 室蘭製作所 事業推進室 事業企画グループ 担当部長 (産業医科大学産業衛生教授)
大内 英之	社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 介護ロボットアドバイザー
逢坂 大輔	株式会社シーエフロボタス 代表取締役
川上 理子	高知県立大学看護学部 准教授
砂 亮介	株式会社介社塾 代表取締役
関川 伸哉	東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科 教授
高橋 真	国立大学法人広島大学大学院医系科学研究科 教授
田中 勇次郎	一般社団法人東京都作業療法士会 会長
樽本 洋平	麻生教育サービス株式会社北九州支店 介護ロボット導入支援課 課長
時本 ゆかり	大阪人間科学大学人間科学部社会福祉学科 教授
長尾 哲男	長崎北病院 非常勤作業療法士
中林 美奈子	富山大学 芸術文化学部 客員准教授
福元 正伸	兵庫県立福祉のまちづくり研究所 介護ロボット開発支援・普及推進・ 研修センター課 主任
藤田 賢太郎	鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科 副学科長
古川 和稔	東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科 教授
宮永 敬市	北九州市保健福祉局地域リハビリテーション推進課 課長
山田 太一	医療法人健康会介護老人保健施設アイリス リハビリテーション科 科長
湯本 晶代	国立大学法人千葉大学大学院看護学研究院 地域創成看護学講座 助教
吉満 孝二	国立大学法人鹿児島大学医学部保健学科 助教

図表 4-2 マッチングサポーター(シーズ側)一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
梶谷 勇	国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間拡張研究センター生活機能ロボティクス研究チーム 主任研究員

琴坂 信哉	国立大学法人埼玉大学大学院理工学研究科 人間支援・生産科学部門 准教授
三枝 亮	神奈川工科大学創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 准教授
相良 二郎	神戸芸術工科大学芸術工学部長・プロダクト・インテリアデザイン学科 教授
鈴木 光久	社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 名古屋市総合リハビリテーションセンター 企画研究局企画研究部 主幹（ロボット等開発・普及）
関根 正樹	つくば国際大学医療保健学部医療技術学科 教授
高橋 芳弘	千葉工業大学工学部機械工学科 教授
田實 佳郎	関西大学システム理工学部 教授
中後 大輔	関西学院大学工学部知能・機械工学課程 教授
中川 昭夫	大阪人間科学大学保健医療学部作業療法学科 特任教授
浜田 利満	筑波学院大学 名誉教授
平田 泰久	国立大学法人東北大学大学院工学研究科ロボティクス専攻 教授
廣富 哲也	国立大学法人島根大学総合理工学部知能情報デザイン学科 教授
藤澤 正一郎	徳島文理大学理工学部機械創造工学科 教授
坊岡 正之	特定非営利活動法人結人の袖 理事長
松本 吉央	東京理科大学先進工学部機能デザイン工学科 教授
米田 郁夫	特定非営利活動法人結人の袖 副理事長
渡辺 崇史	日本福祉大学健康科学部福祉工学科 教授

## ②マッチング検討会

マッチングサポーターに加えて、介護業務の実情を十分に理解している、または介護ロボットや介護現場で使用される ICT 等の製品知識が豊富な有識者を顧問として選定し、マッチング検討会を設置した。

図表 4-3 マッチング検討会顧問一覧

(敬称略、50 音順)

氏名	ご所属・役職
井堀 幹夫	国立大学法人東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員
岩井 広行	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 ロボット・ICT 推進委員会 委員長
小野 栄一	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 研究所顧問

大庭 潤平	一般社団法人日本作業療法士協会 副会長
北風 晴司	一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会 事務局次長
久留 善武	一般社団法人シルバーサービス振興会 事務局長
五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会 企画部 部長
柴田 智広	国立大学法人九州工業大学大学院生命体工学研究科 教授
鈴木 健太	社会福祉法人友愛十字会法人本部企画部 介護生産性向上推進室長
◎本田 幸夫	国立大学法人東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター 特任研究員
宮本 隆史	社会福祉法人善光会 最高執行責任者 兼 統括施設局長

◎:座長

## 第2節 ニーズリストの公開

本事業においては、企業が介護現場のニーズを簡易的に把握することを可能とするために、昨年度事業に引き続き公式ホームページ上にニーズリストを公開した (<https://www.kaigo-ns-plat.com/needs/>)。掲載されたニーズは「ニーズがある現場(施設/在宅)」、「ニーズが発生する生活場面(睡眠/覚醒・起居/排泄/見守り 等)」、「課題の持ち主(被介護者/介護者(介護職、専門職)/家族/地域)」の観点からカテゴリズ・タグ付けし、介護現場における多種多様のニーズの中から、閲覧者が求めるニーズを容易に検索できるように整理した上で公開した。

### (1) ニーズリストのアップデート

当該ニーズリストを昨年度に引き続いて掲載した。昨年度の掲載分に加えてニーズリストをアップデートすることで、更なる充実化を図った。アップデートの手法としては、過去の官公庁事業等、各種調査報告書等からニーズ案を作成したうえで、マッチングサポーターが各々の有する知見に基づいて加筆を行った。

これにより、27 件のニーズを追加し、公開したニーズは 188 件となった。

### (2) ニーズリスト

ニーズリストは、「施設」と「在宅」のニーズの現場それぞれにおいて、「ニーズが発生する生活場面」と「課題主」ごとに整理した上で掲載した。下記は掲載されたリストのイメージ図である。

図表 4-4 ニーズリスト:施設における生活場面ごとのニーズ一覧(イメージ図)

		課題の持ち主			
		被介護者	介護者	家族	地域
生活 場面	睡眠	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄確認による睡眠障害と業務の効率化</li> <li>夜間の見守り業務における精神的・身体的負担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄確認による睡眠障害と業務の効率化</li> <li>利用者の体調変化や事故に対する適切な判断・対応の標準化と職員支援</li> <li>夜間の見守り業務における精神的・身体的負担</li> </ul>		
	覚醒・ 起居	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間の見守り業務における精神的・身体的負担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の体調変化や事故に対する適切な判断・対応の標準化と職員支援</li> <li>トイレ・ム・トイレ・居室における見守り・声掛け</li> <li>夜間の見守り業務における精神的・身体的負担</li> <li>トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減</li> </ul>	
	離床	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能・身体寸法に合わない車椅子の使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能・身体寸法に合わない車椅子の使用</li> </ul>		
	移乗	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能・身体寸法に合わない車椅子の使用</li> <li>吊り上げないベッド・車椅子間の移乗介助</li> <li>排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担</li> <li>トイレへの歩行車での安全な移動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能・身体寸法に合わない車椅子の使用</li> <li>移乗介助時の所要時間</li> <li>介護用ベッドではない就寝環境からの移乗</li> <li>大柄な利用者を移乗する際、複数人での介助が必要となる</li> <li>移乗リフト操作技術の習得</li> <li>吊り上げないベッド・車椅子間の移乗介助</li> <li>狭小スペースにおける排泄介助</li> <li>排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担</li> <li>トイレへの歩行車での安全な移動</li> <li>立ち上がり介助におけるタイミングの計り方</li> <li>トイレ・ム・トイレ・居室における見守り・声掛け</li> <li>トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移乗介助時の所要時間</li> <li>介護用ベッドではない就寝環境からの移乗</li> <li>狭小スペースにおける排泄介助</li> <li>排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担</li> <li>立ち上がり介助におけるタイミングの計り方</li> <li>トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減</li> </ul>	

図表 4-5 ニーズリスト:在宅における生活場面ごとのニーズ一覧(イメージ図)

		課題の持ち主			
		被介護者	介護者	家族	地域
生活 場面	睡眠	<ul style="list-style-type: none"> <li>不眠</li> <li>褥瘡の発生</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間覚醒の対応等による睡眠不足</li> <li>体位交換の負担</li> </ul>	
	覚醒・ 起居	<ul style="list-style-type: none"> <li>寝たきり等による廃用症候群</li> <li>ベッドから起き上がる際の転倒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間排泄介助の負担</li> <li>トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減</li> </ul>	
	離床			<ul style="list-style-type: none"> <li>重度の方（障害を有する方を含む）の離床・移乗を家族が一人で介助する身体の負担</li> </ul>	
	移乗	<ul style="list-style-type: none"> <li>無理な体制での移乗による痛みや不安</li> <li>移乗時の床への転落</li> <li>排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移乗介助時の所要時間</li> <li>介護用ベッドではない就寝環境からの移乗</li> <li>腰部等への身体的負担</li> <li>狭小スペースにおける排泄介助</li> <li>排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担</li> <li>立ち上がり介助におけるタイミングの計り方</li> <li>トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移乗介助時の所要時間</li> <li>介護用ベッドではない就寝環境からの移乗</li> <li>重度の方（障害を有する方を含む）の離床・移乗を家族が一人で介助する身体の負担</li> <li>老老介護のために被介護者をベッドから移乗させることができない</li> <li>腰部等への身体的負担</li> <li>狭小スペースにおける排泄介助</li> <li>排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担</li> <li>立ち上がり介助におけるタイミングの計り方</li> <li>トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減</li> </ul>	

### (3) ニーズの事例

ニーズリストに掲載したニーズは、各々の詳細ページにて具体的な内容を説明した。掲載事例として下記に2例を記載する。

#### 1) 事例1 認知症の利用者の原因不明の夜間せん妄・徘徊の発生

- 場面:見守り、徘徊

##### 【場面の詳細】

認知症を抱える施設利用者が、夜間徘徊をする場面

- 課題の持ち主:被介護者、介護者(介護職、専門職)

##### 【課題の持ち主の詳細】

住居型有料施設の職員

- 課題の具体的な内容

施設利用者の認知症が進みつつあり、夜間落ち着かなく(夜間せん妄)、廊下を歩き回るようになった。職員が対応すると時折感情的になることもあり、職員の夜間対応負担が増加するものの原因が分からない。

#### 2) 事例2 食事時の咀嚼および嚥下確認の難しさ、判断基準のばらつき

- 場面:食事

### 【場面の詳細】

在宅での食事介助の場面

- 課題の持ち主:介護者(家族)、介護者(介護職、専門職)

### 【課題の持ち主の詳細】

在宅療養高齢者を介護する家族、介護職員

- 課題の具体的内容

摂食の支援については、咀嚼および嚥下の一連の動作を評価する必要がある。咀嚼においては、単なる噛み砕きだけでなく、舌の動き、唾液の汲み上げ、食塊の形成、喉への送り込みなどの評価と、それに対する支援が必要になる。これらの評価および支援については、客観的な評価ができていないことが課題である。

## 第3節 マッチング支援の実績

総エントリー団体数は 57 団体であった。

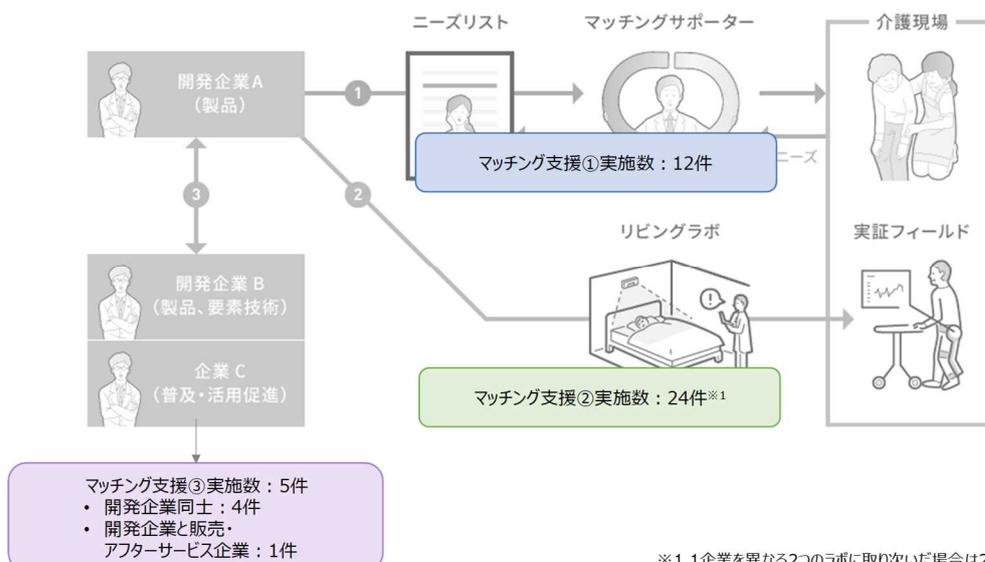
マッチング支援①は 12 件を実施し、うちニーズに対する今後の開発意向があると回答されたものは7件であった。

マッチング支援②は 24 件を実施した。

マッチング支援③は 5 件を実施し、開発企業同士のものは 4 件、開発企業と販売・アフターサービス企業とのものは 1 件であった。

図表 4-6 マッチング支援実績

総エントリー団体数：57団体

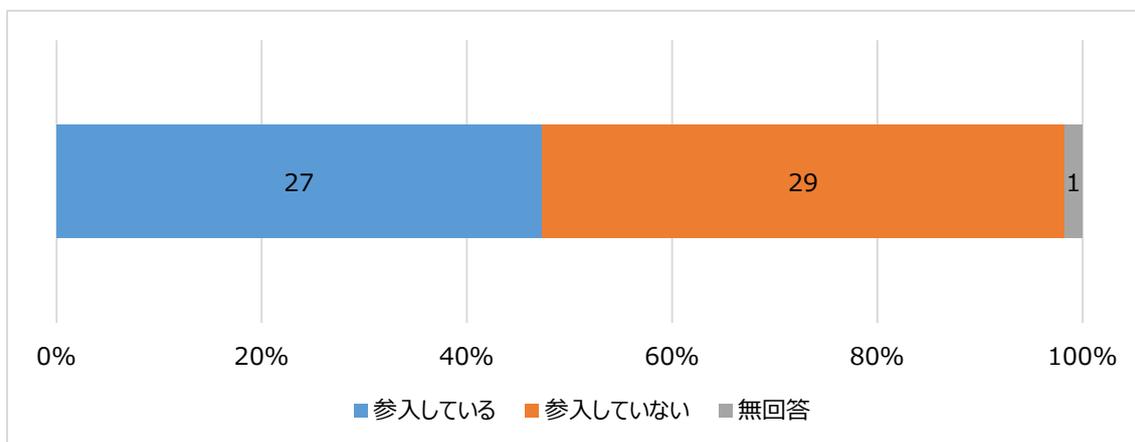


## 第1項 エントリー

エントリー団体の内、介護分野へ参入済みの団体は27団体であり、未参入は29団体であった。

図表 4-7 エントリー企業の介護分野への参入有無

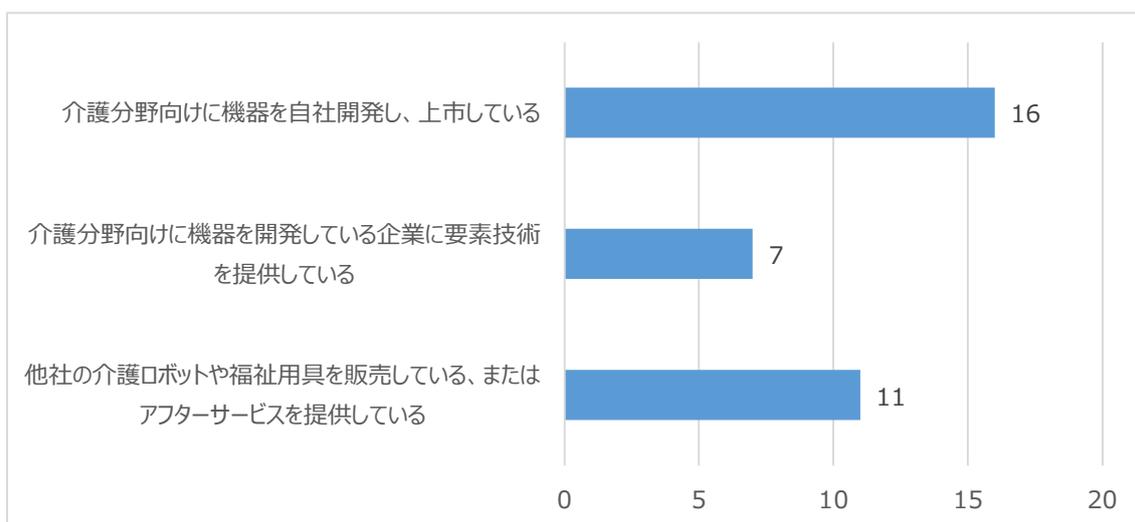
n=57



介護分野へ参入済みの団体のうち、介護ロボット開発企業は16団体、要素技術を提供している企業は7団体、販売・アフターサービス企業は11団体であった。

図表 4-8 エントリー企業の介護分野への参入状況(参入済み団体)

n=27(複数回答)



## 第2項 マッチング支援①

### (1)実施件数

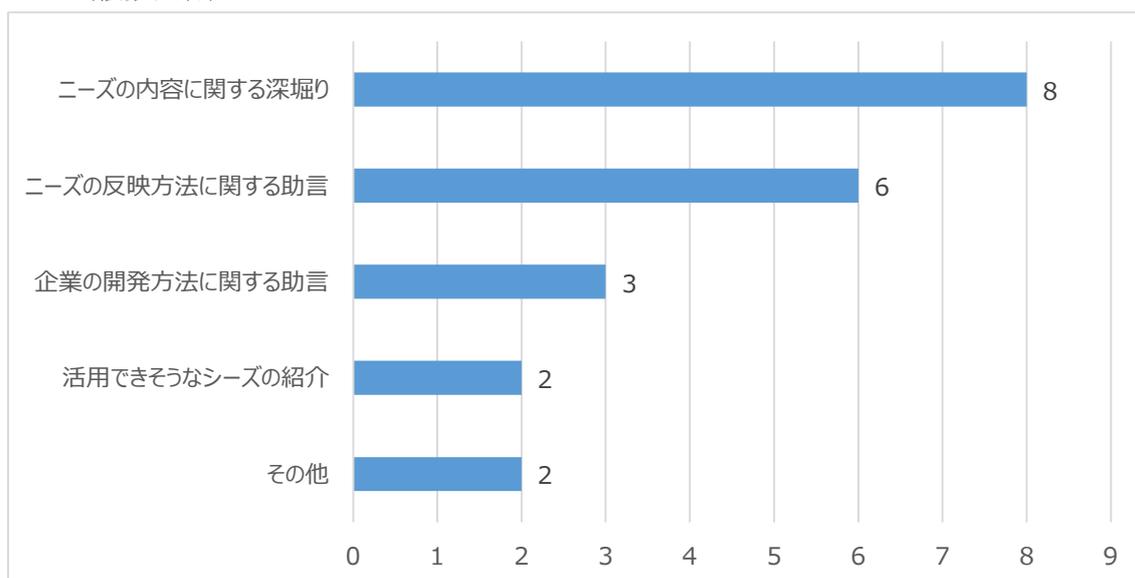
7団体に対して、マッチングサポーターとの相談対応を12件実施した。

### (2)相談内容と対応内容

マッチングサポーターへの相談内容は、ニーズの内容に関する深掘りが最も多かった。ニーズの反映方法に関する助言や、企業の開発方法に関する助言を求める相談も一定数あった。

図表 4-9 マッチングサポーターへの相談内容

n=12(複数回答)



対応内容の詳細(抜粋・一部加工)

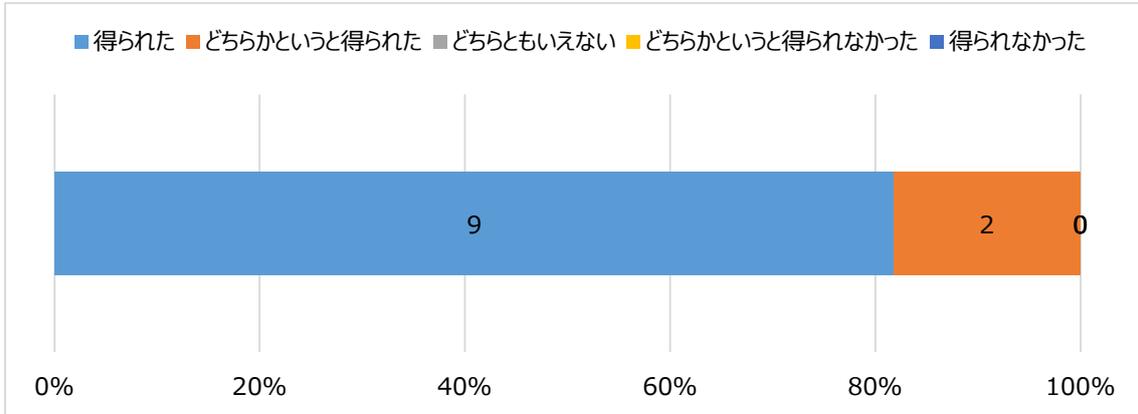
- ・ 販売に関する相談に対して、どのようにオペレーションを変更するとよいか合わせて提案することを助言した。
- ・ 自社シーズを用いた介護分野への新規参入を検討している企業に対して、介護ロボットと他の工業製品の差異や、製品ごとの今後の市場の成長度合い等を説明した。

### (3)アンケート結果

マッチング支援①を行った団体から回収したアンケートにおいて、参入検討および開発加速に寄与する助言等が「得られた」との回答が9件、「どちらかという得られた」との回答が2件であった。「どちらともいえない」「得られなかった」との回答はなかった。

図表 4-10 参入検討および開発加速に寄与する助言等が得られたか

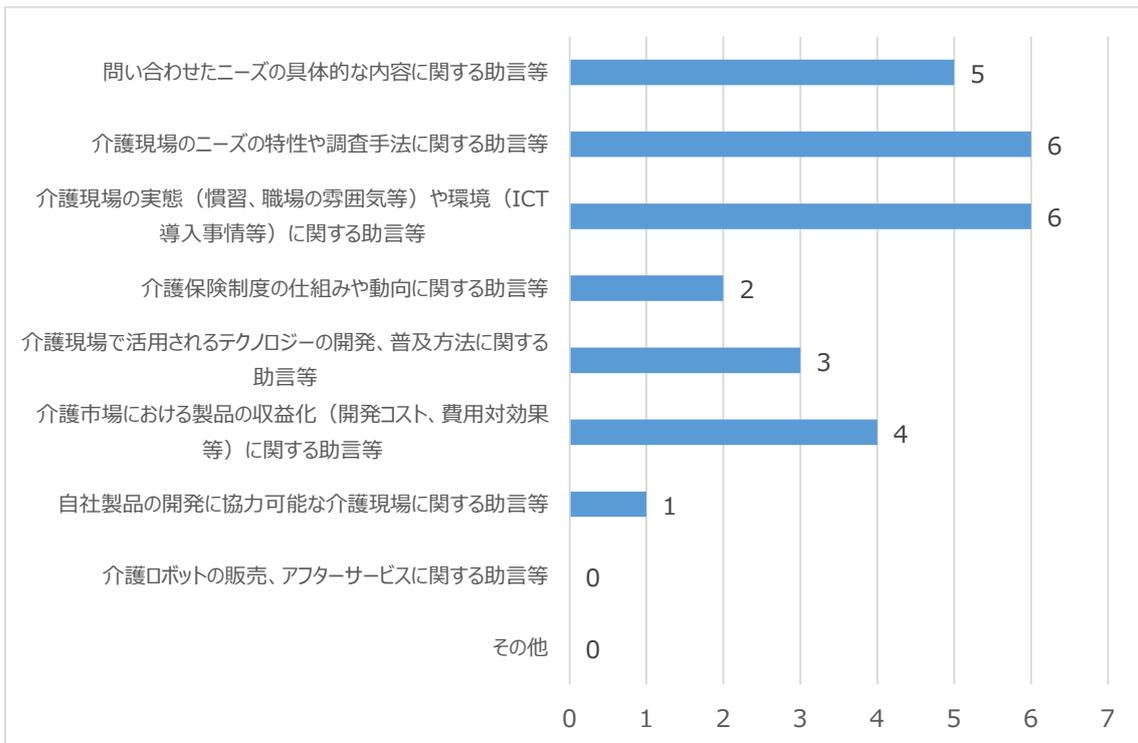
n=11



有益であった助言としては、「介護現場のニーズの特性や調査手法に関する助言等」「介護現場の実態（慣習、職場の雰囲気等）や環境（ICT 導入事情等）に関する助言等」が最も多く、6件であった。

図表 4-11 どのような助言が有益であったか

n=11(複数回答)



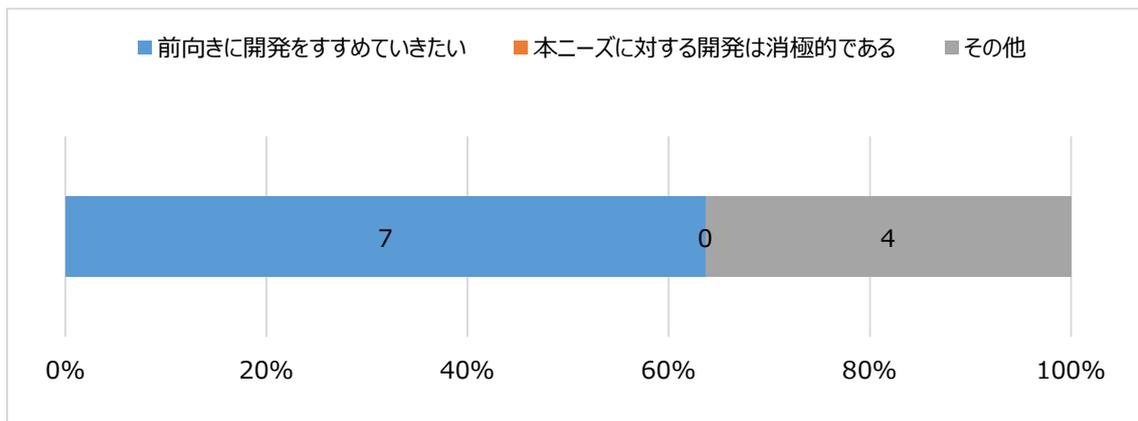
有益であった助言内容(抜粋・一部加工)

- ・ 介護現場の実情や、介護保険制度に関する助言、また、営業先のターゲティング戦略に関する助言が非常に勉強になった。
- ・ 被介護者の抱えるニーズだけでなく、被介護者の家族が抱えるニーズに対しても活用できるという助言が有益であった。
- ・ 自社のシーズの活用に関して、介護現場で問題視されるであろう、機器の課題について幅広く聞くことができた。

問い合わせたニーズに対する今後の開発意向については、「前向きに開発を進めていきたい」が最も多かった。

図表 4-12 問い合わせたニーズに対する今後の介護ロボットの開発意向

n=11



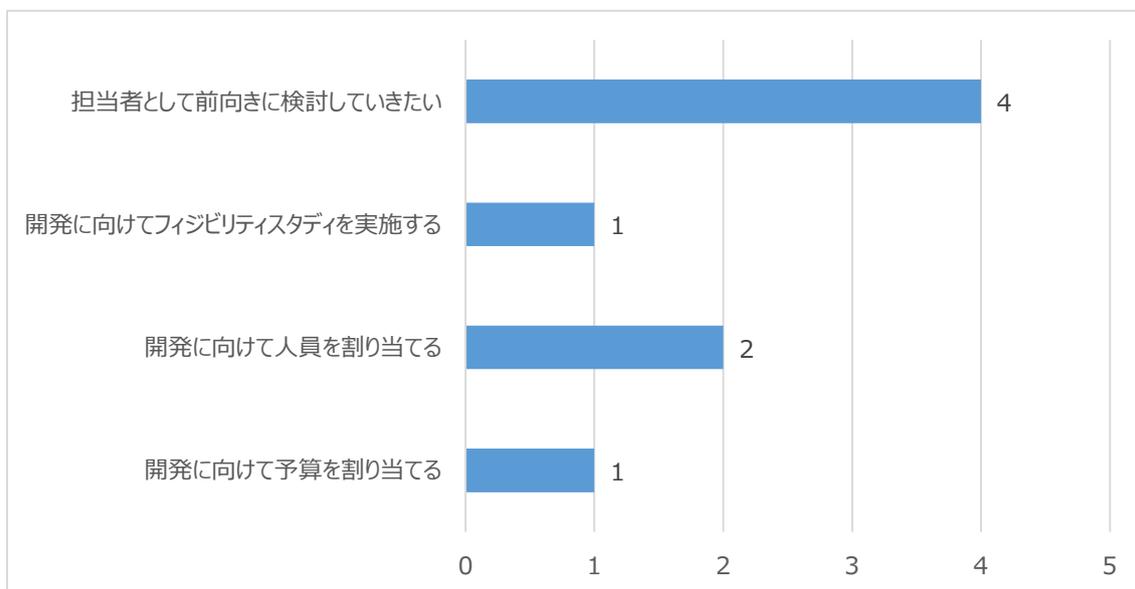
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 現在は未定であるが、調査の進捗状況次第では保留となる可能性がある。
- ・ 引き続き、経過に合わせて相談を希望する。

開発意向の詳細については、「担当者として前向きに検討していきたい」が最も多かった。

図表 4-13 今後の開発意向の詳細

n=7(複数回答)



(4)事例

以下に、マッチング支援の一例を示す。

図表 4-14 マッチング支援①の事例

<p>相談者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業名:株式会社アペックス</li> <li>・ 主な事業内容および企業規模:紙コップ式飲料自動販売機による飲料販売を行う小売業(大企業)</li> <li>・ 介護分野への参入状況:医療・介護事業者向けのとろみ自動調理サーバーの展開によりヘルスケア分野に参入している。</li> </ul>
<p>製品 イメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲料にとろみを加える攪拌作業を自動化し、安定した品質のとろみ付き飲料を提供可能なとろみ自動調理サーバーを開発・販売している。</li> <li>・ 利用者の状態に応じたとろみの濃さを三段階から選択できるとともに、一度に最大2リットルのとろみ付き飲料を約2分で調理可能である。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 65%;"> <p><b>【安全安心】</b> とろみ茶の品質・粘度安定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本摂食嚥下リハビリテーション学会 嚥下調整食分類2021(とろみ)を遵守</li> <li>・機械が強撈拌することで経時変化・物性変化が少なく安定</li> <li>・弊社推奨原料であれば粘度発現24時間後においても基準内で推移</li> <li>・誰が、いつ作っても均一のとろみ飲料を提供可能</li> </ul> <p><b>【作業工数の改善】</b> 機器導入により作業時間・工数削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約2分:とろみ飲料調理完了</li> <li>・約40秒:とろみ無し通常飲料調理完了</li> <li>・500ml~2000mlの吐出量の調整可能</li> <li>・スープ、経腸栄養剤、スポーツドリンク、炭酸飲料等の商品にもとろみ付け例もあり</li> <li>・お茶を作る、冷ます、運ぶ、とろみ付けする作業の削減</li> </ul> <p><b>【費用対効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配茶運用簡素化による作業効率UP⇒人件費との比較</li> <li>・とろみ材つけすぎ・失敗の改善⇒とろみ材代の削減</li> </ul> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">  <p>APEX-30SV</p> <p>※メンテナンス+トラブル対応 ・年間12回の定期メンテナンス ・故障対応、メニュー変更等も迅速に対応</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>▼PR動画</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>▼お取り扱い動画</p>  </div> </div> </div> </div> <p style="text-align: right;">出典:株式会社アペックス提供資料</p>
<p>マッチング 希望内容</p>	<p>開発・販売しているとろみ自動調理サーバーについて今後の商品改良に向け、介護施設での試用を得た上で機器の改善点や業務改善に対する効果について聞き取りを行いたい。</p>
<p>面談内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当したマッチングサポーターの仲介により、とろみ付けに課題を感じていた埼玉県内の介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)にて、機器試用を行うこととなった。</li> <li>・ 複数回のサポーター面談を得て試用期間や方法を確認した上で、企業担当者・サポーター・事務局同席の元、施設を訪問して現状のとろみ付けに関する課題意識やとろみ自動調理サーバーの運用方法に関して話し合いの</li> </ul>

	<p>場を設けた上で、実際に1か月間の機器試用を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機器試用の後、施設側でとろみ自動調理サーバーに関してアンケートを実施したうえで、Web会議にて施設管理者層と機器に関する感想や要望点についてヒアリングを行った。</li> </ul> <p>1. 機器の試用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数のフロアで機器を計 1 か月試用し、機器に対する意見がアンケートや口頭で活発に寄せられた。フロアごとに利用者の人数やメニュー嗜好が異なり、1階はとろみ飲料、2階はとろみなしを好んで使用した。</li> <li>・ とろみサーバーが通常のドリンクサーバーとして使えることも利用者・職員から好評であった。</li> </ul> <p>2. アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 26名の職員からアンケート回答を得た。約90%が機器の試用を行い、約60%が業務改善に期待ができると回答している。また、粘度や機能に関する項目に高い満足度があった。</li> <li>・ 配茶の準備時間が20～30分から10～20分に短縮された。</li> </ul> <p>3. 期待と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とろみ自動調理サーバーの活用は作業効率の向上が期待できるとともに、経験不足な職員でも確実にとろみ付けを行う事が出来る。今後は介護助手の活用と合わせることで介護助手にとろみづくりを任せ、介護職員の負担軽減とケアの質の向上の両方を図ることができるのではないかと期待の声があった。</li> <li>・ とろみ付けの細かな設定や設定保存、ピッチャーの目盛りの位置等に改善の提案があった。</li> </ul>
<p>企業の反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護施設での試用の結果は好評で、労働時間の削減も数字で表れていた。</li> <li>・ 今後の販売実績向上のために、マッチングサポーターから伝達された「とろみ自動調理サーバーのニーズが高い」と推測される介護施設へ、オペレーション変更を含めた提案等に繋げていきたい。</li> </ul>
<p>今後の対応</p>	<p>得た改善提案は開発部署に繋げるとともに、今後の機器改良に繋げる。あわせて、サポーターから継続して機器に関する提言等を得たい。</p>

### 第3項 マッチング支援②

#### (1) 実施件数

17 団体に対して、リビングラボへの取次を 24 件\*実施した。

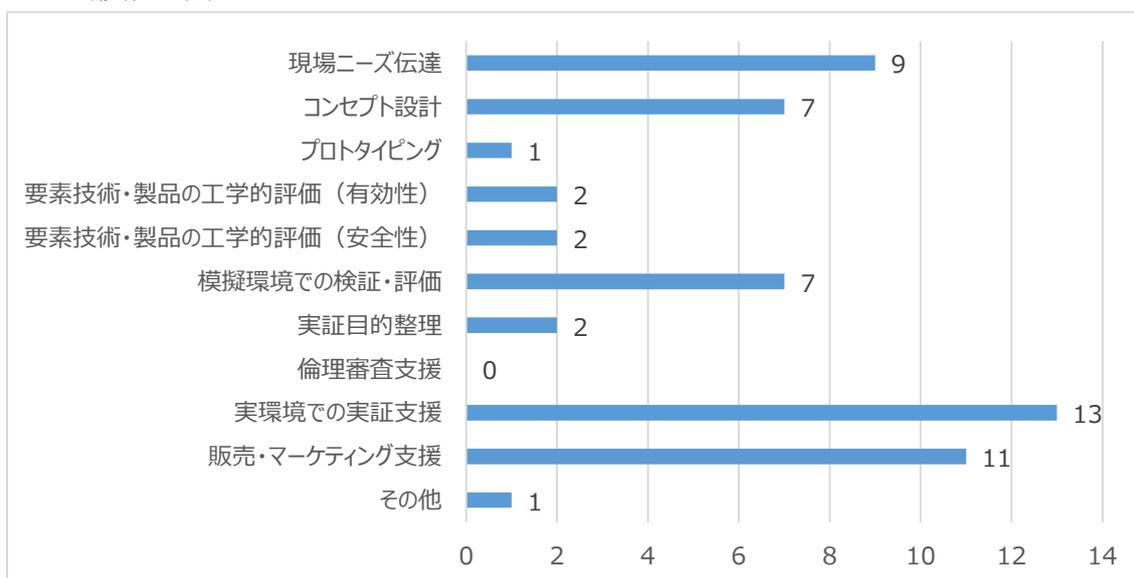
※1 団体を 2 つのリビングラボに取り次いだ場合には、取次を 2 件とカウントした。

#### (2) 企業の相談目的・相談内容

マッチング支援②を実施した団体の相談目的は「実環境での実証支援」が最も多く 13 件であった。

図表 4-15 企業の相談目的

n=24(複数回答)



#### 企業の相談内容(抜粋・一部加工)

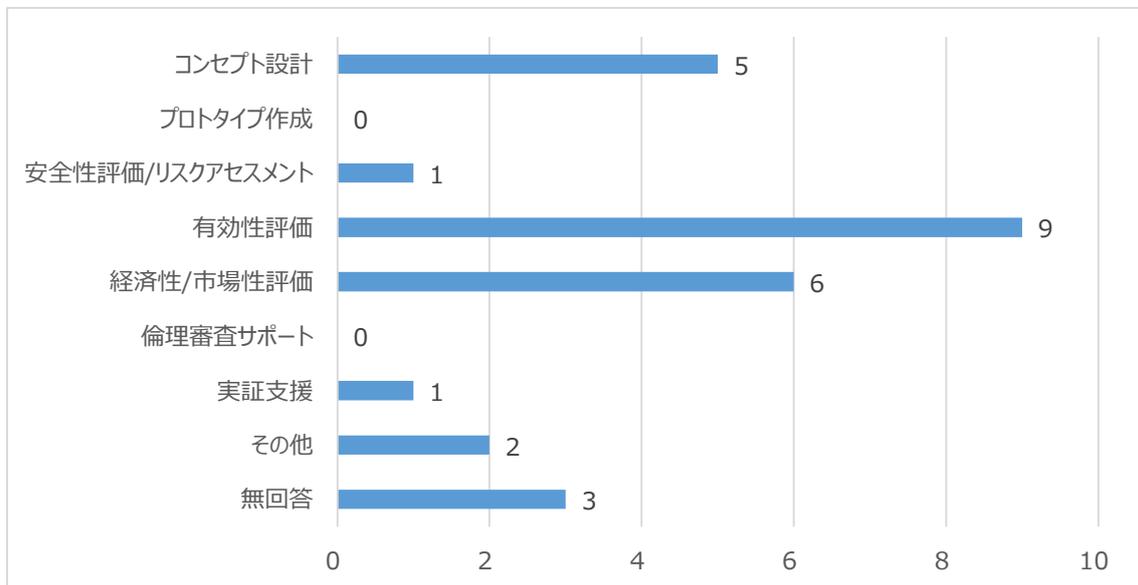
- ・ 過去に販売していた製品について、現在の顧客ニーズに合った改良を行いたい。どのような改良が必要なのか、顧客の生の声を聴いてみたい。
- ・ 使い勝手と確実性を両立した製品にするために、ユーザーインターフェースや機能の評価を行ってほしい。
- ・ 開発中の機器について、量産モデルの試作の前に、使いやすさ等の観点から現場目線での意見をもらいたい。

#### (3) リビングラボの対応内容・対応結果

マッチング支援②を実施した団体に対するリビングラボの対応内容は、「有効性評価」が最も多く 9 件であった。

図表 4-16 リビングラボの対応内容

n=21(複数回答)



対応内容詳細(抜粋・一部加工)

- ・ 介護現場での実証を依頼されたが、実証を実施するためにはより詳細なユースケース仮説の磨き込みが必要であると助言した。
- ・ リビングラボが過去実施した類似の実証に関して、情報提供を行った。

#### 第4項 マッチング支援③

マッチング支援③は5件を実施し、うち、マッチング支援③-1(要素技術を探している企業と、要素技術を有する企業とのマッチング支援)は4件、マッチング支援③-2(開発企業と販売・アフターサービス企業とのマッチング支援)は1件であった。

##### (1) マッチング支援③-1

マッチング支援③-1においては、4回のマッチング支援を行った。なお、登録数は延べ18団体であり、他社から技術を紹介して欲しい団体は8団体、他社に自社の技術を紹介したい団体は12団体であった。

##### (2) マッチング支援③-2

###### 1) 実施件数

マッチング支援③-2においては、開発企業1社、および販売・アフターサービス企業1社に対して企業同士の面談1回を行った。なお、登録数は延べ16団体であり、開発企業は13団体(14製

品)、販売・アフターサービス企業は3団体であった。

## 2) 事例

以下に、マッチング支援の一例を示す。

図表 4-17 マッチング支援③-2 の事例

	メーカー A 社	販売会社 B 社
企業情報	車椅子ロボットを開発している企業	事務機器・OA 機器や家具・家電をはじめ様々な商品を取り扱う商社
製品イメージ	<p>ベッドやトイレと車椅子との移乗を支援する車椅子ロボット。自律走行システムを搭載し、介護職員の移乗・移動による業務負担を軽減する。</p>   <p>出典:A 社 HP</p>	<p>介護施設や医療機関等に、オフィス用品や事務機器・事務用品、家具・家電他多数の製品を販売している。</p>
マッチング希望内容	車椅子ロボットの販売・メンテナンスを担っていただける企業を探している。	顧客である介護施設等向けの新たな取り組みとして介護ロボットを取扱い、社会貢献も実現したい。
面談内容	両社の企業紹介ののち、メーカーA社の開発した車椅子ロボットについて製品紹介を行い、質疑応答を実施した。後日、販売会社B社がメーカーA社を訪問し、製品を見ながら詳細な打ち合わせを行うこととなった。	
感想・反応	販売会社B社がメーカーA社を訪問し、製品の状況及び今後の営業戦略について打ち合わせを実施した。その結果、販売会社B社での取扱いが決定した。B社ではHPのトップページに掲載し、今後、顧客に積極的に紹介していく予定である。	

## 第4節 マッチング検討会

多様な分野に知見を有するマッチングサポーターのネットワークを活かしてエントリー企業の開発課題の解決を支援することで、個別のエントリー企業の開発課題の解決を支援することを目的として、事業期間中、マッチング検討会を3回実施した。開催概要は以下のとおり。

(1)第1回マッチング検討会 開催概要

図表 4-18 第1回マッチング検討会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2023年7月31日(月)10:05-11:55 Web 会議
座長	国立大学法人東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター 特任研究員 本田 幸夫
出席者	・ 顧問 ・ マッチングサポーター <オブザーバー> ・ 厚生労働省 ・ 経済産業省 <事務局> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
主なアジェンダ	・ 介護現場の生産性向上に関する政策動向 ・ 介護ロボットのプラットフォーム事業及びニーズ・シーズマッチング支援事業説明 ・ 地域のニーズを捉えた開発支援事例 ・ マッチング支援の事例検討

第1回マッチング検討会では、政策動向、事業説明名、地域のニーズを捉えた開発支援事例を共有するとともに、マッチング支援の事例検討では、エントリー企業8団体に対して、マッチングサポーター及び顧問の知見、ネットワークを活かした助言を実施した。

(2)第2回マッチング検討会 開催概要

図表 4-19 第2回マッチング検討会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2023年11月29日(水) 14:05-15:55 Web 会議
座長	国立大学法人東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター 特任研究員 本田 幸夫
出席者	・ エントリー企業 ・ 顧問 ・ マッチングサポーター <オブザーバー> ・ 厚生労働省 ・ 経済産業省 <事務局> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所

主なアジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業の進捗状況報告と今後の取組(案)</li> <li>・ マッチング支援の事例検討</li> </ul>
---------	---

第2回マッチング検討会では、第1回マッチング検討会で得た意見をもとに、今後の取組(案)として、製品開発のフレームワークの設定およびそれを用いた支援、支援事例の整理・見える化について議論を行った。

また、マッチング支援の事例検討では、エントリー企業5団体が直接参加し、各団体が抱える開発課題に対して、マッチングサポーター及び顧問の知見、ネットワークを活かした助言を実施した。

### (3) 第3回マッチング検討会 開催概要

図表 4-20 第3回マッチング検討会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2024年2月16日(月) 15:05-16:25 Web 会議
座長	国立大学法人東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター 特任研究員 本田 幸夫
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エントリー企業</li> <li>・ 顧問</li> <li>・ マッチングサポーター</li> <li>&lt;オブザーバー&gt;</li> <li>・ 厚生労働省</li> <li>・ 経済産業省</li> <li>&lt;事務局&gt;</li> <li>・ 株式会社NTT データ経営研究所</li> </ul>
主なアジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マッチング支援の事例検討</li> <li>・ 本事業の事業成果および考察</li> </ul>

第3回マッチング検討会では、3年間の支援実績の推移や、リビングラボに相談している企業の状況等をもとに、本事業が目指す姿(案)についての議論を行った。

また、マッチング支援の事例検討では、エントリー企業1団体が直接参加し、同団体が抱える開発課題に対して、マッチングサポーター及び顧問の知見、ネットワークを活かした助言を実施した。

## 第5節 介護分野の歩き方

新しく介護分野に参入を検討する企業向けに介護分野を解説したビデオコンテンツ「介護分野の歩き方」シリーズに、新たなコンテンツを追加し、ホームページ上で公開した。また、一部のコンテンツは最新状況を踏まえて更新を行った。コンテンツ一覧は以下のとおり。なお、本年度追加したコンテンツには、【追加】を、更新したコンテンツには【更新】を記した。

図表 4-21 介護分野の歩き方シリーズ コンテンツ一覧

#	分類	タイトル	講師所属・役職 (公開時点)	講師 (敬称略)
1		介護現場の動画(施設介護・在宅介護)	撮影協力: 社会福祉法人善光会 社会福祉法人福寿会	
2	介護分野の動向	介護業界のDX、テクノロジー活用 ニーズの高まり	社会福祉法人 善光会 理事 最高執行責任者 統括施設局 局長	宮本 隆史
3		【更新】介護現場における生産性向上 について	厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性 向上推進室 介護ロボット政策調整官	佐々木 憲太
4		【更新】経済産業省におけるロボット介 護機器産業の政策について	経済産業省 商務・サービスグループ 医療・福祉機器産業室	松岡 美穂
5		介護保険制度、介護業界、介護現場 (介護行為)の特性を理解する	一般社団法人 シルバーサービス振興会 事務局長	久留 善武
6		在宅介護の特徴的な課題と 機器開発の動向	株式会社 NTT データ経営 研究所 先端技術戦略ユニット HealthCare Implementation グループ シニアコンサルタント	山内 勇輝
7		【追加】介護保険制度における福祉用 具 新たな種目・種類の追加に関する提案 の手引き	一般社団法人 日本作業療法士協会 事務局長	東 祐二
8		【追加】介護ロボット・ICT 開発の進め 方と押さえておきたいポイント	社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究室 研究員 株式会社善光総合研究所 Care Tech ZENKOUKAI Lab 所長	滑川 永

9	機器開発	介護分野への企業の参入動向と 開発の課題について	株式会社 NTT データ経営 研究所 先端技術戦略ユニット HealthCare Implementation グループ シニアコンサルタント	山内 勇輝
10		介護ロボットの開発動向と ニーズ把握の重要性	九州工業大学 大学院 生命体工学研究科 教授・専攻長	柴田 智広
11		ロボット介護機器の開発プロセス～ 開発のV字モデル～	AMED ロボット介護機器開 発等推進事業(環境整備) プロジェクトリーダー 国研)産総研 インダストリアル CPS 研究センター デイ ペンダブルシステム研究チ ーム長	中坊 嘉宏
12		介護ロボットの開発から利活用に 向けた倫理的配慮ポイントと倫理審査	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人間拡張研究センター	梶谷 勇
13	事業化	ニーズを反映した製品開発・事業展開	TANOTECH 株式会社 代表取締役	三田村 勉
14		介護現場に寄り添った販売、アフター フォローについて	株式会社マルベリー 在宅事業部	谷 勇司
15		【追加】排泄予測デバイスを活用した自 立排泄支援の取組み ～現場の活用を促進する カスタマーサクセス～	トリプル・ダブリュー・ ジャパン株式会社 取締役 COO	小林 正典
16		【追加】睡眠解析技術で介護・医療現 場の課題解決に貢献する 「ライフリズムナビ®+Dr.」	エコナビスタ株式会社 経営企画室	榎本 奈津子

## 第5章 地域における生産性向上の取組に関する支援事業

### 第1節 地域における生産性向上の取組に関する支援事業(中央管理事業)について

本事業は、介護生産性向上推進総合事業(地域医療介護総合確保基金)を中心とした、地域における介護現場の生産性向上に関する取組について、効果的かつ効率的な実施、取組の普及に向けた支援・周知を図ることを目的としている。

#### 第1項 介護生産性向上総合相談センター(ワンストップ窓口)の意義・役割

これまで国や都道府県・市区町村をはじめとする様々な実施主体において、介護現場における生産性向上の取組(介護ロボット・ICTの導入・活用を含む)が行われてきた。一方で、これらの取組が介護現場に広く周知・活用され、生産性向上の取組が大きく広がっている状況には至っていない。これは、生産性向上に資する取組に関する事業や情報発信が断片的に実施されてきたことが原因の一つとして考えられる。

こうしたことを受け、令和6年4月1日施行の改正介護保険法において、都道府県を中心に生産性向上や人材確保の取組が一層を推進されるよう、都道府県に対して介護現場の生産性の向上に資する努力義務規定が設けられるとともに、介護生産性向上総合相談センター(以下、センターと表記する)を各都道府県に設置することを推進している。

今後、都道府県ごとに設置されたセンターが様々な支援・施策を総合的・横断的に一括して取り扱い、適切な支援につなぐことで、情報が整理・集約され、一体的な事業展開が可能となる。さらに、地域の実情に合わせた支援や、介護事業所にとって身近な支援を行うことが可能となる。

また、地域でモデル事業所を育成し、そのノウハウを横展開することにより他の事業所が生産性向上の取組を実施するきっかけとすることが重要である。その際、都道府県やセンターが主体となり、地域の福祉関係者はもとより、他機関と連携する必要がある。

センターは、こうした介護現場に対する様々な支援を通じて、サービスの質の向上や働きやすい職場環境づくりを実現させること、事業所の職員が自らの仕事や職場に自信と誇りを持って長く働けるようにすることを目指す。

#### 第2項 検討体制の構築

各都道府県がセンターを円滑に設置・運営できるような支援方策を検討することおよび、現在定義されているセンターの機能や連携先について、より具体的に示すことを目的に、作業部会を全3回実施した。

具体的には、本事業の相談窓口の有無にかかわらず、都道府県において円滑にセンターを設置・運営するために必要な取組や支援について、議論した。作業部会の構成員および、各作業部会の実施概要は以下のとおりである。

図表 5-1 作業部会の構成員

(敬称略、50音順)

氏名	所属
青田 俊枝	青森県社会福祉協議会 福祉人材課
小笠原 匡人	愛媛県 保健福祉部 長寿介護課
中村 知洋	山梨県 福祉保健部 健康長寿推進課
福元 正伸	総合リハビリテーションセンター 福祉のまちづくり研究所 介護ロボット開発支援・普及推進・研修センター課
三浦 貴友	北海道社会福祉協議会 法人支援部法人支援課

図表 5-2 第1回作業部会の実施概要

実施日／実施場所	2023年6月30日(金) 10時～12時／ウェブ会議
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員紹介</li> <li>2. ヒアリング調査の経過について</li> <li>3. 各ブロック担当者連絡会議の議題案について</li> <li>4. 勉強会(プラットフォーム窓口・センター)について</li> <li>5. センターを立ち上げるにあたっての課題について</li> </ol>
主なご意見 (ご意見が挙がらなかった議事については、記載を割愛している)	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. ヒアリング調査の経過について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の機関との連携をどのように行えばよいかイメージがわかりにくいので、連携先の具体的な業務内容を示すと良い。</li> <li>・ 本事業の相談窓口が設置されていない都道府県では、社会福祉協議会と介護労働安定センターといった、複数の機関の組み合わせで連携先との繋がりを網羅できるのではないかと。</li> <li>・ 当県では、まずはセンターで実施する具体的な事業内容を整理した。その上で、想定される連携先に足を運び、センターの事業内容を説明したうえで、どのような連携ができるか協議した。</li> </ul> </li> <li>5. センターを立ち上げるにあたっての課題について               <ul style="list-style-type: none"> <li>○センター立ち上げまでに求められる支援について                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リビングラボとの連携について、どのような準備をしておけば良いかわからない。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この相談なら〇〇と連携する、など、相談内容ごとに連携先を整理されていると連携の実施内容をイメージしやすいのではないか。</li> <li>・ センター事業計画を示すと、自治体側もセンター設置に着手しやすいのではないか。</li> <li>・ 事業がいつまで続くかわからない中で、嘱託職員以外を配置することは難しい。ノウハウの継承が課題となってくるのではないか。</li> <li>・ センターの職員が困った際に相談できる場や相談先があれば、各センターにエキスパートがいなくても、一定程度は事業を遂行できるのではないか。</li> <li>・ センターの事業成果を測定する KPI を設定すべきと考えているが。例えば、生産性向上の取組の認知度等が挙げられると考えている。</li> </ul> <p>○センターに対する支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産性向上の取組やセンター事業について、全国的に周知すると良いのではないか。</li> </ul> <p>○各ブロック担当者連絡会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉協議会が単独でセンター事業を請け負うのは(マンパワー的に)難しいのではないか。</li> </ul> <p>○センターを立ち上げる際の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ センターの方針を介護現場革新会議で提示するというスキームについて、介護現場革新会議でどの程度まで細かい内容を決定すべきなのか、イメージが掴めない。</li> </ul>
--	--

図5-3 第2回作業部会の実施概要

実施日／実施場所	2023年9月28日(木) 10時～12時／ウェブ会議
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各ブロック担当者連絡会議の状況について</li> <li>2. 勉強会(相談窓口向け・センター向け)について</li> <li>3. センターを運営するにあたっての課題について</li> <li>4. 手引き改訂の方向性(事務局案)について</li> </ol>
<p>主なご意見 (ご意見が挙がらなかった議事については、記載を割愛している)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各ブロック担当者連絡会議の状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>※各ブロック担当者連絡会議の状況を報告した後、構成員の所属する都道府県の状況や課題について意見を挙げた。</li> <li>○他の機関との連携について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他機関との連携のイメージが掴みにくい。想定される連携先の業務内容の一覧表等があると良いのではないかな。</li> </ul> </li> <li>○人材育成について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家が見つからない自治体は困っているのではないかな。国からセンターに対する支援として、ワークショップやケースワークといった、演習を交えた研修等の支援があると有難い。</li> <li>・ センターの担当者が、専門家による事業所の支援の現場に同席し、ノウハウを得るといったことも効果的である。</li> </ul> </li> <li>○介護ロボット等の展示 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護サービス事業所の他、一般市民等に対して等、幅広い対象に向けて展示会を実施している。</li> <li>・ 就職相談会や介護技術相談会、介護の日の関連イベント等と抱き合わせで展示会を実施している。</li> </ul> </li> <li>○介護ロボットの機器開発メーカーとのツテの作り方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉協議会単独ではツテが作りにくいのではないかな。</li> </ul> </li> <li>○介護ロボットの試用貸出の謝金支払いについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機器を運搬する際に費用が掛かるため、運搬費に対して謝金を支払うべきか検討中である。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2. 勉強会(相談窓口向け・センター向け)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に、センターの担当者が集まり、研修を受講することも検討してはどうか。(その他、主に議事1の(2)と同様の意見が挙がった。)</li> </ul> </li> <li>3. センターを運営するにあたっての課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ センターの周知方法を工夫しないと、センターが十分に活用さ</li> </ul> </li> </ol>

	れないのではないかと。
--	-------------

図表 5-4 第3回作業部会の実施概要

実施日／実施場所	2024年2月7日(水) 10時～12時／ウェブ会議
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各センターの1年間の取組について</li> <li>2. 第2回アンケート調査・ヒアリング調査について</li> <li>3. 手引き(改訂案)について</li> </ol>
<p>主なご意見 (ご意見が挙がらなかった議事については、記載を割愛している)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各センターの1年間の取組について</li> </ol> <p>○周知の観点で工夫している点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修等を実施する際に、市町村を經由して周知し、全事業所にメールが届くように依頼している。</li> <li>・ 都道府県ではなくセンターから補助金に関する情報発信を行うことによって、センターの周知をすることができた。</li> </ul> <p>○介護ロボット等の試用貸出の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業ではなく、都道府県で実施している事業で機器をレンタルして貸出をしている。そのため、メーカーに対して謝金は支払っていない。</li> <li>・ 謝金は支払っていない。仮に支払いが必要な場合には事業所とメーカーが協議して行っている。貸出期間は1か月程度としている。</li> <li>・ 貸出前に事業所の課題の整理をしておき、機器を導入する可能性が高くなった時点でメーカーを紹介し、トライアルで機器を活用している。その際、センター側で性能がわからない機器については、まずメーカーからセンターに予め機器を貸してもらうことで、機器の機能を予め見極めている。</li> <li>・ 事業所によっては、普段から懇意にしているメーカーの情報しか有していないケースがある。仮にそのメーカーが事業所の課題に合った機器を提供していなければ、導入に失敗する可能性が高い。その場合は、センターへの来所を依頼し、事業所に対して機器の情報提供を行う。その上で、事業所が懇意にしているメーカーで機器の取扱いがあるようであれば、そのまま交渉を行うように調整する。事業所がなじみのないメーカーであれば、センターが調整を行う。</li> </ul> <p>○介護サービス事業所以外向けの研修会について</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生に対しては簡単な講義(介護ロボットの必要性を訴えるといった内容)を行い、実際に機器に触れてもらう時間を設けている。小学生に向けた研修では、いわゆる「ロボット」とイメージするような機器だけでなく、移乗機器等も介護ロボットであると認識してもらえた。</li> <li>・ 看護師の実習研修として、センターで介護ロボットを体験してもらっている。センターとして、機器はあくまで手段であり、その結果としてサービスの質が向上することを訴えている。研修後のアンケートでは、上記のような点に気が付いた、という回答を得ることもある。</li> </ul> <p>3. 手引き(改訂案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都道府県担当者は、3～5年ごとに異動があるが、新任の担当者でも本手引きを参照すれば、業務のイメージつきやすいのではないか。</li> </ul>
--	--

## 第2節 介護生産性向上総合相談センターの設置促進等に関する取組

### 第1項 各都道府県における生産性向上に資する取組の実施状況の調査

各都道府県における生産性向上に資する施策の取組状況および、センター設置における障壁をつぶさに把握し、今後の都道府県やセンターに向けた支援に対する基礎資料を得ることを目的として、各都道府県における生産性向上に資する取組の実施状況を調査し、その結果をとりまとめた。具体的には、アンケート調査およびヒアリング調査を2回ずつ実施した。以下に調査概要および調査結果を示す。なお、アンケート調査票は、本章の最後に掲載している。

#### (1) 調査概要

各アンケート調査およびヒアリング調査の概要は以下のとおりである。

図表 5-5 第1回アンケート調査の概要

調査時期	令和5年6月29日(木)～令和5年7月12日(水)
調査対象	全47都道府県(悉皆)
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>都道府県で実施している生産性向上に関する取組およびその財源</li><li>介護生産性向上総合相談センターの設置・運営状況、課題</li><li>介護現場革新会議の実施状況等</li><li>各地域の介護サービス事業所に対して生産性向上の取組を普及・定着させるにあたっての課題や困りごと</li><li>介護人材確保等の関係で連携している機関、及びその連携方法等</li></ul>

図表 5-6 第1回ヒアリング調査の概要

調査時期	令和5年6月21日(水)～令和5年8月4日(金)
調査対象	全43都道府県 ※調査開始時点でセンターを設置していない都道府県すべてに対して調査を実施した。
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>介護生産性向上総合相談センターの設置にあたっての障壁や課題、想定される委託先、センターの必要性</li><li>介護現場革新会議の実施状況等</li><li>介護人材確保等の関係で連携している機関との連携方法、その他連携が可能と考えられる機関およびその理由</li></ul> ※第1回アンケート調査項目とほぼ同等の項目についてより深掘りして聴き取りを行った。

図表 5-7 第2回アンケート調査の概要

調査時期	令和6年1月19日(金)～令和6年2月9日(金)
調査対象	全47都道府県(悉皆)
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都道府県で実施している生産性向上に関する取組およびその財源</li> <li>・ 介護現場革新会議の実施状況等</li> <li>・ 介護生産性向上総合相談センターの設置・運営状況、課題</li> <li>・ 介護人材確保等の関係で連携している機関、及びその連携方法等</li> <li>・ その他、各地域の介護サービス事業所に対して生産性向上の取組を普及・定着させるにあたっての課題や困りごと</li> </ul>

図表 5-8 第2回ヒアリング調査の概要

調査時期	令和6年3月7日
調査対象	全4都道府県(アンケート調査結果より抽出)
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護生産性向上総合相談センター設置および、介護現場革新会議の開催に関しての個別課題について</li> </ul>

## (2) 調査結果

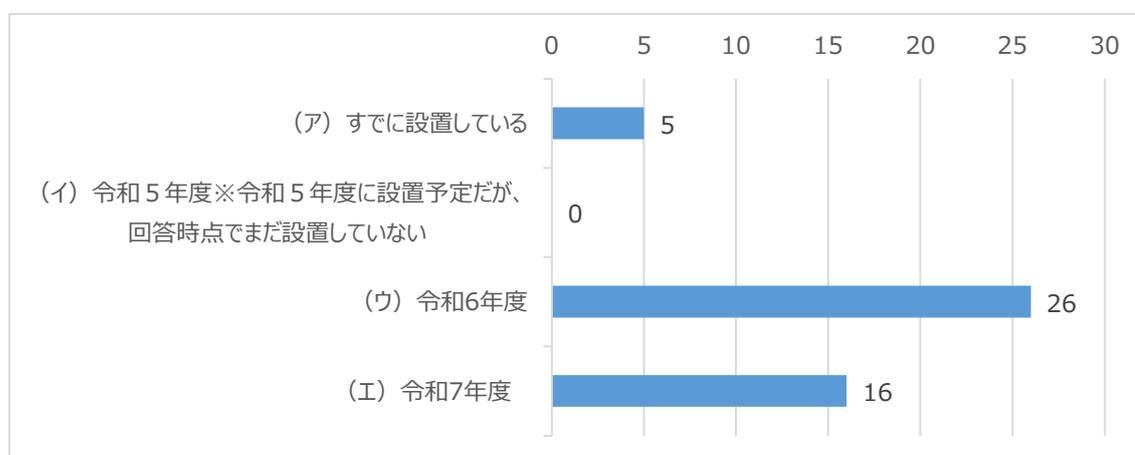
それぞれの調査から得られた結果を、センターの設置・運営、及び介護現場革新会議の開催の2つの観点から取りまとめた。

### ①センターの設置・運営について

第2回アンケート調査の時点におけるセンターの設置状況は、令和5年度中に設置した都道府県が5カ所、令和6年度に設置予定が26カ所、令和7年度に設置予定が16カ所であった。

図表 5-9 センターの設置状況

n=47



令和5年度にセンターを設置した5自治体からは、設置の際に障壁となったこととして、主に以下が挙げられた。

- ・ 介護ロボットの機器展示や試用貸出について、展示や保管場所の確保が困難であった。
- ・ 都道府県の既存事業(本事業に類似する事業)の業務委託内容に令和5年度からワンストップ型の支援を追加することで対応しているが、現行予算では業務改善等相談対応に関する専門性を有する人材の確保が難しかった。

令和6年度以降にセンターを設置する予定の自治体からは、今後、センターを設置するにあたって障壁となることとして以下の回答が得られた。

### ○センターの設置全般について

- ・ 研修会や有識者派遣の具体的な業務内容が想像できない。
- ・ 各事業を安定的に実施するための実施方法の決定が困難である。
- ・ 一部、内容が重なる既存事業とのすみわけが困難である。

- ・ 関係機関との連携構築や、プラットフォーム事業からの転換をどのように図るかが課題である。そういった課題について、各都道府県間で気軽に相談できる場があれば良いのではないかと。
- ・ センターが実施する業務が多岐に渡り、当県の担当課のみでは対応しきれない。
- ・ 現時点では先行事例が少なく、また県内の介護事業所がどの程度、センターを活用するか見込めないため、費用対効果が見えにくい。
- ・ センターの名称を一般に浸透しやすいものとしたいが、決めかねている。

#### ○予算獲得・財政当局との調整等について

- ・ 恒常的にセンターを設置するための予算確保が難しい。
- ・ 財政当局に対し、介護サービス事業所における生産性向上の取組が進んでいない状況を定量的に説明することが難しい。
- ・ 現在、体験展示・試用貸出について事業所からの要望はない。そのため、財政課の査定が通らないと考えている。

#### ○開設主体や委託先の選定について

- ・ センターの業務ごとに委託先を検討しているが、対応可能な委託先の選定に難航している。
- ・ 当県にはプラットフォーム事業の相談窓口がないため、センター設置にあたり、事業者の選定に時間を要する。
- ・ 想定していたセンターの委託先より、当県から提示した委託料では人材が確保できないと言われていた。
- ・ 既存事業で専門家として委嘱している者はいるが、相談件数が乏しく実績を積めていない。

#### ○研修会や有識者派遣、相談対応について

- ・ 現在、トライアル的に伴走支援事業を実施しているが、伴走支援を希望する事業所が集まらない。そのため、今後、相談窓口を設置しても相談が来ないのではないかと考えている。
- ・ 新たに事業所の人材確保や経営面の相談にも対応することになるため、相談対応のノウハウを持つ人材が見つからない。
- ・ 事業所の課題整理や課題解決に向けた具体的な支援を行うことができる人材が県内に存在しない。

#### ○機器の展示について

- ・ メーカーを選定する際の公平性の担保が難しい。
- ・ 常設展示の場合、スペースの確保が難しい。
- ・ 費用対効果に見合うか疑問がある。

○試用貸出について

- ・ メーカーに対し、貸出に対する謝金を支払わない方向としたいが、離島に機器を運搬する際については別扱いとすべきか、といった点を検討する必要がある。
- ・ 協力的なメーカーを見つけるのが困難である。

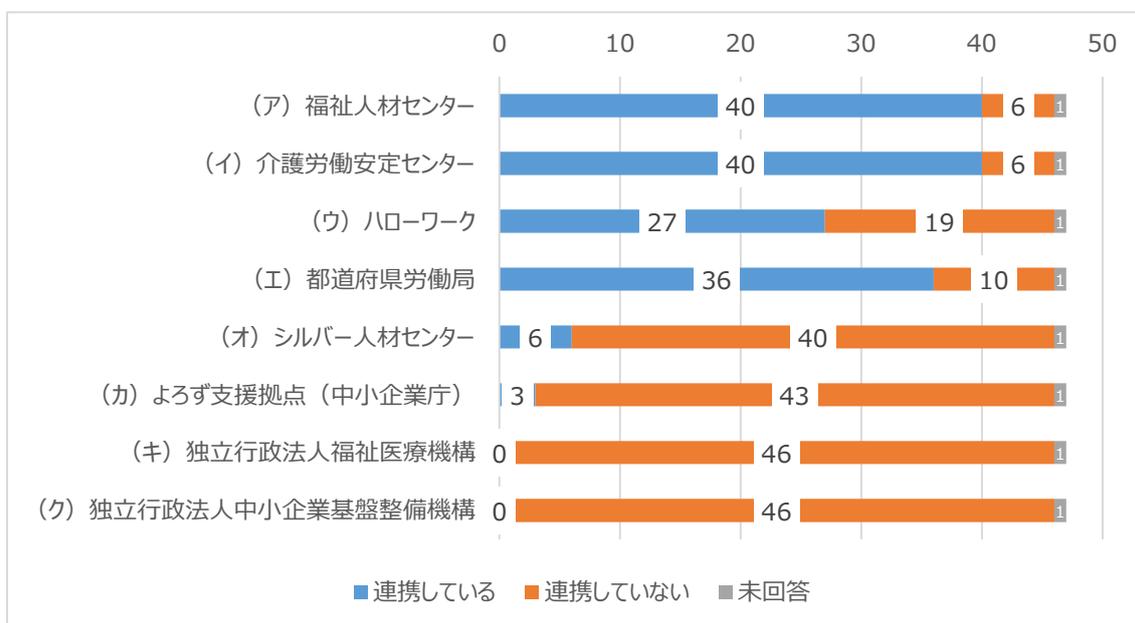
○他の機関との連携について

- ・ 経営支援等に関する相談があった場合の連携体制が未構築である。
- ・ シルバー人材センター、よろず支援拠点、独立行政法人福祉医療機構、独立行政法人中小企業基盤整備機構と接点がない。

なお、他の機関との連携について、今後、センターでは、受け付けた相談内容に応じて、これまで関わった実績のない他の機関とも連携し、介護サービス事業所の相談を取り次ぐことが必要となる。そこで、センターと連携することが想定される機関と、介護人材確保等の関係で既に連携している期間について尋ねたところ、第2回アンケート調査の時点では、福祉人材センターおよび介護労働安定センターが最も多く、独立行政法人福祉医療機構および独立行政法人中小企業基盤整備機構が最も少ない(いずれも0件)という結果となった。

図表 5-10 介護人材確保等の関係で連携している機関

n=47

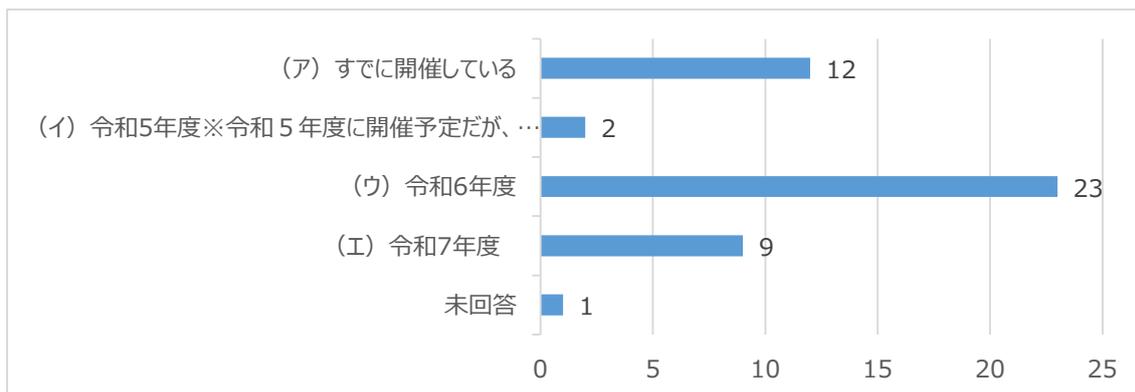


②介護現場革新会議について

第2回アンケート調査の時点で、介護現場革新会議は令和6年度に開催を予定している都道府県が23自治体と最も多かった。

図表 5-11 介護現場革新会議の開催状況

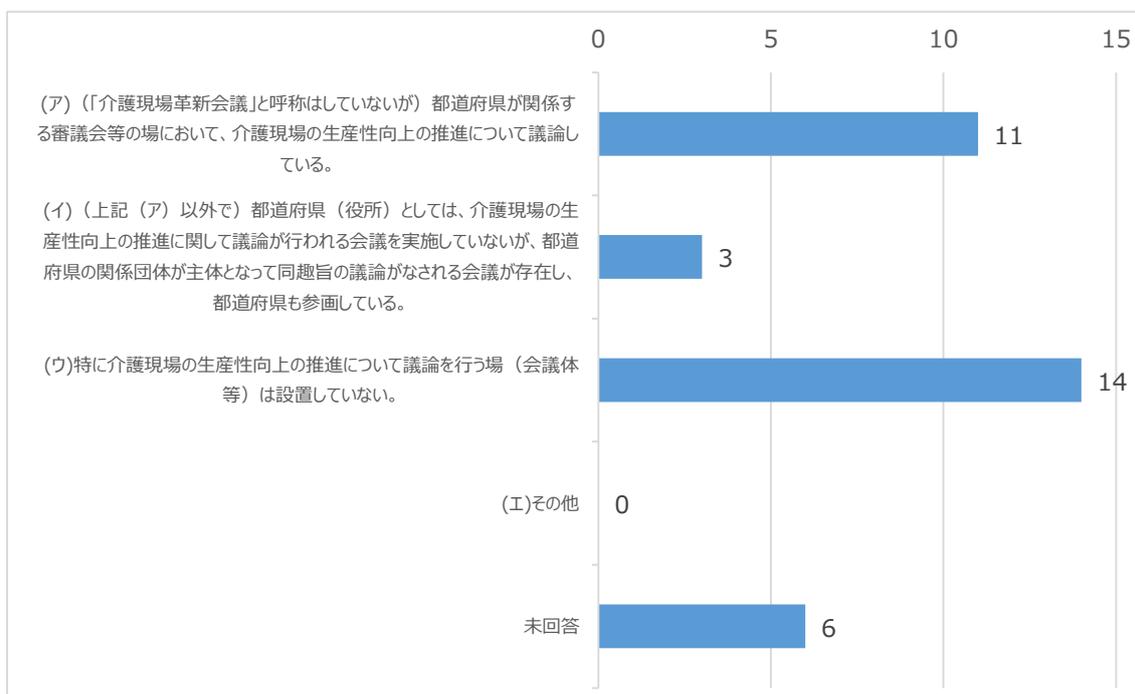
n=47



また、介護現場革新会議を実施していない自治体では、特に介護現場の生産性向上の推進について議論を行う場(会議体)を設置していない、という回答が最も多かった。

図表 5-12 介護現場革新会議を設置していない都道府県における会議の開催状況

n=34



介護現場革新会議を開催するにあたっての課題は、主に以下が挙げられた。

- ・ 人材確保対策会議など既存の会議との整理が必要である。
- ・ 県内の事業者への周知、「生産性」という言葉の説明・理解促進に課題がある。
- ・ 令和元年度にパイロット事業で専門家、有識者集めて、会議体を作ったが、単年度で会議体は終わってしまった。一回終わったものを再度立ち上げるのは、障壁が高い。
- ・ 現場の課題を理解した委員を選定したいが、委員構成を詳細に検討できていない。選定の観点として、実務担当の方に委員を依頼するか、もしくは各団体のトップの職階の方とすべきか、検討中である。

## 第2項 各ブロック担当者連絡会議の実施

各都道府県の実施状況の報告や課題の共有および、介護現場に対する生産性向上の取組の効果的な普及・啓発の実現に向けた意見交換を目的として、各都道府県の実施状況に資する施策の担当者等を対象に、各ブロック担当者連絡会議を実施した。本会議は、全国を7ブロックに分けて各担当者を集め、対面で行った。開催概要は以下のとおりである。

図表 5-13 各ブロック担当者連絡会議の開催概要

ブロック／開催日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道・東北ブロック／令和5年10月19日(木) 15時～17時</li> <li>・ 関東ブロック／令和5年10月10日(火) 15時～17時</li> <li>・ 中部ブロック／令和5年10月2日(月) 15時～17時</li> <li>・ 近畿ブロック／令和5年9月29日(金) 15時～17時</li> <li>・ 中国ブロック／令和5年9月20日(水) 10時～12時</li> <li>・ 四国ブロック／令和5年9月14日(木) 15時～17時</li> <li>・ 九州ブロック／令和5年9月6日(水) 15時～17時</li> </ul>
参加者	各都道府県における介護現場の生産性向上担当者 (介護生産性向上総合相談センターの担当者も参加可)
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. センター設置に係るポイントと中央管理事業における支援について</li> <li>2. 全国のセンター設置予定および各県の取組状況について</li> <li>3. センター設置にあたっての意見交換</li> </ol>

また、都道府県からは、以下の課題が挙がった。

図表 5-14 各ブロック担当者連絡会議において挙がった課題

種別	課題
事業全般について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ センターの名称を決めかねている。</li> <li>・ プラットフォーム事業の土台がない中でセンターの設置をスタートす</li> </ul>

種別	課題
	<p>るため、何から始めたらよいかわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算確保の際に、類似事業での実績を求められるが、実績がない。</li> <li>・ 外部団体等からセンターの設置に関する前向きな意見が得られないと、予算が通らない。</li> <li>・ センターの効果的な周知方法を模索している。</li> <li>・ センターの業務によっては県内の部署を跨いで担当している為、部署間の連携が難しい。</li> </ul>
センターの開設主体について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ センターの妥当な開設主体が見当たらない。</li> <li>・ 開設主体の候補はあるが、どの程度対応できるか不明である。</li> <li>・ 妥当と考えられる開設主体のマンパワーが不十分である。</li> <li>・ 妥当と考えられる開設主体で十分な場所や設備の確保が難しい。</li> <li>・ 妥当と考えられる開設主体と財政的な面で折り合いがつかない。</li> </ul>
介護現場における生産性向上の取組に関する研修会について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修会で講師を務めることができる人材が見当たらない。</li> <li>・ 研修会の集客に課題があると想定している。</li> </ul>
生産性向上に取り組む介護事業所に対する有識者の派遣について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的なノウハウを持つ人材を確保することが難しい。</li> <li>・ 専門家を派遣するにあたり財政的な面で課題がある。</li> <li>・ 開設主体において、支援を行う体制構築が難しい。</li> <li>・ 事業所に対する支援を外部に委託する際に、財政的な面で課題がある。</li> <li>・ 何事業所程度、モデルとなる事業所を育成するか決めかねている。</li> </ul>
介護事業所からの生産性向上・人材確保の取組等に関する相談対応等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的なノウハウを持つ人材が見当たらない。</li> </ul>
介護ロボット等の機器展示について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スペースの確保が難しい。</li> <li>・ 常設展示が難しいため、出張展示等の手法を検討しているが、具体的な実施方法に悩んでいる。</li> <li>・ 展示に際して協力が得られそうな機器メーカーが見当たらない。</li> </ul>
介護ロボットの試用貸出について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貸出に係る費用が不明瞭である。</li> <li>・ 貸出対象の機器を選定しかねている。</li> <li>・ 貸出に際して協力が得られそうなメーカーが見当たらない。</li> <li>・ どのようにメーカーとのツテを作ればよいかわからない。</li> </ul>

種別	課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試用貸出はメーカーにとって営業チャンスだが、貸出に際して謝金を求められるのはどのようなケースで、頻度としてはどの程度かわからない。</li> <li>・ メーカーに対して謝金を支払うか決めかねている。</li> </ul>
他の機関との連携について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存の連携先では、想定される相談内容に対応することが難しい。</li> <li>・ これまで十分に関わりがなかった機関とも連携する必要があると想定しており、どのように連携すべきか悩んでいる。</li> </ul>

### 第3項 全国担当者連絡会の実施

最新の施策情報や他県の状況から、各都道府県担当者に生産性向上に関する施策を進めるための情報を収集していただくことを目的として、各都道府県の生産性向上に資する施策の担当者等を対象に、全国担当者連絡会議を実施した。本会議はウェブ会議にて行った。

全国担当者連絡会議の開催概要は以下のとおりである。

図表 5-15 全国担当者連絡会議の開催概要

開催日	令和6年2月21日(水)10時～12時
参加者	各都道府県における介護現場の生産性向上担当者 (介護生産性向上総合相談センターの担当者も参加可)
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 直近の施策動向について</li> <li>2. アンケート調査・ヒアリング調査について</li> <li>3. センター設置済みの都道府県における取組状況について</li> </ol>

### 第3節 介護生産性向上総合相談センターへの支援の実施に関する取組

#### 第1項 介護生産性向上総合相談センター向け勉強会の開催

センターの担当者が業務を円滑かつ効果的に遂行できるようになることを目的に、センター向け勉強会を開催した。なお、本勉強会については、対象者であるセンターの担当者の他、相談窓口の担当者、各都道府県の担当者、公益財団法人 介護労働安定センターおよび全国社会福祉協議会 福祉人材センターにも案内を送付し、参加を促した。センター向け勉強会の実施概要は次のとおりである。

図表 5-16 センター向け勉強会の実施概要

開催日	プログラム
令和5年7月14日(金) 10時～11時30分	1. 各センターの紹介 2. 意見交換
令和5年9月15日(金) 10時～11時30分	1. 業務改善の伴走支援の進め方について
令和5年11月17日(金) 10時～11時30分	1. センターの手引き(改訂案)の紹介
令和6年1月19日(金) 10時～11時30分	1. 令和5年度 中央管理事業における実施事項 2. 令和5年度 各センターにおける取組事項 3. 意見交換

#### 第2項 「介護生産性向上総合相談センターの設置・運営に係る手引き」の改訂

センターの運営業務に関するマニュアルとして、令和4年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「介護生産性向上総合相談センターを通じた地域単位の効果的な支援方策に関する調査研究事業」において、「介護生産性向上総合相談センターの設置・運営に係る手引き」を当社にて取りまとめた。

本事業において、センターの立ち上げ・運営にあたっての具体的な方策や、取り組むべき事項をより明確にすること、および困りごとを解決するためのヒントを示すことを目的に、手引きの内容を改訂した。具体的な改訂の方針は以下の3つである。なお、改訂版の手引きは、別添資料にて示した。

1. 手引きに記載された項目や文言について、各都道府県に配布されている「生産性向上推進総合事業実施要綱」と整合を取る。
2. 作業部会やセンター向け勉強会、都道府県担当者から挙げた意見等を基に、現場の実態に即した内容とする。
3. センターの業務のうち、特に①介護現場における生産性向上の取組に関する研修会、及

び②生産性向上に取り組む介護事業所に対する有識者の派遣の2つについては、令和4年度老人保健健康増進等事業「介護事業所における生産性向上の更なる普及促進に向けた調査研究」の成果物「生産性向上の支援・普及に資する事業の進め方」でポイント等をまとめている為、該当箇所に誘導し、併せて参照できるようにする。

## 第6章 相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議について

### 第1節 目的

相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議は、相談窓口とリビングラボネットワークの連携を強化し、その取組をより効果的なものとするを目的として開催した。

### 第2節 実施内容

#### 第1項 第1回相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議

##### (1) 会議の開催概要

開催日時/形式	令和5年5月23日(火) 14:05-15:55 対面とオンラインのハイブリッド会議
会議議長	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 副センター長 渡邊愼一 氏
出席組織	<相談窓口> ・ 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター ・ 社会福祉法人青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター ・ 公益財団法人いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター ・ 新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口 ・ とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター ・ 社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 ・ 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口 ・ 社会福祉法人富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 富山県介護実習・普及センター ・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター ・ ATC エイジレスセンター 介護ロボット相談窓口 ・ ひょうご KOBE 介護・医療ロボット開発・開発・導入支援窓口 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究所 ・ 社会福祉法人健祥会 徳島県介護実習・普及センター ・ 社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会 愛媛県介護実習・普及センター ・ 一般社団法人日本福祉用具供給協会 広島県ブロック ・ 九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター</li> <li>・ 社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会 鹿児島県介護実習・普及センター</li> </ul> <p>&lt;リビングラボ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立大学法人東北大学 青葉山リビングラボ</li> <li>・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 柏リビングラボ</li> <li>・ SOMPO ホールディングス株式会社 SOMPO ケア株式会社</li> <li>・ 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所</li> <li>・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター</li> <li>・ 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター</li> <li>・ 吉備高原医療リハビリテーションセンター ロボット活動支援機器実証センター</li> <li>・ 国立大学法人九州工業大学 スマートライフケア共創工房</li> </ul> <p>&lt;オブザーバー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厚生労働省</li> <li>・ 兵庫県立福祉のまちづくり研究所</li> <li>・ 山梨県福祉保健部健康長寿推進課</li> <li>・ 社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会 介護福祉総合支援センター</li> </ul> <p>&lt;事務局&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株式会社 NTT データ経営研究所</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護現場の生産性向上、及び介護ロボットの開発・実証・普及の促進に向けて、相談窓口、リビングラボのリアルでの交流を通して、気軽に相談し合える関係性を構築する。</li> </ul>
アジェンダ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会の挨拶</li> <li>2. 関係者紹介、挨拶 15分(事務局からの紹介)</li> <li>3. 行政説明 15分(政策方針)</li> <li>4. 事業説明 25分 (昨年度結果、相談窓口・リビングラボ・ニーズシーズマッチング事業の令和5年度注力内容の説明)</li> </ol>

	<p>5. ディスカッション 35分(議論26分+発表3分×3グループ)          議題:相談窓口とリビングラボでの取組のコラボレーション案について</p> <p>6. 閉会の挨拶 5分</p> <p>7. 事務連絡 3分</p>
--	---

## 第2項 第2回相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議

### (1)会議の開催概要

開催日時/形式	令和6年3月12日(火) 10:35-12:25 オンライン会議
会議議長	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 副センター長 渡邊愼一 氏
出席組織	<p>&lt;相談窓口&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター</li> <li>・ 社会福祉法人青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター</li> <li>・ 公益財団法人いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター</li> <li>・ 新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口</li> <li>・ とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター</li> <li>・ 社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館</li> <li>・ 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口</li> <li>・ 社会福祉法人富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 富山県介護実習・普及センター</li> <li>・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター</li> <li>・ ATC エイジレスセンター 介護ロボット相談窓口</li> <li>・ 社会福祉法人健祥会 徳島県介護実習・普及センター</li> <li>・ 社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会 愛媛県介護実習・普及センター</li> <li>・ 九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター</li> <li>・ 社会福祉法人大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター</li> <li>・ 社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会</li> </ul>

	<p>鹿児島県介護実習・普及センター</p> <p>&lt;リビングラボ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立大学法人東北大学 青葉山リビングラボ</li> <li>・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 柏リビングラボ</li> <li>・ SOMPO ホールディングス株式会社 SOMPO ケア株式会社</li> <li>・ 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所</li> <li>・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター</li> <li>・ 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター</li> <li>・ 吉備高原医療リハビリテーションセンター ロボット活動支援機器実証センター</li> <li>・ 国立大学法人九州工業大学 スマートライフケア共創工房</li> </ul> <p>&lt;オブザーバー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厚生労働省</li> <li>・ 経済産業省</li> <li>・ 社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会 介護福祉総合支援センター</li> </ul> <p>&lt;事務局&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株式会社 NTT データ経営研究所</li> </ul>
<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直近の政策動向、関連調査事業の進捗を共有すること</li> <li>・ 本事業の成果を報告すること</li> </ul>
<p>アジェンダ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会の挨拶 5分</li> <li>2. 直近の政策動向及び関連事業について 55分</li> <li>3. 介護ロボットのプラットフォーム事業 成果報告 45分</li> <li>4. 閉会の挨拶 5分</li> </ol>

## 第7章 周知活動

### 第1節 ホームページの設置・運用

介護サービス事業所や開発企業等の介護ロボットの関係者に向けて相談窓口及びリビングラボの取組や支援内容を周知するため、当事業に関するホームページを設置し、運用を行った。本事業のホームページのアクセス数は 2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月時点までで、37,883 件 (2024 年 3 月 20 日時点)であった。

#### (1) ホームページの概要

図表 7-1 ホームページの概要

URL	https://www.kaigo-pf.com/
閲覧ターゲット	1. 介護サービス事業所全般 (特に介護ロボットの導入に関心のある介護サービス事業所) 2. 介護ロボットの開発・普及に関心のある企業
開設日	2023 年 4 月 1 日
掲載情報	<ul style="list-style-type: none"><li>・事業概要</li><li>・介護サービス事業所向けの情報<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 【相談窓口】介護ロボットの導入や活用の相談について</li><li>➢ 介護ロボットに関する研修会について</li><li>➢ 相談事例について</li></ul></li><li>・開発企業向けの情報<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 【リビングラボ】介護ロボットの製品評価・効果検証の相談について</li><li>➢ 【相談窓口】研究開発や製品 PR の相談について</li><li>➢ 相談・支援事例について</li></ul></li><li>・ニーズ・シーズマッチング支援事業について<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 介護現場のニーズについて</li><li>➢ 開発企業の紹介について</li><li>➢ 販売・アフターサービス事業者の紹介について</li></ul></li><li>・お役立ち情報<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 助成金・補助金等について</li><li>➢ &lt;分野別&gt;介護ロボットの活用事例について</li><li>➢ セミナーに関する情報について</li><li>➢ 本事業に関連した取組やコラムについて</li><li>➢ その他、関連情報のリンク</li></ul></li></ul>

(2) ホームページの詳細

① トップページ

図表 7-2 事業全体のトップページ(一部、URL の 2024 年3月 21 日現在)



②各相談窓口のホームページ

図表 7-3 各相談窓口のホームページの URL

窓口名	URL
(福)北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター	<a href="http://www.dosyakyo.or.jp/careroobot/index.html">http://www.dosyakyo.or.jp/careroobot/index.html</a>
(福)青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター	<a href="http://robot-pf.aosyakyo.or.jp/">http://robot-pf.aosyakyo.or.jp/</a>
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	<a href="http://www.silverz.or.jp/ikrobo/">http://www.silverz.or.jp/ikrobo/</a>
新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口	<a href="https://carerobo-pf.jp/">https://carerobo-pf.jp/</a>
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	<a href="https://robot.normalization.jp/">https://robot.normalization.jp/</a>
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	<a href="https://www.fukushi-saitama.or.jp/site/care-smile/about_5.html">https://www.fukushi-saitama.or.jp/site/care-smile/about_5.html</a>
(福)横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口	<a href="https://www.yrc-pf.com/">https://www.yrc-pf.com/</a>
(福)富山県社会福祉協議会 とやま介護テクノロジー普及・推進センター	<a href="https://www.toyama-shakyo.or.jp/hukyu/products-2020-01/#subtop">https://www.toyama-shakyo.or.jp/hukyu/products-2020-01/#subtop</a>
(国研)国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター	<a href="https://platform.ncgg.go.jp/">https://platform.ncgg.go.jp/</a>
J.ATC エイジレスセンター 介護ロボット相	<a href="https://www.ageless.gr.jp/robot">https://www.ageless.gr.jp/robot</a>

談窓口	
ひょうご KOBE 介護・医療ロボット開発・導入支援窓口	<a href="http://www.kobe-reha-robot.jp/support/">http://www.kobe-reha-robot.jp/support/</a>
(福)健祥会 徳島県介護実習・普及センター	<a href="https://www.kenshokai.group/jisshu-fukyu-center/carerobot/">https://www.kenshokai.group/jisshu-fukyu-center/carerobot/</a>
(一社)日本福祉用具供給協会 広島県ブロック	<a href="https://care-robot.org/">https://care-robot.org/</a>
愛媛県介護実習・普及センター	<a href="https://www.ehime-shakyo.or.jp/">https://www.ehime-shakyo.or.jp/</a>
九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター	<a href="http://aes-medicalwelfare.com/krobot/">http://aes-medicalwelfare.com/krobot/</a>
社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター	<a href="https://www.oita-kaigorobot.com/">https://www.oita-kaigorobot.com/</a>
鹿児島県介護実習普及センター	<a href="http://www.kaken-shakyo.jp/kaigo/robot/robot.html">http://www.kaken-shakyo.jp/kaigo/robot/robot.html</a>

③各リビングラボのホームページ

図表 7-4 各リビングラボのホームページの URL

リビングラボ名	URL
東北大学青葉山リビングラボ	<a href="https://srd.mech.tohoku.ac.jp/ja/living-lab/">https://srd.mech.tohoku.ac.jp/ja/living-lab/</a>
Care Tech ZENKOUKAI Lab ( (福) 善光会 サンタフェ総合研究所)	<a href="https://caretechlab.sfri.jp/">https://caretechlab.sfri.jp/</a>
Future Care Lab in Japan (SOMPO ホールディングス(株)、SOMPO ケア(株))	<a href="https://futurecarelab.com/">https://futurecarelab.com/</a>
柏リビングラボ ((国研)産業技術総合研究所)	<a href="https://unit.aist.go.jp/harc/arrt/ARRT.html">https://unit.aist.go.jp/harc/arrt/ARRT.html</a>
藤田医科大学 ロボティクス マートホーム・活動支援機器 研究実証センター	<a href="https://www.fujita-hu.ac.jp/rsh-aat/">https://www.fujita-hu.ac.jp/rsh-aat/</a>
(国研)国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター	<a href="https://platform.ncgg.go.jp/">https://platform.ncgg.go.jp/</a>
ロボット活動支援機器実証セ	<a href="https://www.kibirihah.johas.go.jp/003_reha/16_kaigo_rob.html">https://www.kibirihah.johas.go.jp/003_reha/16_kaigo_rob.html</a>

ンター(吉備高原医療リハビリ テーションセンター)	
スマートライフケア共創工房 (大)九州工業大学)	<a href="https://slc3lab.jp/">https://slc3lab.jp/</a>

④各介護生産性向上総合相談センターのホームページ

図表 7-5 各介護生産性向上総合相談センターのホームページの URL

介護生産性向上総合相談センター名	URL
北海道介護ロボット普及推進センター	<a href="http://www.dosyakyo.or.jp/carerobot/index.html">http://www.dosyakyo.or.jp/carerobot/index.html</a>
あおもり介護生産性向上相談センター	準備中
山梨県介護福祉総合支援センター	<a href="https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSesG1Q8FInB5pIL1tc16BQZHHyk_KzWG7ndVKrldt-keHSArQ/viewform?pli=1">https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSesG1Q8FInB5pIL1tc16BQZHHyk_KzWG7ndVKrldt-keHSArQ/viewform?pli=1</a>
社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団 兵庫県立福祉のまちづくり研究所	<a href="https://www.assistech.hwc.or.jp/">https://www.assistech.hwc.or.jp/</a>
愛媛県介護生産性向上総合相談センター	<a href="http://www.kaigo-center.or.jp/shibu/ehime/2023/013313.html">http://www.kaigo-center.or.jp/shibu/ehime/2023/013313.html</a>

⑤ホームページの更新内容

令和5年度におけるホームページの更新内容は次のとおりである。

図表 7-6 ホームページの更新日と更新内容(2024年3月21日現在)

更新日	更新内容(概要)	
2023年	4月1日	ホームページ開設
	4月11日	大分窓口主催「介護ロボット・ICT 機器 導入マネジメント研修」の研修会情報を公開
	4月18日	令和4年度「介護現場における生産性向上推進フォーラム」のアーカイブ動画の掲載を周知
	4月19日	とやま介護テクノロジー普及・推進センターの開所式(2023年4月18日実施)が実施された旨を周知
	5月22日	北九州窓口主催「令和5年度 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 介護ロボット・ICT 導入 補助金活用セミナー (オンライン 開催)」の研修会情報を公開
	6月5日	「ニーズ×シーズ マッチングセミナー2023～先行事例から学ぶ、介

		護テクノロジー開発の展望～」の情報を周知
6月5日		介護ロボットのニーズ・シーズマッチング支援事業における企業エンタリー受付を開始した旨を周知
6月5日		栃木窓口主催「介護ロボット導入支援セミナー「移乗ロボット編」」の研修会情報を公開
6月5日		大阪窓口主催「令和5年度介護ロボット・ICT活用支援セミナー」の研修会情報を公開
6月5日		青森窓口主催「令和5年度あきた介護ロボット・ICT導入支援セミナー」の研修会情報を公開
6月26日		愛媛窓口主催「令和5年度介護ロボット導入研修会」の研修会情報を公開
6月26日		愛媛窓口のホームページリニューアル【VR展示中】研修会のお知らせを周知
7月3日		徳島窓口主催「生産性向上のための介護ロボット活用セミナー」の研修会情報を公開
7月3日		新潟窓口主催「令和5年度介護ロボット活用・生産性向上セミナー」の研修会情報を公開
7月18日		令和5年度の介護ロボットの試用貸出リストの公開を周知
7月18日		webセミナー「ニーズ×シーズ マッチングセミナー2023～先行事例から学ぶ、介護テクノロジー開発の展望～」の参加者の募集を周知
7月18日		愛知窓口主催「介護現場の可能性を引き出すテクノロジー導入の実践知とは」の研修会情報を公開
7月18日		ニーズ×シーズ マッチングセミナー2023 概要(2023年8月1日実施)を周知
9月4日		国際福祉機器展(HCR2023)への出展を周知
9月4日		大分窓口主催「令和5年度介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 介護ロボット・ICT機器の導入・活用セミナー」の研修会情報を公開
9月22日		青森窓口主催「令和5年度介護ロボット・ICT導入支援オンラインセミナー」の研修会情報を公開
10月10日		鹿児島窓口主催「介護ロボット導入支援研修会(介護ロボット鹿児島フォーラム)」の研修会情報を公開
10月10日		鹿児島窓口主催「熊本県介護ロボット導入支援研修会」の研修会情報を公開
10月25日		北九州窓口主催「令和5年度介護ロボット導入セミナー 介護人材の

		定着とメンタルヘルス ～職員にやさしい職場づくり～の研修会情報を公開
	10月25日	今年度、新たに開設された介護生産性向上総合相談センターの情報を更新した「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム パンフレット」を公開
	11月7日	富山窓口主催「令和5年度 業務アドバイザーによる伴走支援 成果報告会」の研修会情報を公開
	11月7日	富山窓口主催「介護ロボット導入支援研修(移乗編・移動編)」の研修会情報を公開
	11月7日	富山窓口主催「介護ロボット導入支援研修(排泄編・見守り・コミュニケーション編)」の研修会情報を公開
	11月7日	富山窓口主催「介護ロボット等導入支援研修【実践・マネジメント編】」の研修会情報を公開
	11月20日	「本事業における介護ロボットの謝金支払いを含む試用貸出終了について」を周知
	12月4日	埼玉窓口主催「令和5年度介護ロボットパッケージモデル研修(埼玉会場)」の研修会情報を公開
	12月4日	埼玉窓口主催「移乗支援機器の世界(千葉会場)」の研修会情報を公開
	12月4日	鹿児島窓口主催「沖縄県介護ロボット導入支援研修会」の研修会情報を公開
	12月4日	大分窓口主催「介護ロボット・ICT 機器の導入・活用セミナー」の研修会情報を公開
	12月4日	埼玉窓口主催「令和5年度介護ロボットパッケージモデル研修(埼玉会場)」の研修会情報を公開
	12月18日	北海道窓口主催「令和5年度介護ロボット研修会」の研修会情報を公開
	12月18日	北九州窓口主催「令和5年度介護ロボット導入セミナー 一歩先の成功事例に学ぶ！～自立支援×テクノロジー活用の最前線～」の研修会情報を公開
2024年	1月12日	第3回東北 Kaigo-Tech 実践研究会(2024年2月26日)の開催を周知
	1月12日	青森窓口主催「令和5年度介護ロボット相談窓口研修会「介護現場の生産性向上を推進するためのセミナー ～実践事例から学ぶ介護現場の業務改善～」」の研修会情報を公開
	1月12日	横浜窓口主催「第2回 介護ロボット導入&活用セミナー」の研修会

		情報を公開
1月12日		埼玉窓口主催『『課題の見える化』と“その次にすること”教えますー取組事例の紹介とワークショップー』の研修会情報を公開
1月24日		栃木窓口主催「介護 ICT・ロボット導入支援セミナー ～介護職員の働きやすい職場づくりのために～」の研修会情報を公開
1月24日		介護現場における生産性向上推進フォーラムの詳細案内を公開
2月7日		岩手窓口主催「令和5年度第3回介護ロボット・ICT 導入研修会・体験展示会」の研修会情報を公開
2月7日		横浜窓口主催「介護現場の生産性向上推進セミナー～介護ロボットを使った業務改善事例報告～」の研修会情報を公開
2月26日		富山窓口主催「令和5年度第2回業務アドバイザーによる伴走支援事業成果報告会(居宅サービス分野編)」の研修会情報を公開
2月26日		新潟窓口主催「令和5年度 介護ロボット活用・生産性向上セミナー」の研修会情報を公開

## 第2節 事業パンフレットの作成・配布

相談窓口やリビングラボをはじめ、イベント等での配布や関係団体等への周知を目的に、事業パンフレットを作製した。各相談窓口やリビングラボには、各拠点で自由に増刷できるように、紙媒体に加えデータ版のパンフレットも併せて配布した。

パンフレットの構成は以下の通りである。

図表 7-7 事業パンフレットの構成

ページ	掲載内容(概要)
表紙	・ 本事業の概要
中面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談窓口の取組について <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 相談窓口とは</li> <li>➢ 相談窓口の取組</li> <li>➢ リビングラボの取組</li> </ul> </li> <li>・ リビングラボとは <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ リビングラボの取組</li> <li>➢ 相談窓口とリビングラボの活用の流れ</li> </ul> </li> <li>・ その他の取組について <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 介護ロボットのニーズ・シーズマッチング支援事業</li> </ul> </li> </ul>
裏表紙	・ 相談窓口 16 拠点、リビングラボ 8 拠点、介護生産性向上総合相談センター 5 拠点の名称、住所、電話番号、メールアドレス

図表 7-8 事業パンフレットのデザイン

## 令和5年度 介護現場の生産性向上に向けた 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム

介護ロボットの現場への導入相談や体験・試用をしたい

介護ロボットの開発や実証に関する助言が欲しい

**全国の介護現場、介護ロボットの開発企業の皆様  
介護ロボットの実証開発普及を支援するプラットフォーム<sup>(※)</sup>を運営しております。**

※ 厚生労働省「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」(以下、本事業)

介護人材の不足が深刻な社会的課題となる中、その解決策の一つとして、高齢者の自立支援の促進、質の高い介護を実現するためのICTや介護ロボット等のテクノロジーの活用が期待されています。一方で、介護現場では、「どの種類の介護ロボットを導入すべきかわからない」「現場が忙しく業務改善に取り組みない」といった声も少なくありません。また、開発企業は、より介護現場のニーズに合った製品開発を進めていくことが求められています。

### プラットフォーム事業とは?

本事業は、地域における相談窓口の設置、介護ロボットの評価・効果検証を実施するリビングラボ(開発の促進拠点)を含む関係機関のネットワークの形成、実証フィールドの整備等を行うことで、全国版プラットフォームを構築し、介護ロボットの開発・実証・普及の流れを加速化することを目指しています。

**介護現場の生産性向上に向けた介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム**

#### 相談窓口

※相談窓口：介護生産性向上総合相談センターへお越しの際は、電話やメール等で事前予約を行っていただくシステムに案内できます。事前予約がなく、直接訪ねられる方もご対応いたします。

※リビングラボの利用を検討されている方は、リビングラボへ直接ご相談いただくことも可能です。リビングラボは、ご自身のケア現場に合わせた実証開発が可能です。

※介護生産性向上総合相談センターは、厚生労働省が取り組む介護生産性向上推進総合事業のもと、関係府県が主体となり運営される人材育成支援プラットフォームとして、設置されています。

#### リビングラボ

リビングラボとは、実際の生活空間を再現し、新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進するための拠点です。「開発中の介護ロボットの製品評価をしたい」「実際の介護現場で使えるかどうか検証したい」といった開発企業の要望を支援します。

本事業に参画するリビングラボは現在全国で8施設です。これらのリビングラボは本事業を遂げるネットワークを構築し、それぞれの強みを生かしながら開発企業の皆様をサポートしています。

#### 相談窓口

介護ロボットに関する相談窓口、導入支援、効果検証等のネットワーク構築、リビングラボネットワークへの参画先

#### リビングラボ

介護ロボットの評価、効果検証、開発企業との連携、実証開発、実証開発拠点のネットワーク構築

#### 介護現場

介護現場での実証開発、効果検証、効果検証に関するデータ収集

#### 実証フィールド

介護現場での実証開発、効果検証、効果検証に関するデータ収集

#### 相談窓口・リビングラボへのアクセスについて

都道府県	相談窓口	リビングラボ
北海道	札幌市保健福祉局 介護福祉課	札幌市保健福祉局 介護福祉課
青森県	青森県保健福祉局 介護福祉課	青森県保健福祉局 介護福祉課
岩手県	岩手県保健福祉局 介護福祉課	岩手県保健福祉局 介護福祉課
宮城県	宮城県保健福祉局 介護福祉課	宮城県保健福祉局 介護福祉課
秋田県	秋田県保健福祉局 介護福祉課	秋田県保健福祉局 介護福祉課
山形県	山形県保健福祉局 介護福祉課	山形県保健福祉局 介護福祉課
福島県	福島県保健福祉局 介護福祉課	福島県保健福祉局 介護福祉課
茨城県	茨城県保健福祉局 介護福祉課	茨城県保健福祉局 介護福祉課
栃木県	栃木県保健福祉局 介護福祉課	栃木県保健福祉局 介護福祉課
群馬県	群馬県保健福祉局 介護福祉課	群馬県保健福祉局 介護福祉課
埼玉県	埼玉県保健福祉局 介護福祉課	埼玉県保健福祉局 介護福祉課
千葉県	千葉県保健福祉局 介護福祉課	千葉県保健福祉局 介護福祉課
東京都	東京都保健福祉局 介護福祉課	東京都保健福祉局 介護福祉課
神奈川県	神奈川県保健福祉局 介護福祉課	神奈川県保健福祉局 介護福祉課
新潟県	新潟県保健福祉局 介護福祉課	新潟県保健福祉局 介護福祉課
富山県	富山県保健福祉局 介護福祉課	富山県保健福祉局 介護福祉課
石川県	石川県保健福祉局 介護福祉課	石川県保健福祉局 介護福祉課
福井県	福井県保健福祉局 介護福祉課	福井県保健福祉局 介護福祉課
山梨県	山梨県保健福祉局 介護福祉課	山梨県保健福祉局 介護福祉課
長野県	長野県保健福祉局 介護福祉課	長野県保健福祉局 介護福祉課
岐阜県	岐阜県保健福祉局 介護福祉課	岐阜県保健福祉局 介護福祉課
静岡県	静岡県保健福祉局 介護福祉課	静岡県保健福祉局 介護福祉課
愛知県	愛知県保健福祉局 介護福祉課	愛知県保健福祉局 介護福祉課
岐阜県	岐阜県保健福祉局 介護福祉課	岐阜県保健福祉局 介護福祉課
滋賀県	滋賀県保健福祉局 介護福祉課	滋賀県保健福祉局 介護福祉課
京都府	京都府保健福祉局 介護福祉課	京都府保健福祉局 介護福祉課
大阪府	大阪府保健福祉局 介護福祉課	大阪府保健福祉局 介護福祉課
兵庫県	兵庫県保健福祉局 介護福祉課	兵庫県保健福祉局 介護福祉課
奈良県	奈良県保健福祉局 介護福祉課	奈良県保健福祉局 介護福祉課
和歌山県	和歌山県保健福祉局 介護福祉課	和歌山県保健福祉局 介護福祉課
徳島県	徳島県保健福祉局 介護福祉課	徳島県保健福祉局 介護福祉課
香川県	香川県保健福祉局 介護福祉課	香川県保健福祉局 介護福祉課
愛媛県	愛媛県保健福祉局 介護福祉課	愛媛県保健福祉局 介護福祉課
高知県	高知県保健福祉局 介護福祉課	高知県保健福祉局 介護福祉課
福岡県	福岡県保健福祉局 介護福祉課	福岡県保健福祉局 介護福祉課
佐賀県	佐賀県保健福祉局 介護福祉課	佐賀県保健福祉局 介護福祉課
大分県	大分県保健福祉局 介護福祉課	大分県保健福祉局 介護福祉課
熊本県	熊本県保健福祉局 介護福祉課	熊本県保健福祉局 介護福祉課
鹿児島県	鹿児島県保健福祉局 介護福祉課	鹿児島県保健福祉局 介護福祉課
沖縄県	沖縄県保健福祉局 介護福祉課	沖縄県保健福祉局 介護福祉課

本事業の関連情報

- 本事業の詳細情報について [ホームページ URL: https://www.kaigo-pf.com/](https://www.kaigo-pf.com/)
- 本事業のお問い合わせ先 [事務局 株式会社NTTデータ経営研究所](mailto:plat2020@nttdata-strategy.com)

ひとくらし、みらいのために

厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

NTT DATA 株式会社NTTデータ経営研究所

## 相談窓口の取組について

### 相談窓口とは

各地域において、介護ロボットに関する介護現場(ニーズ)と開発企業(シーズ)双方からの相談の受付等を行う一元窓口です。現在、全国で16箇所に設置されています。

### 相談窓口の取組

#### 介護現場への支援

- 各種相談への対応**  
介護ロボットの導入方法や活用方法に関する、介護現場からの相談に対応します。具体的には、介護ロボットを活用した介護現場の業務改善方法の紹介、導入事例、介護ロボットの製品情報や補助金・基金の紹介等を行います。
- 介護ロボットの試用貸出**  
介護ロボットを試してみたいという介護現場から、介護ロボットの試用貸出依頼を受け付け、試用貸出業者へ取り次ぎを行います。
- 体験展示**  
現場での活用をイメージできる場として、介護ロボットに触れ、体験することが出発する展示場を用意しています。中には、各種相談への対応と体験展示を兼ねる場所を実施している相談窓口もあるため、個別にお問合せ下さい。

#### 開発企業への支援

- 各種相談への対応**  
介護ロボットの研究開発や製品のPR等に関する相談に対し、介護ロボットの開発にあたっての補助金の紹介や出展可能なイベントの紹介等を行います。また、開発企業より製品評価や効果検証に関する要望があった場合は、リビングラボネットワークへ取り次ぐことが可能です。

### 介護ロボットのニーズ・シーズマッチング支援事業

開発企業に対して、介護現場のニーズ把握、実証、企業間連携(開発企業同士、販売・アフターサービス事業者との連携)、等の支援を行います。本事業のホームページ上では、介護現場の課題を「ニーズ」として一層公開し、随時更新していきます。また、介護現場やロボット技術の専門家であるマッチングサポーターに相談したり、介護現場に直接リビングラボを視察することが出来ます。

ホームページ URL: <https://www.kaigo-ns-plat.com/>

## リビングラボの取組について

### リビングラボとは

リビングラボは、実際の生活空間を再現し、新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進するための拠点です。「開発中の介護ロボットの製品評価をしたい」「実際の介護現場で使えるかどうか検証したい」といった開発企業の要望を支援します。

本事業に参画するリビングラボは現在全国で8施設です。これらのリビングラボは本事業を遂げるネットワークを構築し、それぞれの強みを生かしながら開発企業の皆様をサポートしています。

### リビングラボの取組

#### 開発企業への支援

- 介護ロボットの製品評価・効果検証**  
開発企業からの要望に応じて、製品化にあたって開発中のロボットの安全性や使用効果の評価・検証を実施します。
- 効果検証に係る助言**  
開発企業からの要望に応じて、介護現場での実証に当たり、実証時の評価・データ分析方法への専門的・技術的な助言を実施します。

#### 介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた対応

介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた介護現場での大規模実証等を支援します。

### 相談窓口とリビングラボ活用の流れ

#### 相談窓口・リビングラボの活用の流れ

- ①お住まいの地域の相談窓口へアクセス(電話・メール等での予約または、直接訪問も可能)※事前予約を行っていただくシステムに案内できます
- ②利用用途ごとに各種サービスの概要及び必要手続きを案内
- ③相談内容に応じて介護ロボットに関する各サービス(相談対応、試用貸出、体験展示)を利用
- ④(開発企業の方)相談窓口より紹介を受けた上で、リビングラボの各サービス(製品評価・効果検証、効果検証に係る助言)を利用

本プラットフォームを利用した試用貸出や実証において発生する事故・トラブル等に備え、民間の賠償責任保険への加入や使用状況の記録等の取組について介護施設等と開発企業等と直接取り決めていただきますようお願いいたします。

パンフレットの配布先は次のとおりである。

図表 7-9 事業パンフレットの配布先

配布先	部数(枚)
(福)北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター	1,000
(福)青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター	200
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	500
新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口	250
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	1500
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	300
(福)横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口	200
(福)富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 介護実習・普及センター	300
(国研)国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター	250
ATC エイジレスセンター 介護ロボット相談窓口	500
(福)健祥会 徳島県介護実習・普及センター	3,500
(一社)日本福祉用具供給協会 広島県ブロック	100
愛媛県介護実習・普及センター	300
九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター	3500
社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター	500
鹿児島県介護実習普及センター	250
東北大学青葉山リビングラボ	200
Care Tech ZENKOUKAI Lab((福)善光会 サンタフェ総合研究所)	90
Future Care Lab in Japan(SOMPO ホールディングス(株)、SOMPO ケア(株))	200
柏リビングラボ ((国研)産業技術総合研究所)	100
藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター	120
ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター)	50
スマートライフケア共創工房 ((大)九州工業大学)	200

### 第3節 国際福祉機器展への出展

介護サービス事業所及び開発企業等に向けて本事業の周知を図るため、第 51 回国際福祉機器展(以下、H.C.R.)に出展した。H.C.R.の出展概要は次のとおりである。

図表 7-10 H.C.R.の出展概要

主催者	一般財団法人 保健福祉広報協会 (共済:社会福祉法人 全国社会福祉協議会)
出展場所	1. リアル展示ブース 2. 出展社プレゼンテーション 3. ウェブ展
主な来場者 (見込み)	福祉施設職員、ケアマネジャー、ホームヘルパー、福祉団体・ボランティア関係者、医師、看護師、PT、OT、リハビリに携わる方、保育士、栄養士、建築・設計関係者、製造業、販売業、行政、福祉・介護・医療・工学系学生、エンドユーザー、一般 ※H.C.R.のホームページを参照
入場料	無料

(1)リアル展示ブース

本事業の出展に関する概要は次のとおりである。

図表 7-11 リアル展示ブースの概要

日時	2024年10月2日(水)～4日(金)
場所	東京国際展示場「東京ビックサイト」東4ホール
対象	介護サービス事業所、開発企業、一般の方等
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護ロボットプラットフォーム事業の紹介</li> <li>・ ニーズ・シーズマッチング支援事業の紹介</li> <li>・ 関連事業のポスター展示</li> <li>・ 本事業に関連する事業におけるガイドライン、手引き、報告書等の配布</li> </ul>
来場者数	延べ75名(※ブースにおいて実際に名刺を交換した人数で読み換え)

図表 7-12 リアル出展ブースの様子



(2) 出展社プレゼンテーション

主に介護ロボットの開発に携わる企業に向けて本事業を広く周知することを目的としたプレゼンテーションを対面形式で行った。概要は次のとおりである。

図表 7-13 出展社プレゼンテーションの概要

日時	2023年9月27日(水) 14:30~15:30
場所	東京国際展示場「東京ビックサイト」東2ホール(会場A)
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護サービス事業所の経営者・介護従事者の方々、自治体における関係者(生産性向上に係る関係部署の方)、</li> <li>・ 介護生産性向上総合相談センター、団体等の関係者</li> <li>・ 介護ロボット分野に新規参入しようとしている企業(要素技術を持つ企業を含む)、既に介護ロボットの開発に取り組んでいる企業</li> <li>・ ※大企業・中小/ベンチャー企業の両方を対象とする</li> </ul>
内容	<p><b>【講演】</b></p> <p>本事業の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業の紹介</li> <li>・ ニーズ・シーズマッチング支援事業の紹介</li> </ul> <p>介護分野における生産性向上関連の政策動向のご紹介</p> <p><b>【パネルディスカッション】</b></p> <p>生産性向上の考え方と進め方のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護分野における生産性向上とは(考え方・捉え方)</li> <li>・ 生産性向上の取組の進め方とポイントとは</li> <li>・ 介護ロボット・ICTなどのテクノロジー活用の実際とは</li> </ul>

	・ 生産性向上ワンストップ窓口とは
講演者	【講演・パネルディスカッション】 株式会社 NTT データ経営研究所 厚生労働省
来場者数	24 名

図表 7-14 出展社プレゼンテーションの様子



(3) ウェブ展

昨年度に引き続き、ウェブ上での出展も行った。本事業の概要は次のとおりである。

図表 7-15 ウェブ展の概要

日時	2023 年 8 月 28 日(月)～ 10 月 30 日(月)
場所	H.C.R. で用意されたホームページ上
対象	介護サービス事業所、開発企業、一般の方等 ※リアル展示と同様
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 相談窓口の概要</li> <li>➢ リビングラボの概要</li> <li>➢ ニーズ・シーズマッチング支援事業の概要</li> <li>➢ 介護ロボットの試用貸出リストの概要</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 介護現場の生産性向上に向けた介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業のパンフレット</li> <li>➤ ニーズ・シーズマッチング支援事業のパンフレット</li> <li>➤ 令和5年度試用貸出リスト(概要版)</li> </ul> </li> <li>・ 出展社情報、問い合わせ先</li> </ul>
アクセス数	延べ 282 名 (資料ダウンロード:28 件、製品訪問者数:128 名、来訪者数 126 名)

図表 7-16 ウェブ展のホームページ(トップページ)



(出典:H.C.R.ホームページより)

図表 7-17 ウェブ展のホームページ(相談窓口)

**国際福祉機器展 WEB展** 2023.8月28日(金)▶10月30日(日)

東京ビッグサイト 東館ホール 9月27日(水)▶29日(金)

10:00~17:00  
最終日 18:00迄

マイページ

ENGLISH

ログイン

トップページ

出展社検索

製品検索

会場エリア検索

出展社プレゼンテーション

H.C.R. セミナー

国際シンポジウム

国際福祉機器展公式サイトはこちら

国際シンポジウム / H.C.R.50th プレミアムセミナー 参加証ダウンロード    NextUD JAPAN2023 観覧入場申込

介護現場の生産性向上に向けた  
介護ロボットの開発・実証・普及の  
プラットフォーム

**介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）**

小間番号 4-06-01

会場エリア検索

### 相談窓口の取組について

**相談窓口とは**  
各地域において、介護ロボットに関する介護現場（ニーズ）と開発企業（シーズ）双方からの相談の受付等を行う一元的な窓口です。現在、全国で16箇所を設置されています。

**相談窓口の取組**

介護現場への支援

**各種相談への対応**  
介護ロボットの導入方法や活用方法に関する、介護現場からの相談に対応します。具体的な導入方法の紹介、導入事例、介護ロボットの製品情報や補助金・基金の紹介等を行います。

**介護ロボットの試用貸出**  
介護ロボットを試してみたいという介護現場から、介護ロボットの試用貸出依頼を受け付け、試用貸出企業へ取り次ぎを行います。

**体験展示**  
現場での活用をイメージできる場として、介護ロボットに触れ、体験することが出来る展示場を用意しています。中には、各種相談への対応と体験展示を兼ねる場でも実施している相談窓口もあります。個別にお問合わせ下さい。

**研修会の取組**  
介護ロボットの普及促進を図るため、現場の課題とそれに応じた介護ロボットの選定の手法、導入時の留意事項、導入による効果、導入の取組事例等を説明する研修会を行います。

**伴走支援の取組**  
介護ロボットを導入しようとする介護現場について、当該施設における課題の見える化、課題を踏まえた適切な介護ロボット選定、介護ロボットの導入に当たっての施設内のオペレーション変更に関する助言等の個別の導入支援を行います。

**開発企業への支援**

**各種相談への対応**  
介護ロボットの研究開発や製品の円滑に関する相談に対し、介護ロボットの開発にあたっての補助金の紹介や出展可能なイベントの紹介等を行います。また、開発企業より製品評価や効果検証に関する要望があった場合は、リビングラボネットワークへ取り次ぐことが可能です。

## 相談窓口

介護現場と開発企業からの相談を受け付けています！

介護サービス事業所や開発企業からの各種相談等の受付・対応／介護ロボットの試用貸出／介護ロボットの体験展示／介護ロボットや介護現場の生産性向上に関する研修会の実施／各団体、機関との協議会の実施／介護ロボット導入の開発支援等を実施しています。現在、相談窓口は全国16カ所にあります。

出版、福祉機器情報

福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト

**機能分類**

サポート充実

試用可能

### 製品仕様

介護サービス事業所や開発企業からの各種相談等の受付・対応／介護ロボットの試用貸出／介護ロボットの体験展示／介護ロボットや介護現場の生産性向上に関する研修会の実施／各団体、機関との協議会の実施／介護ロボット導入の開発支援 等

### 製品PR

【介護サービス事業所向け】介護ロボットの介護現場への導入・活用、試用、介護ロボットの体験に関するお悩みにお応えいたします。【開発企業様向け】介護ロボットの開発に関する補助金の紹介や、出展可能なイベントの紹介等を行います。製品評価や効果検証に関するご要望がある場合は、リビングラボネットワークに取り次ぐことが可能です。

**製品紹介サイト**

<https://www.kaigo-pf.com/soudan/>

(出典:H.C.R.ホームページより)

164

図表 7-18 ウェブ展のホームページ(リビングラボ)

国際福祉機器展 WEB展 2023.8月28日@10月30日@ 9月27日@29日@

マイページ ENGLISH ログアウト

トップページ 出展社検索 製品検索 会場エリア検索 出展社プレゼンテーション H.C.R.セミナー 国際シンポジウム 国際福祉機器展公式サイトはこちら

国際シンポジウム /H.C.R.50th プレミアムセミナー 参加証ダウンロード NextUD JAPAN2023 観覧入場申込

介護現場の生産性向上に向けた  
介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 (厚生労働省委託事業者: NTTデータ経営研究所)

小間番号 4-06-01 会場エリア検索

### リビングラボの取組について

**リビングラボとは**

リビングラボは、実際の生活空間を再現し、新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進するための拠点です。「開発中の介護ロボットの製品評価をしたい」「実際の介護現場で使えるかどうか検証したい」といった開発企業の皆様の支援します。

本事業に参画するリビングラボは現在全国で8施設です。これらのリビングラボは本事業を通じてネットワークを構築し、それぞれの強みを生かしながら開発企業の皆様のサポートしていきます。

**リビングラボの取組**

▶▶▶ **開発企業への支援**

**介護ロボットの製品評価・効果検証**

開発企業からの要望に応じて、製品化にあたって開発中のロボットの安全性や使用効果の評価・検証を実施します。

**効果検証に係る助言**

開発企業からの要望に応じて、介護現場での実証に当たり、実証時の評価・データ分析方法への専門的・技術的な助言を実施します。

▶▶▶ **介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた対応**

介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた介護現場での大規模実証等を支援します。

**リビングラボ**

介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進します！

リビングラボは、実際の生活空間を再現し、新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進するための拠点です。現在本事業に参画するリビングラボは、全国で8施設です。

出版、福祉機器情報

福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト

機能分類

サポート充実

製品仕様	製品PR
介護ロボットの製品評価・効果検証、効果検証に係る助言／介護サービスの質の向上・効果的なサービス提供に向けた対応	「開発中の介護ロボットの製品評価をしたい」「実際の介護現場で使えるかどうか検証したい」といった介護ロボットの開発企業の皆様の支援をいたします。

製品紹介サイト

<https://www.kaigo-pf.com/livinglab/>

(出典:H.C.R.ホームページより)

図表 7-19 ウェブ展のホームページ(ニーズ・シーズマッチング支援事業)

国際福祉機器展 WEB展 2023.8月28日@10月30日@ 東京ビッグサイト 9月27日@29日@ 10:00-17:00  
マイページ ENGLISH ログアウト

トップページ 出展社検索 製品検索 会場エリア検索 出展社プレゼンテーション H.C.R. セミナー 国際シンポジウム 国際福祉機器展公式サイトはこちら

国際シンポジウム (H.C.R.50th プレミアムセミナー 参加証ダウンロード) NextUD JAPAN2023 観覧入場申込

介護現場の生産性向上に向けた  
介護ロボットの開発・実証・普及の  
プラットフォーム

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 (厚生労働省委託事業者: NTTデータ経営研究所)

小間番号 4-06-01 会場エリア検索

解決したい課題を適用して...  
NEEDS SEEDS  
全国の開発企業の経営へ  
ニーズ×シーズ  
新しい介護イノベーションはここから生まれる  
事業概要  
ニーズ・シーズマッチング支援事業は、全国の介護現場が抱えている課題 (ニーズ) と、開発企業が保有する製品や要素技術等 (シーズ) のマッチング支援を行っています。  
自社の持つ技術を開発したい...  
自己の持つ技術を開発したい...

ニーズ・シーズマッチング支援事業

全国の介護現場が抱えている課題 (ニーズ) と、開発企業が保有する製品や要素技術等 (シーズ) のマッチング支援を行っています!

出版、福祉機器情報

福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト

機能分類

サポート充実

製品仕様

製品PR

①ニーズの紹介・取次、②製品実証・検証に関わる相談及びフィールドの紹介、③製品・技術を有する企業、製品の普及・活用促進を行う企業の紹介、取次

ニーズリストには、施設及び在宅の介護現場における様々な課題が公開されています。介護現場やロボット技術の専門家であるマッチングサポーターから助言を得ることができます。

製品紹介サイト

<https://www.kaigo-ns.plat.com/>

図表 7-20 ウェブ展のホームページ(試用貸出リスト)

**国際福祉機器展 WEB展** 2023.8月28日(金)▶10月30日(日)  
August 28 (Fri) - October 30 (Sun), 2023

東京ビッグサイト 9月27日(金)▶29日(日) 10:00-17:00  
東京ビッグサイト 9月27 (Fri) - 29 (Sun), 2023 Open 10:00 - 17:00 (Last Day only 16:00)

[マイページ](#)
[ENGLISH](#)
[ログアウト](#)

---

トップページ
出展社検索
製品検索
会場エリア検索
出展社プレゼンテーション
H.C.R.セミナー
国際シンポジウム
国際福祉機器展公式サイトはこちら

[国際シンポジウム/H.C.R.50th プレミアムセミナー 参加証ダウンロード](#)
[NextUD JAPAN2023 観覧入場申込](#)

介護現場の生産性向上に向けた  
介護ロボットの開発・実証・普及の  
プラットフォーム

**介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 (厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所)**

小冊番号 4-06-01

会場エリア検索

**介護ロボットの試用貸出リスト**  
令和5年7月

**試用貸出リスト**

「介護ロボットの試用貸出リスト (令和5年度 福祉用具・介護ロボット実用化支援事業 公益財団法人テクノエイド協会)」です。本リストには、実用化している介護ロボットの開発企業等に対して試用貸出への参加を募り、同意を得ることができた企業及び製品名等が掲載されています。相談窓口では、本リストを中心に、実際のロボットの貸出を行っています。

相談窓口では、本リストを中心に、介護ロボットを試しに使ってみたいという介護現場から、介護ロボットの試用貸出依頼を受け付け、試用貸出企業へ取り次ぎを行います。

**出版、福祉機器情報**

福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト

**機能分類**

サポート充実

**製品仕様**

移乗支援/移動支援/排泄支援/見守り・コミュニケーション/入浴支援/介護業務支援

**製品PR**

本リストの掲載内容は、重点分野に該当する介護ロボットを基本とし、原則的には開発企業から提供された情報となっております。(試用貸出リスト「はじめに」より) 介護ロボットを介護現場で試しに使ってみたいという方は、ぜひ各地域の相談窓口までご相談ください。

**製品紹介サイト**

<https://www.techno-aids.or.jp/robot/file05/2023rentallist.pdf>

(出典:H.C.R.ホームページより)

#### 第4節 ニーズ・シーズマッチングセミナーの開催

介護分野における商品・事業企画の進め方や、介護ロボットの上市事例を紹介することで、介護ロボットの開発を加速すること、および多数の企業のエントリーにつなげることを目的として、マッチングセミナーを実施した。セミナーの概要およびリーフレットを以下に示す。

図表 7-21 ニーズ×シーズ マッチングセミナーの概要

セミナー名	ニーズ×シーズ マッチングセミナー 2023 ～先行事例から学ぶ、介護テクノロジー開発の展望～
開催日時/形式	2023 年8月1日(火)15:00～16:40 zoom ウェビナー形式
プログラム	開会(ご挨拶) (講師:厚生労働省老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官 佐々木 憲太 氏) 講演① 介護ロボット・ICT 開発の進め方と押さえておきたいポイント (講師:社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究室 研究員/ 株式会社善光総合研究所 Care Tech ZENKOUKAI Lab 所長 滑川 永 氏) 講演② 排泄予測デバイスを活用した自立排泄支援の取組み ～現場の活用を促進するカスタマーサクセス～ (講師:トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社 取締役 COO 小林 正典 氏) 講演③ 睡眠解析技術で介護・医療現場の課題解決に貢献する「ライフリズムナビ®+Dr.」 (講師:エコナビスタ株式会社 経営企画室 榎本 奈津子 氏) 【事業概要説明】ニーズ・シーズマッチング支援事業 (株式会社 NTT データ経営研究所) 閉会

図表 7-22 ニーズ×シーズ マッチングセミナーのリーフレット

NS
**MATCHING 2023**

### ニーズ×シーズ マッチングセミナー 2023

～先行事例から学ぶ、介護テクノロジー開発の展望～

参加費  
無料

定員先着  
400名

厚生労働省 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業

▶ **対象**：介護ロボット開発に興味がある/取り組んでいる  
企業・団体の皆様

▶ **形式**：Zoomウェビナー ▶ **定員**：先着400名

▶ **日程**：2023年8月1日（火）15:00～16:40（開場 14:45）

▶ **プログラム**

---

15:00 **開会（ご挨拶）**  
～ 厚生労働省老健局高齢者支援課介護業務効率化・生産性向上推進室  
介護ロボット政策調整官 佐々木 憲太氏

---

**講演①**  
15:05 **介護ロボット・ICT開発の進め方と押さえておきたいポイント**  
～ 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究室 研究員  
15:30 株式会社善光総合研究所 Care Tech ZENKOUKAI Lab  
所長 滑川 永 氏



---

**講演②**  
15:30 **排泄予測デバイスを活用した自立排泄支援の取組み**  
～現場の活用を促進するカスタマーサクセス～  
15:55 トリプル・ダブルユー・ジャパン株式会社 取締役COO 小林 正典 氏



---

**講演③**  
15:55 **睡眠解析技術で介護・医療現場の課題解決に貢献する**  
～「ライフリズムナビ® + Dr.」  
16:20 エコナビスタ株式会社 経営企画室 榎本 奈津子 氏



---

16:20 **【事業概要説明】ニーズ×シーズマッチング支援事業**  
～ 株式会社NTTデータ経営研究所  
16:35 株式会社NTTデータ経営研究所

---

16:35～16:40 **閉会**

---

**申込方法**

- ・ 右記のリンクよりお申し込みください。 [参加申し込みフォーム](#)
- ・ 先着順での受付となります。参加確定者のみ、メールにて参加リンクのご案内をいたします。

**主催：株式会社NTTデータ経営研究所**

本セミナーに関するお問い合わせ：株式会社NTTデータ経営研究所 先端技術戦略ユニット  
HealthCareImplementationグループ (ns-plat@nttdata-strategy.com)

セミナーへの申込者数は 94 名、最大参加者数は 80 名であった。また、「介護ロボット・ICT 開発の進め方と押さえておきたいポイント」「排泄予測デバイスを活用した自立排泄支援の取組み～現場の活用を促進するカスタマーサクセス～」 「睡眠解析技術で介護・医療現場の課題解決に貢献する「ライフリズムナビ®+Dr.」については、セミナー終了後にホームページ上にて公開した。

### 第5節 セミナー・メディア等における当事業の周知実績

セミナー、メディア等における当事業の周知実績は次のとおりである。

図表 7-23 セミナー、メディア等における周知実績

周知場所	周知内容(概要)
石川県社会福祉協議会 法人運営管理研修 (社会福祉法人石川県社会福祉協議会)	本事業について講演を行った。
愛媛県介護労働安定センター 研修 (公益財団法人介護労働安定センター 愛媛支部)	本事業について講演を行った。
バリアフリー2023(第29回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展) (社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会・テレビ大阪・テレビ大阪エクスプロ)	本事業について講演を行った。また、本事業野施策動向を踏まえながら、今後の開発側(シーズ)、介護現場(ニーズ)双方に求められる対策の方向性等について、それぞれの有識者によるパネルディスカッションを実施した。
第50回国際福祉機器展 H.C.R.2023 (全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会)	リアル展及びウェブ展へ出展を行い本事業の周知を実施。また、出展社プレゼンテーションにて、本事業の紹介を行った。
介護ロボット等活用ミーティング (公益財団法人テクノエイド協会)	本事業について講演を行った。
月刊「福祉介護テクノプラス」 (日本工業出版株式会社)	本事業の紹介についてコラムの執筆を行った。
Care Show Japan 2024 (インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社)	本事業について講演を行った。
介護ロボット全国フォーラム (公益財団法人テクノエイド協会)	本事業について講演を行った。

介護ロボットメーカー連絡会議 (公益財団法人テクノエイド協会)	本事業について講演を行った。詳細な次第は次の図の通りである。
------------------------------------	--------------------------------

図表 7-24 介護ロボットメーカー連絡会議の次第

第1部	行政報告 10:10~10:50	① 介護ロボットに係る施策の動向<各20分> 厚生労働省老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官 佐々木 豪太 氏 経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室 禰佐 南須原 美恵 氏	ス ス
	情報提供 10:50~11:40	② 福祉用具・介護ロボット実用化支援事業の実施について<30分> 公益財団法人テクノエイド協会 企画部 五島 清国  ・介護現場のニーズをふまえた介護機器の開発に係る取組み 意見交換及びアドバイス支援、モニター調査事業の実施について ・介護ロボット地域フォーラムの開催について ・都道府県における介護ロボットの開発・導入に係る助成事業について ・福祉用具・介護ロボット試用貸出事業の実施等について ・介護機器の安全利用に関する情報の整理・報告・発信について ・その他、令和5年度の主な事業予定について	ス
		③ 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業等の取り組み状況<20分> 株式会社NTTデータ経営研究所 先端技術戦略ユニット 山内 勇輝 氏	ス
第2部	取組報告 12:40~13:40	④ 本学におけるリビングラボに関する取り組みについて<20分> 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム 田辺 茂雄 氏  ⑤ 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 ~相談窓口の役割について~<20分> 大分県社会福祉介護研修センター 小原 裕一 氏	ス ス
		⑥ 富山県における介護ロボットに関する取り組みについて<20分> 富山県厚生部高齢福祉課 山崎 貴史 氏	ス
	基調報告 13:40~14:20	⑦ テクノロジーを活用した高齢者介護の実現に向けて<各20分> ・高齢者介護における現状と課題、未来予測について 社会福祉法人青森社会福祉振興団 中山 辰巳 氏 ・介護テクノロジーに関連する国内・海外の動向 日本政策投資銀行 産業調査部 榎村 佳代 氏	ス ス
	質疑応答、名刺交換 14:20~14:40	※会場参加の方に置かれましては、会議終了後に名刺交換を行う。	

## 第8章 まとめ

### 第1節 事業成果

#### 第1項 介護ロボットの普及

##### (1) 相談窓口

昨年度以前より相談窓口として担当するエリアの相談対応等を行っていた 17 拠点のうち兵庫県窓口は、生産性向上総合センターに移行したため、全国に 16 拠点の相談窓口となったが、事業期間中に鳥取窓口の配置準備が開始されたことから、全国の相談窓口数は同じとなっている。

また、上記の兵庫県に加え、事業期間中に北海道、青森県、山梨県、愛媛県における生産性向上総合センターが開設され、令和6年3月末の事業終了時点では、全国に5つの生産性向上総合センターが設置されている。

これらの相談窓口において相談対応、体験展示、試用貸出、研修会、モデル事業所に対する伴走支援等の取組を行った。それぞれの取組の実績は以下の通りである。特に試用貸出については、昨年度事業の実績を大きく上回っていることから、本事業の取組が介護現場に浸透してきたことに加え、介護ロボット等のテクノロジーの活用に対する期待の加速度的な高まりが示唆される結果となった。

##### 【全国の相談窓口における主な取組の実績】

- ・ 相談対応・・・延べ 1,430 件の(前年比 126%)相談に対応した
- ・ 体験展示・・・延べ 30,538 件(前年比 107%)の来場があった
- ・ 試用貸出・・・延べ 575 件(前年比 170%)の試用貸出と行った
- ・ 研修会等・・・延べ 55 回(前年比 110%)の研修会等を開催した
- ・ 伴走支援・・・延べ 54 事業所を伴走支援した

ニーズ側における相談業務における相談内容の内訳は、「介護ロボットについての情報収集」に関する内容が全体の32%を占め最も多く、次に「介護ロボット導入方法全般」に関する内容が22%だった。また、相談者の属性はニーズ側が全体の76%、シーズ側が24%であった。さらにニーズ側についてサービス種別を見たところ施設系サービスが最も多く、ニーズ側の38%を占めていた。ついで居宅系サービスが14%、医療系サービスが11%という結果だった。

また試用貸出について、介護現場に貸し出された介護ロボット等のうち最も多かった分野は移乗支援分野で全体の52%を占めた。以降、全体に占める割合が多い順に見守り・コミュニケーション分野34%、排泄支援分野3%であった。

各相談窓口では令和4年度事業より、介護ロボット等を有効に活用した生産性向上の取組について地域のベンチマークとなるモデル事業所の育成を目的に、業務アドバイザー等の専門家による伴走支援を実施してきたが、過年度事業では、モデル事業所が施設系サービスに偏っていることが課題であった。これを踏まえ、今年度事業では居宅系サービスにおけるモデル事業所の創出にも注力した。結果として、全国の相談窓口で7つの通所介護事業所、1つの小規模多機能型居

宅介護をモデル事業所として創出することができた。

また、これまでの伴走支援では、個別の事業所に対して直接訪問に加え、オンライン会議やメール、電話、チャットツールなどを通じた随時の支援を基本として実施してきた。この手法は1事業所に対する関りが深くより充実した支援を提供出来る反面、モデル事業所創出1件における工数が大きいと、年間を通じて伴走支援できるモデル事業所数が数件程度に留まるといった課題があった。このことを踏まえ、大阪府窓口では今年度、より多くのモデル事業所の創出を狙い、複数回の連続するセミナーを介して参加事業所の取組を伴走的に支援する試みを実施した。具体的には、課題の見える化や導入計画書の作成といった導入・活用における取組の中でも特に重要なポイントをワークショップ形式のセミナーで実践するとともに、次回のセミナーまでの間のドロップアウトを防ぐために、相談窓口による個別の相談対応を受け付けるといった手法である。このセミナーを介した伴走的支援は、年間を通じて創出できるモデル事業所数が従来の手法より増加するという効果が期待出来る一方で、取組の途中でドロップアウトする事業所が一定数発生するといった課題もある。今後は、個別の事業所への関わりの深さにより高い確度でモデル事業所を創出できる従来の伴走支援と、より多くのモデル事業所を創出が可能となるセミナー形式での伴走的支援、それぞれの良い点を組み合わせより効果的なモデル事業所の育成方法を模索していく必要があると考えられる。

## (2) 介護生産性向上総合相談センター(令和5年度設置自治体)

今年度、事業期間中に全国で5つの介護生産性向上相談センターが開設された。先述の通り、このうち1つのセンターはプラットフォーム事業の相談窓口から移行したものであり、数年に渡る相談窓口としての活動で蓄積されたノウハウやプラットフォーム内と含めた他機関とのネットワークを活かした立ち上げ、運営がなされた。一方、山梨県の介護生産性向上相談センターは今年度開設したセンターの中で唯一、相談窓口の経験を持たないセンターである。そこで事務局では、ワンストップ向け勉強会や相談窓口勉強会、またブロック担当者勉強会を介して、プラットフォーム事業に蓄積されたノウハウの共有等に努めた。具体的には、各種ツールの提供や相談対応をはじめとする取組事例の共有等である。来年度以降、全国にさらに多くの介護生産性向上相談センターが開設されることを踏まえれば、新規開設センターに対するより効果的なノウハウの共有やプラットフォーム事業が有するネットワークとの連携をはじめとする支援は、中央管理事業事務局が担うべき役割としてますます重要となる。

## 第2項 介護ロボットの開発と実証

### (1) リビングラボネットワーク

今年度事業では、全国8カ所のリビングラボにおいて、104社の開発企業等に延べ250件の支援を実施した。支援の内訳は以下の通りである。

#### 【全国のリビングラボにおける主な企業支援の実績】

- ・ 相談対応・・・延べ 206 件(前年比－13%)の相談に対応した
- ・ ラボ検証・・・延べ 27 件(前年比＋50%)のラボ検証を実施した
- ・ 実証・・・延べ 17 件(前年比－32%)の実証を実施した

リビングラボによる支援を受けた製品の分野は見守り・コミュニケーション(施設)分野が全体の29%と最も多く、ついで見守り・コミュニケーション(在宅)分野が 22%、介護業務支援分野が 20%だった。リビングラボによる支援内容は「コンセプト設計」に関する支援が最も多く全体の 28%、次いで「実証」に関する支援が、26%、「有効性評価」に関する支援が 23%だった。

また、複数のリビングラボから支援を受けた開発企業は 18 社に昇った。例えば、マーケティングに関する支援を1つ目のリビングラボで受けた結果、当初は想定していなかったリスクや課題が発見され、安全性の検証を得意とする他のリビングラボ(2つ目のリビングラボ)に支援を依頼するといった事例である。これは、これまでの本事業の成果として形成されたリビングラボネットワークが、開発企業に対し多面的、多層的な支援の提供が可能であることを裏付ける結果と言える。

今年度の企業支援の振り返りとして、複数のリビングラボからは「今後、スタートアップ等の小規模の開発企業からの支援依頼が増えるのではないか」といった声が挙がった。これについて、今年度は定量的な実績データとして補足することはできなかったが、昨今のスタートアップ企業等の台頭を踏まえれば、比較的規模の小さい企業にとっても、アクセスしやすい事業設計や工夫が必要と考えられる。

## (2) ニーズ・シーズマッチング支援事業

今年度のニーズ・シーズマッチング支援事業では、介護現場や介護ロボット等の開発に関する専門知識を有するマッチングサポーター全 37 名(ニーズ側:19 名、シーズ側:18 名)を配置したうえで、介護現場のニーズ、課題を一覧化し、ニーズリストとして事業ホームページ上に一般公開した。この課題やニーズは、介護現場や開発企業からの相談対応を行う相談窓口やリビングラボにおける相談情報をもとに更新することで、最新の介護現場のニーズを開発企業が把握できる仕組みを構築した。さらに、介護分野への新規参入を検討する企業が介護分野特有の制度や開発方法を理解できるよう、これらの内容を有識者が解説するビデオコンテンツを制作し、ホームページ上で一般公開した。今年度は、一般社団法人日本作業療法士協会や社会福祉法人善光会らの協力のもと5つのコンテンツを追加・更新した。加えて、これらの取組を公益財団法人テクノエイド協会や一般社団日本ロボット工業会の協力を得て、それぞれの関係企業に広く広報、周知した。

その結果、今年度は 57 団体のエントリーがあった。マッチングの内訳は、マッチング①ニーズリストを介したニーズの紹介、取次が 12 件であり全体の 21%、②実証・検証に関わる相談及びフィールド(介護施設・リビングラボ等)の紹介が 24 件であり 42%、③製品、技術を有する開発企業、製品の普及・活用促進を行う企業の紹介、取次が5件であり9%だった。また、これらのエントリー企業のうち、全エントリー企業の 51%にあたる 29 企業は、介護分野への未参入企業であることから、本事業が介護分野への参入促進について一定程度寄与しているものと考えられる。

また、リビングラボにおける支援を含め、今年度のエントリー企業の傾向として、上市済の既存製品の改良に向けた支援の要望が散見された。このことから、主にソフトウェアの分野において培われてきたDevOps(開発チームと運用チームが連携して開発を進める手法)やアジャイル開発(実装とテストを繰り返して開発を進める手法)などの考え方が、介護テクノロジーの開発にも徐々に適応され始めていることが窺えた。

### **第3項 介護生産性向上総合相談センターの設置**

#### (1) 設置に向けた自治体の準備状況と課題

今年度事業では、自治体における介護生産性向上総合相談センターの設置準備の状況を把握することを目的とし、自治体担当者を対象とした連絡会議やアンケートおよびヒアリング調査を実施した(中央管理事業)。その結果、(令和5年度に開設する5自治体を除く)26自治体において、令和6年度の介護生産性向上総合相談センター新規開設に向けた準備を前向きに進められていることが分かった。

加えて、センター開設および運営における課題等も把握した。

#### 1) センターの開設準備における課題

- ・ センターの運営主体を担うことができる機関および人材が見当たらない
- ・ 地域の介護現場を支援するための、センターを軸としたネットワークの構築が困難
- ・ 介護現場における生産性向上の取組を適切に伴走支援できる人材・機関が見当たらない
- ・ 機器展示のためのスペースの確保が困難
- ・ センターの開設および運営に関する全般的な情報の不足

#### 2) センターの運営における課題

- ・ 地域におけるセンターの認知度が低く相談対応件数や研修会の参加者数が少ない
- ・ 現在の担当者に専門性が不足しており、より専門性を求められる相談や開発企業からの技術的な相談への対応が困難
- ・ 専門機関との連携・ネットワークが脆弱なため、相談内容に応じた他機関への適切な取次や連携が困難

## **第2節 今後必要と考えられる取組**

### **第1項 介護生産性向上総合相談センター設置・運営の支援**

中央管理事業において、介護生産性向上総合相談センター設置・運営に関する様々な課題が明らかになった。既にセンターを開設済の自治体、今後センター開設する自治体およびセンターの開設主体の多くは、まもなくこれらの課題に直面することになる。センターの前身である本事業の相談窓口では、いずれの窓口も開設当初に同様の課題に直面し、試行錯誤して今日の運営に至っている。本事業では事業の開始年度である令和2年からこれまで、支援事務局を設置し相談窓口の開設、運営を支援してきた。その過程で事務局もまた、試行錯誤を繰り返したノウハウは出来る限りツールや手引きとして形式知化するよう努めた。

今後の中央管理事業では、これらの支援ツールとともに、これまでに培った支援のノウハウを活用し、センターのより円滑な開設、運営をサポートしなければいけない。具体的には以下の取組が考えられる。

#### 【センター設置・運営の支援として考えられる取組】

- ・ 自治体担当者やセンターの開設主体を対象とした実態把握、および課題解決に向けた国等に求められる支援等の把握
- ・ 国と自治体、自治体間の意見交換および情報共有の場の設定
- ・ 介護事業所における生産性向上の取組支援の成功事例の共有・ケーススタディ、有識者を交えた意見交換等の人材育成の場の設定
- ・ プラットフォーム事業が有するネットワークとの連携促進

### 第2項 プラットフォーム事業を介した現場課題等の蓄積と分析

プラットフォーム事業で展開する相談窓口、リビングラボの各拠点は、介護現場および開発企業に向けられた“アンテナ”と考えることが出来る。即ち、各拠点に持ち込まれた相談内容を介して、生産性向上の取組や介護テクノロジーの開発、活用における現場課題の把握が可能である。したがって、今後のプラットフォーム事業では、適切な KPI (Key Performance Indicator) を設定するとともに、今後設置される介護生産性向上総合相談センターを対象に含めた情報集約・分析、各拠点へのフィードバックのスキームを確立する必要がある。具体的には、各取組の状況や相談内容を把握するための KPI を予め設定し、グループウェア等を介して各拠点から月1回程度のピッチで情報を集約する仕組みである。事務局はそれらの情報を地域軸や時系列で分析し、連絡会や勉強会を通じて各拠点にフィードバックする。この仕組みにより、各地域の特徴や傾向、各拠点に点在するノウハウや知見が見える化され、個々の拠点の対応力のみならず、プラットフォーム事業が有するネットワーク全体として対応力の強化、充実が期待できる。

### 第3項 介護現場を伴走的に支援する人材・組織の育成とネットワーク化

今年度の中央管理事業における調査では、介護現場を伴走的に支援する人材・組織の育成とネットワークに関する課題が明らかになった。介護分野における生産性向上の捉え方や考え方は近年になって整理された比較的新しい概念であるため、介護現場におけるこれら取組を伴走的に支援するための十分な専門的知見を有した人材や組織は未だ多くない。したがって、相談窓口や介護生産性向上総合相談センターの担当者を含め、介護現場の生産性向上や介護テクノロジーの導入活用の取組を支援できる人材・組織の育成およびネットワーク化が急務であると言える。このことから今後、支援人材、支援組織に求められる要件を明らかにすることを前提として、そのような人材・組織の育成、ネットワーク化に向けた取組が必要である。具体的には、プラットフォーム事業の業務アドバイザーやコンサルティング企業、自社製品を含む介護テクノロジーの導入活用を支援する開発企業等を対象とした説明会や勉強会の開催等が考えられる。

#### 第4項 モデル事業所の創出と取組の普及に向けた活用

今年度の各相談窓口における伴走支援では 54 つのモデル事業所が創出された。各モデル事業所は業務アドバイザー等による伴走支援を受け、生産性向上に向けた取組を成功体験として組織の中に蓄積し、多くの事業所ではこの経験をもとに次の新たな取組を自力で進めるものと考えられる。しかし、取組の普及の観点においては、これらのモデル事業所を地域のベンチマークとして取組を普及していく活動が求められる。具体的には、地域の介護事業所を対象とした成果報告会における発表や施設見学の受け入れ協力等である。今年度、各相談窓口では伴走支援によるモデル事業所の創出と成果報告会の開催は一体的に実施し普及の観点を取り入れた。来年度以降、生産性向上総合相談センターにおいても同様に、伴走支援によるモデル事業所の創出が見込まれるが、先述のような普及の観点を踏まえた取組も着目する必要がある。

なお、従来からモデル事業所を活用したと取組の普及に積極的な自治体では、成果報告会や事業所見学会に加えて、自治体独自の認定、認証、表彰に関する事業との連携も実施されており一定の成果を得ている。

#### 第5項 開発企業を伴走的に支援する体制の強化

リビングラボから「介護現場での実証を希望する企業は多い。しかし、実際に相談を受けると、実証を行うよりも前に、解決したい現場のニーズの明確化や、開発コンセプトの具体化が必要であることがわかり、実証に進むことができない場合がある」という意見が複数得られた。特に、介護分野に未参入の企業にとっては、これらのプロセスを自社のみで行うことは困難であると考えられる。今年度のニーズ・シーズマッチング支援事業へエントリーした企業のうち、約半数が未参入企業であることから、これらのプロセスを本事業で伴走的に支援を行うことが求められる。

ニーズ・シーズマッチング支援事業による介護現場のニーズとの取次やリビングラボの紹介、リビングラボによる相談対応・ラボ検証・実証と、開発企業のあらゆる開発プロセスに対して支援を行うことができる体制が構築されたところであるが、今後、ニーズ・シーズマッチング支援事業とリビングラボとがより一体となって、開発企業が抱える課題に対して伴走的に支援を行うことができる体制を強化することが必要である。

参考:これまでのプラットフォーム事業の取組から見る相談窓口の利用者像

中央管理事業で実施した調査では、複数の自治体の担当者から介護生産性向上総合相談センターの開設に際し「利用者の需要量やニーズが不透明である」といった声が寄せられた。そこで以下に、本事業の実績の一部を記載する。今後のセンター設置に向け、利用者増をイメージするための一助となれば幸いである。

##### (1) 介護事業者

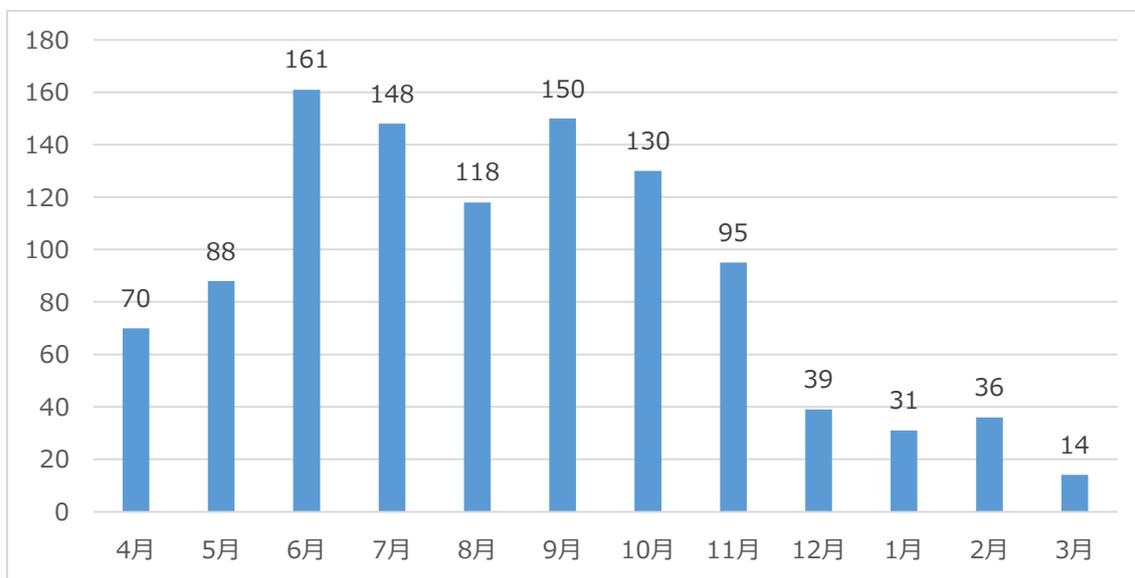
###### 1) 月別相談件数

ニーズ側の相談件数を月別に見ると6月から9月までの時期に比較的多い。これは、都道府県

の実施する補助金の公募が同時期に多いことから、補助金を申請するにあたっての情報収集と相談支援の需要が増えるためと考えられる。

図表 8-1 月別の相談件数

n=1080

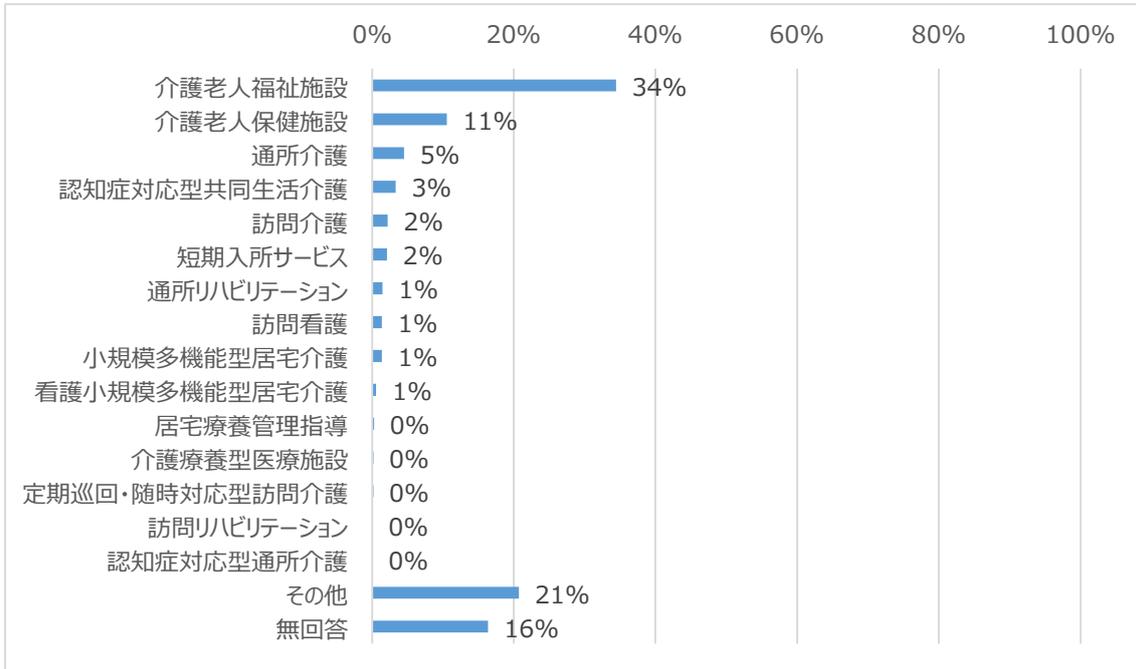


## 2) 介護サービス事業所の種別

ニーズ側における相談者が所属する介護サービス事業所種別では、介護老人福祉施設が 34%と最も多く、次いで介護老人保健施設が 11%となっている。また、通所介護が 5%と 3 番目に多く、訪問介護が 2%と 5 番目に多いことから、居宅系サービス事業所における介護ロボット等のテクノロジーの活用への気運の高まりが窺える。

図表 8-2 相談者が所属する介護サービス事業所の種別

n=1080

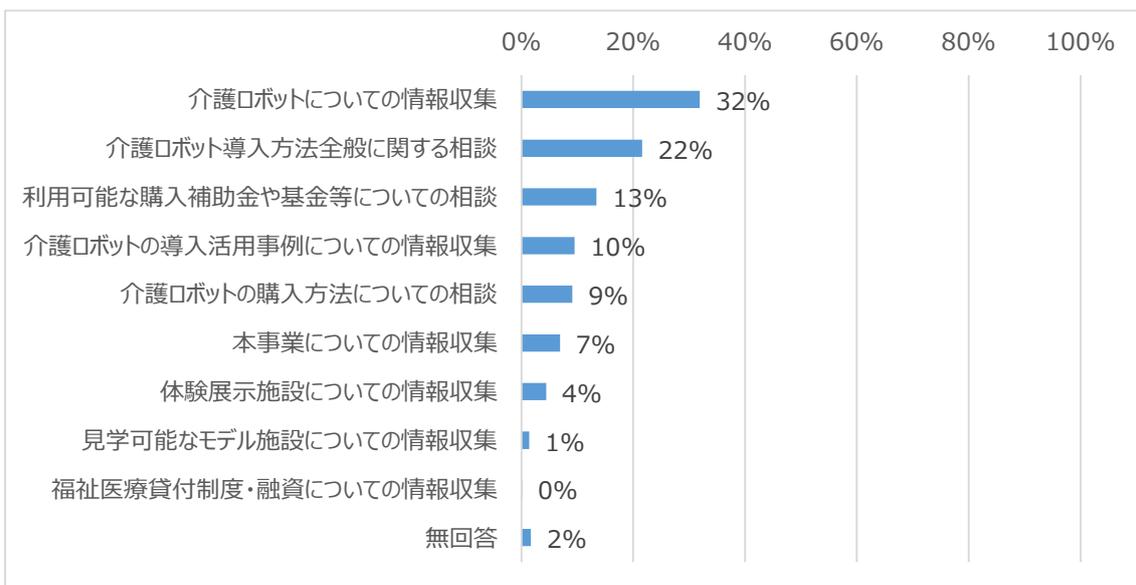


### 3) 相談内容

ニーズ側における相談内容の内訳では、「介護ロボットについての情報収集」が 32%と最も多く、次いで「介護ロボット導入方法全般に関する相談」が 22%となっている。このことから、多くの介護事業所ではまだ介護ロボットの導入が具体化されておらず、興味や関心があるといった状態に留まっていることが推測される。

図表 8-3 相談内容の内訳

n=1080(複数回答)

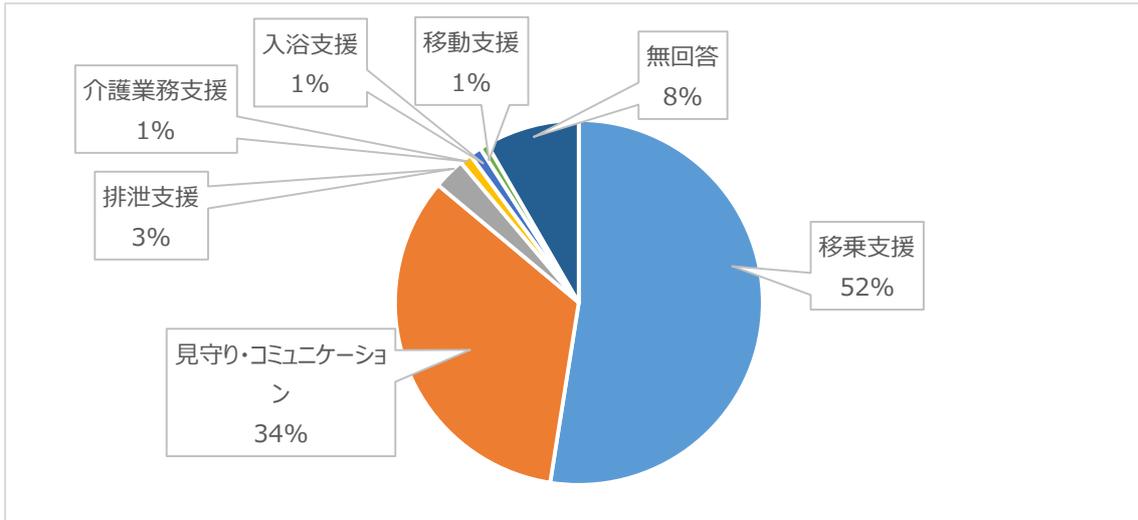


#### 4) 試用貸出における介護ロボットの種類

試用貸出について、テクノロジーの分野別に見ると移乗支援が 52%と最も多く、次いで見守り・コミュニケーションが 34%となっており、腰痛予防や要介護者の見守りといった分野への需要が高いことが把握できた。

図表 8-4 試用貸出における介護ロボットの種類

n=575

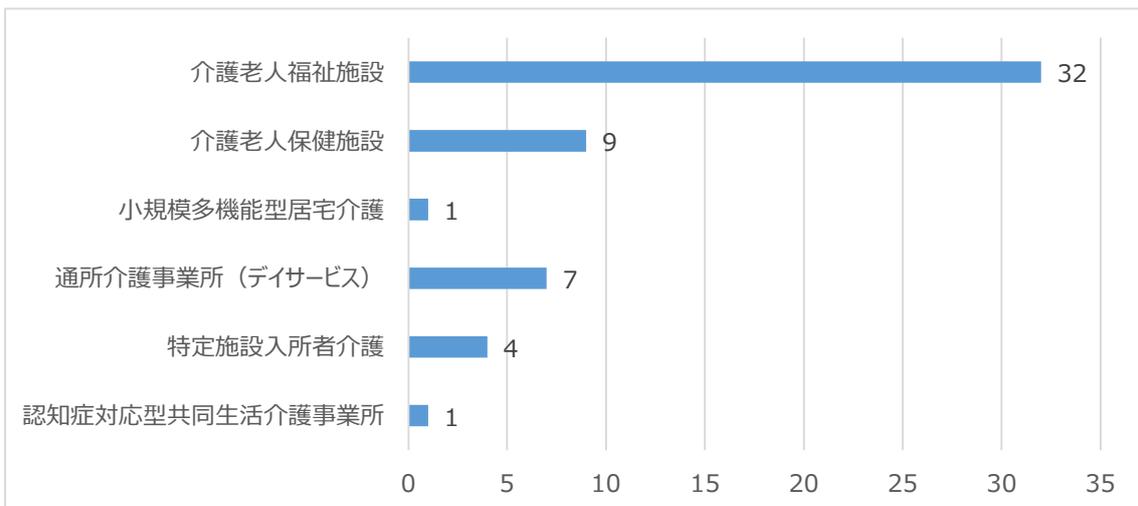


#### 5) モデル事業所のサービス種別

本年度は全相談窓口で 54 事業所の伴走支援によるモデル事業所を創出した。サービス種別で見ると介護老人福祉施設が 32 事業所と最も多く、次いで介護老人保健施設が 9 事業所、通所介護事業所が 7 事業所であった。

図表 8-5 モデル事業所のサービス種別

n=54



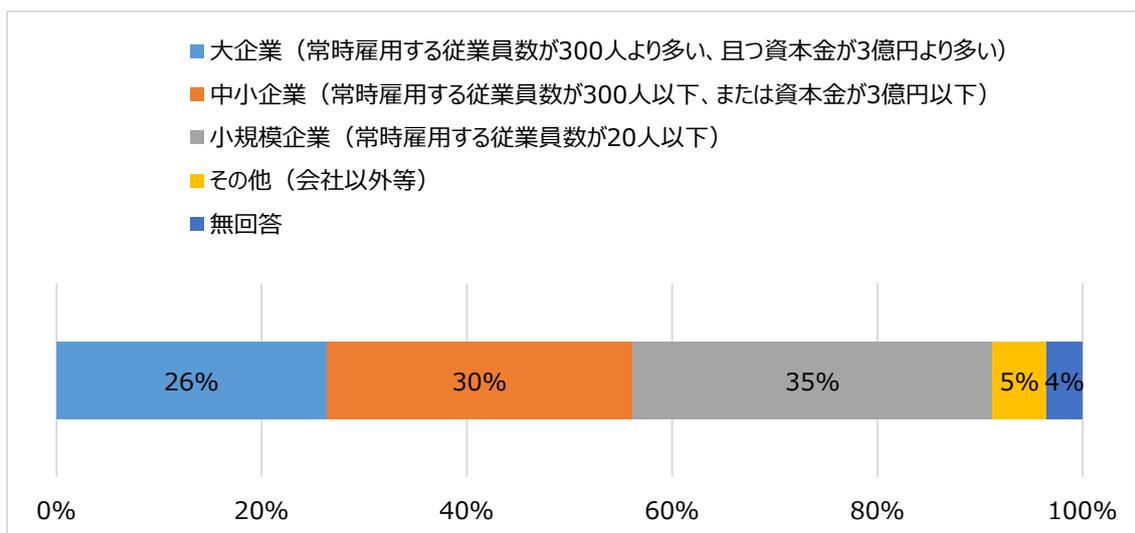
## (2)開発企業

### 1)企業規模

本年度、ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業の企業規模の分布は以下のとおり。大企業、中小企業、小規模企業のいずれも本事業を利用した。

図表 8-6 ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業の企業規模

n=57

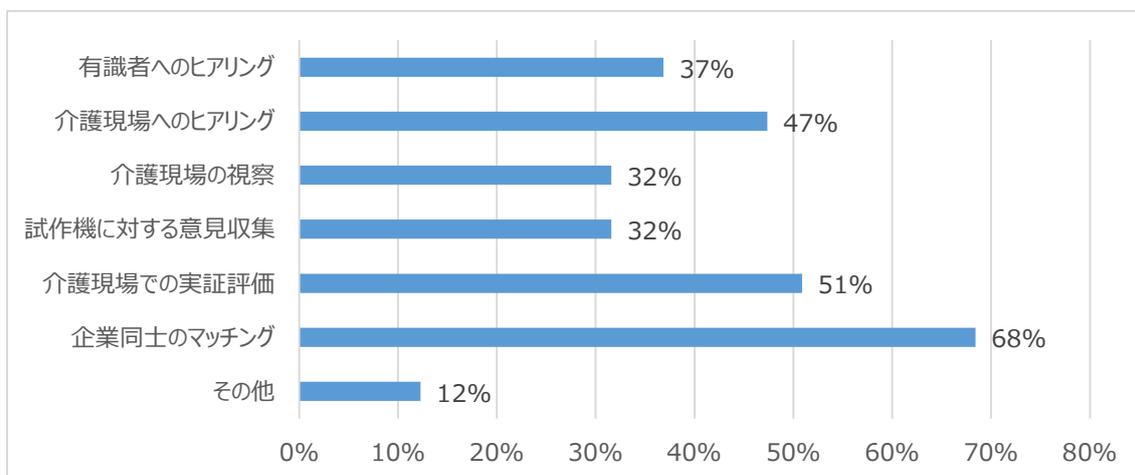


### 2)開発企業の希望

本年度、ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業が希望した支援は以下のとおり。「企業同士のマッチング」「介護現場での実証評価」「介護現場へのヒアリング」を希望する企業の割合が高かった。

図表 8-7 ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業が希望する支援の種類

n=57(複数回答)

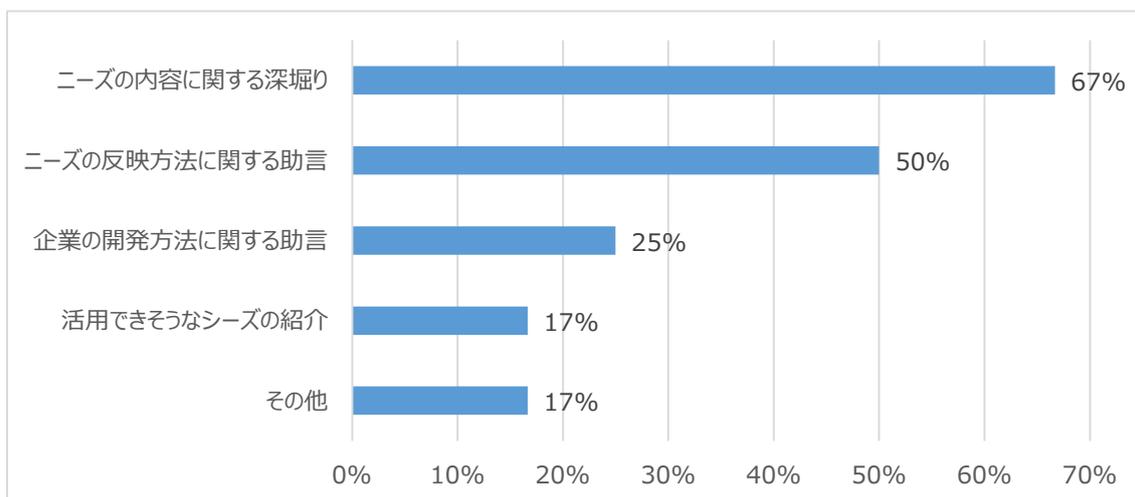


### 3) 開発企業の相談内容と有益であった助言

本年度、ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業が、マッチング支援①においてマッチングサポーターに相談した内容は以下のとおり。「ニーズの内容に関する深掘り」「ニーズの反映方法に関する助言」を求めて相談を行った企業の割合が高かった。

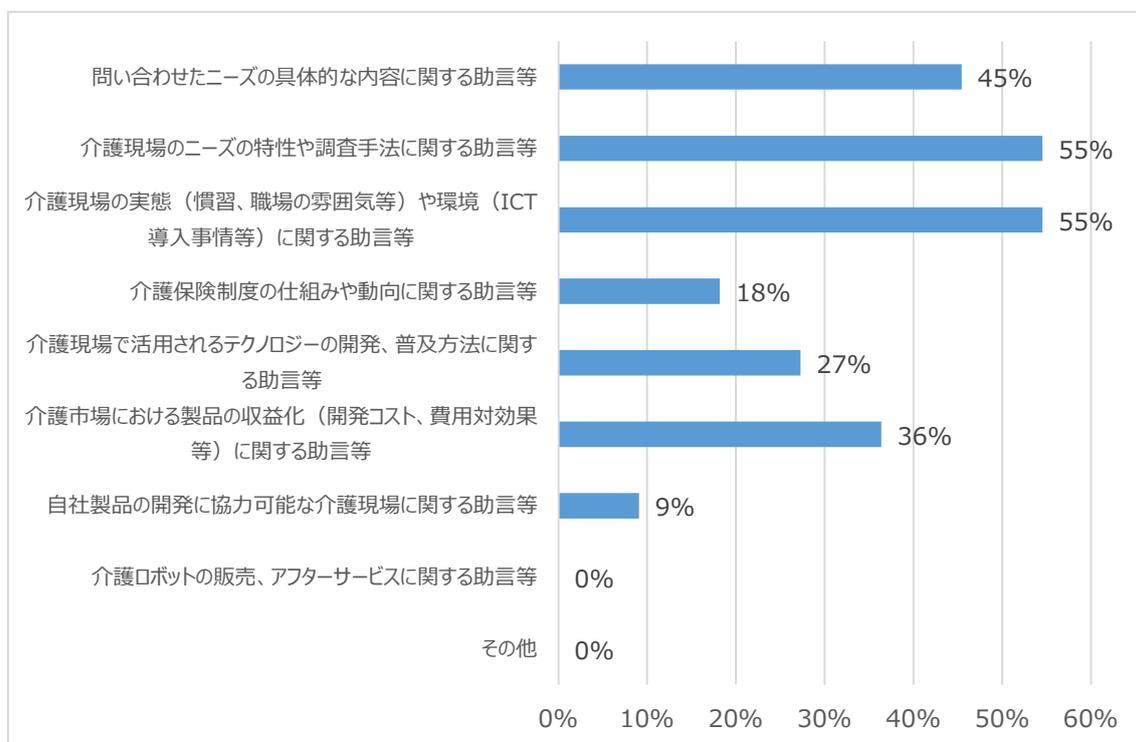
図表 8-8 ニーズ・シーズマッチング支援事業 マッチング支援①における相談内容

n=12(複数回答)



また、上記の企業が有益だと感じたマッチングサポーターの助言は以下のとおり。「介護現場のニーズの特性や調査手法に関する助言等」「介護現場の実態(慣習、職場の雰囲気等)や環境(ICT導入事情等)に関する助言等」を有益だと感じた企業が多かった。

図表 8-9 ニーズ・シーズマッチング支援事業 マッチング支援①を実施した企業が有益だと感じた助言  
n=11(複数回答)

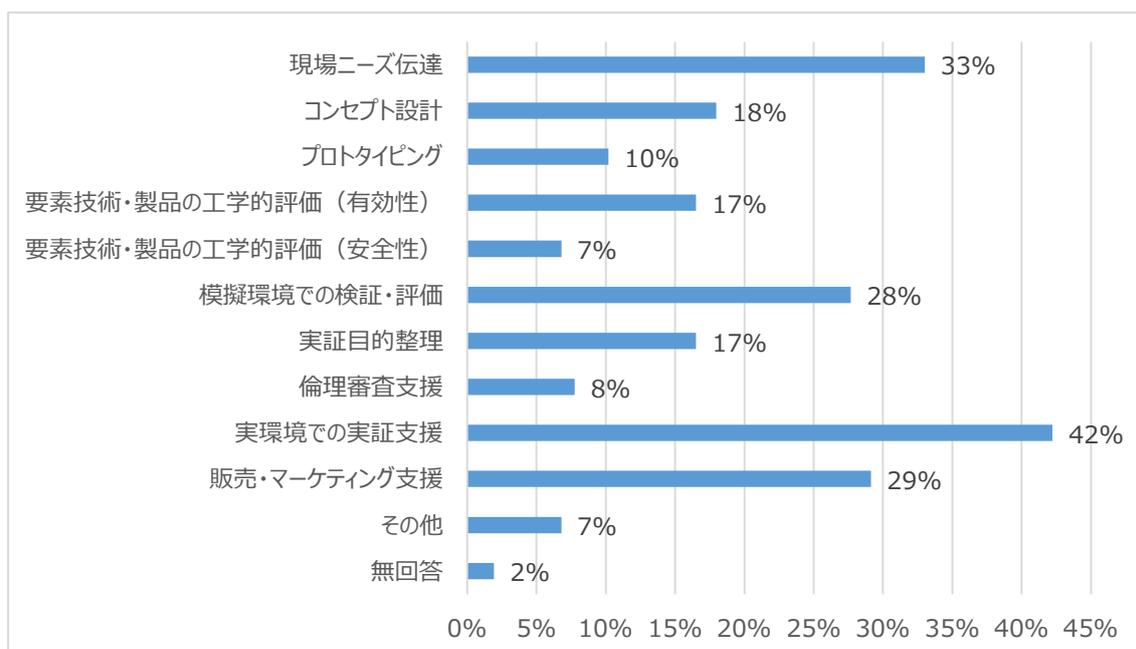


#### 4) 開発企業の相談目的とリビングラボの対応内容

本年度、リビングラボの相談対応数に対する相談目的の内訳は以下のとおり。「実環境での実証支援」「現場ニーズ伝達」「販売・マーケティング支援」を目的とした相談が多かった。

図表 8-10 リビングラボへの相談目的の割合

n=206 (複数回答)



また、本年度、リビングラボにて実施した対応内容は以下のとおり。「コンセプト設計」「実証支援」「有効性評価」の対応を行った割合が高かった。

図表 8-11 リビングラボでの対応内容の割合

n=206 (複数回答)

